J

RX-V3067

AV レシーバー

取扱説明書

ご使用の前に本書の「安全上のご注意」（☞p. 4 ～ p. 6）を必ずお読みください。

この製品には本書のほかに「簡易接続・操作ガイド」が付属しています。はじめに「簡易接続・操作ガイド」をご覧ください。

本書の「簡易ガイド」表記は、「簡易接続・操作ガイド」への参照を表します。

本書および「簡易接続・操作ガイド」は下記の URL から PDF 版をダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

目次

簡易接続・操作ガイド（別紙）

本機の特長

接続する

再生する

設定する

付録

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「〜しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。
- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のご注意

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

注意

電源/電源コード

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意

必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

お手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

本機の特長

本機の特長とできること

本機では多くの機能について、テレビ画面のメニューから操作が行えます。
テレビに表示される画面で行える操作について、詳しくは次ページの「テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）から操作する」をご覧ください。

本書について

- 本書は製品の生産に先がけて作成されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 「8 **ON SCREEN**」（例）などの表記は、リモコンキーの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、本書の**「リモコン」**（☞p.14）をご覧ください。
- 「💡**1**」などの表示は参考情報の参照を表します。対応する番号の説明をご覧ください。
- 「☞」は、関連情報が記載されているページを表します。
- 「簡易ガイド」は、簡易接続・操作ガイドへの参照を表します。

テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）から操作する

本機はオンスクリーンディスプレイをテレビ画面に表示します。オンスクリーンディスプレイを使うことでシンプルで直感的な操作が行えます。

オンスクリーンディスプレイは、そのとき選んでいる入力ソースについて表示するコンテンツ画面と、さまざまな設定などを行う ON SCREEN（オンスクリーン）、オプションという２つのメニューから構成されています。
ここではオンスクリーンディスプレイから行えるさまざまな操作について紹介します。

ON SCREEN メニューの基本操作

選んでいる入力ソースを表示、変更する（コンテンツ画面）

本機のさまざまな設定を行う（ON SCREEN メニュー）

入力ソースごとに調節する（オプションメニュー）

各部の名称

フロントパネル

① MAIN ZONE ⏻（電源）キー
電源のオン / スタンバイを切り替えます。

② HDMI スルー /iPod チャージインジケーター
本機がスタンバイのとき、下記のいずれかの動作をすると点灯します。

- スタンバイスルー機能（☞p.96）をオンにしている場合。
- iPod スタンバイ時充電機能（☞p.80）をオンにして、ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックにセットした iPod/iPhone を充電している場合。
  ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステムが接続されている場合は常に点灯します（☞p.72）。
- ネットワークスタンバイ（☞p.97）をオンにしている場合

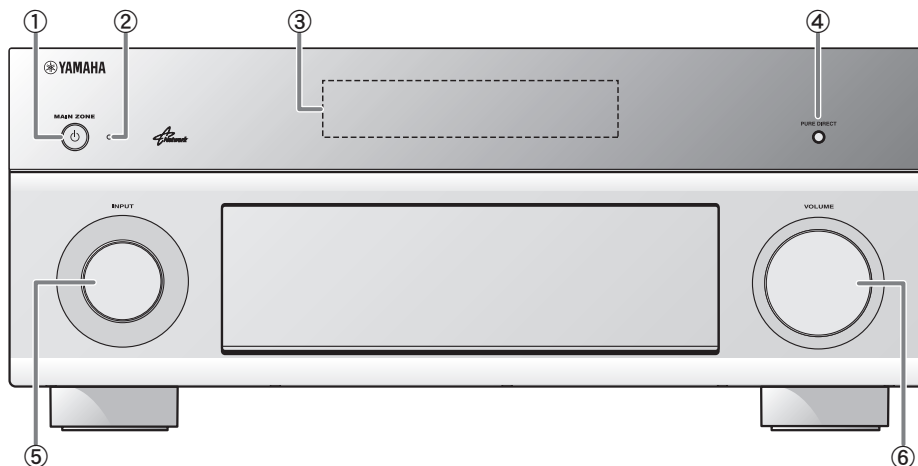
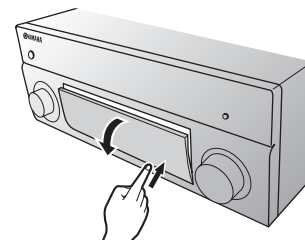
③ フロントパネルディスプレイ
本機の各種情報が表示されます（☞p.13）。

④ PURE DIRECT（ピュアダイレクト）キー
本機をピュアダイレクトモードに切り替えます（☞p.51）。

⑤ INPUT（インプット）セレクター
再生する入力ソースを選びます。セレクターを回すたびに入力ソースが順番に変わります。

⑥ VOLUME（ボリューム）
音量を調節します。

● フロントパネルのカバーを開閉する

フロントパネル内部のボタンや端子を使用するには、フロントパネル下部をそっと押してパネルを開いてください。使用しないときは、パネルを閉じておいてください。

フロントパネル（カバーオープン時）

⑦ ON SCREEN（オンスクリーン）キー
ON SCREEN メニューのオン / オフを切り替えます。

⑧ OPTION（オプション）キー
オプションメニューのオン / オフを切り替えます。(☞p.56)

⑨ TONE/BALANCE（トーン / バランス）キー
各ゾーンのスピーカー / ヘッドホン出力の高音 / 低音を調節します。
ヘッドホンを接続している場合はヘッドホンの高音 / 低音調節、ヘッドホンを接続していない場合はスピーカーの高音 / 低音を調節できます（☞p.47）。
ゾーン 2、3、4 で、左右チャンネルの音量バランスを調整します。(☞p.117)

⑩ STRAIGHT（ストレート）キー
サウンドプログラムをストレートデコードモードに切り替えます（☞p.50）。

⑪ PROGRAM ◁ / ▷（プログラム）キー
使用する音場効果（サウンドプログラム）を切り替えます（☞p.49）。左右キーを押すたびに、サウンドプログラムが順番に変わります。

⑫ SCENE1-4（シーン 1-4）キー
ボタン 1 つで登録した入力ソース、サウンドプログラム、HDMI 出力端子などの設定に切り替えます（☞p.48、p.81）。電源がスタンバイのときは、このキーを押して電源オン、入力ソース選択、サウンドプログラム切り替えまでを一括操作できます。

⑬ MULTI ZONE（マルチゾーン）キー
ZONE2、ZONE3、ZONE4（ゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4）キー
ゾーン 2、3、4 への音声・映像出力オン / オフを切り替えます（☞p.116）。
ZONE CONTROLS（ゾーンコントロール）キー
ゾーン 2、3、4 への出力がオンのとき、本機をゾーン 2、3、4 が操作できる状態に切り替えます。本機またはリモコンで別の部屋の入力ソース選択や音量調整が行えます（☞p.116）。

⑭ INFO（インフォ）キー
フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替えます（☞p.13）。

⑮ MEMORY（メモリー）キー
FM/AM 放送局をプリセット局として登録します（☞p.61）。

⑯ FM キー
FM/AM チューナーのバンドを FM に切り替えます（☞p.61）。

⑰ AM キー
FM/AM チューナーのバンドを AM に切り替えます（☞p.61）。

⑱ PRESET く / ＞（プリセット）キー
プリセットした FM/AM 放送局を選びます（☞p.62）。

⑲ カーソルキー △ / ▽ / ◁ / ▷、ENTER（エンター）キー、RETURN（リターン）キー
カーソルキー △ / ▽ / ◁ / ▷
設定メニューなどを表示した際に、メニュー項目を選択したり、設定値を変更します。
ENTER（エンター）キー
選択された項目を決定します。
RETURN（リターン）キー
設定メニューを表示した際、1 つ手前の表示に戻したり、メニュー表示を終了します。

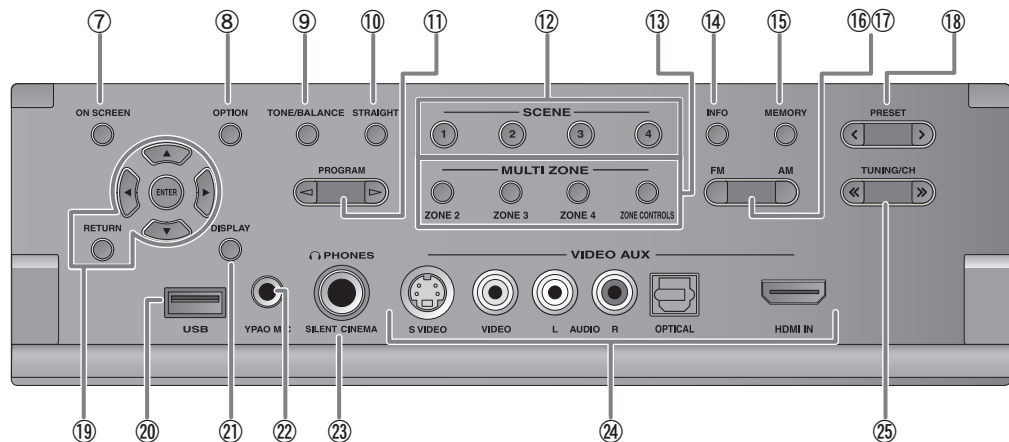
⑳ USB ポート
USB メモリや USB 携帯音楽プレーヤーを接続します（☞p.38）。

㉑ DISPLAY（ディスプレイ）キー
再生画面とブラウズ画面を切り替えます。

㉒ YPAO MIC（YPAO マイク）端子
付属の YPAO マイクを接続して、スピーカー設定を自動で最適化します（☞p.39、簡易ガイド）。

㉓ PHONES（フォーンズ）端子
ヘッドホンを接続します。音場効果をかけて再生しているときは、ヘッドホンの音声にも音場効果がかかります。

㉔ VIDEO AUX（ビデオ AUX）端子
ゲーム機などを一時的に接続できます。

㉕ TUNING/CH ≪ / ≫（チューニング / チャンネル）キー
FM/AM チューナーの周波数を増減させます（☞p.61）。

リアパネル

① **PHONO（フォノ）端子**
レコードプレーヤーを接続します（☞p.33）。

② **DOCK（ドック）端子**
別売のヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（YDS-12 など）や iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）を接続します（☞p.70、p.72、p.74）。

③ **NETWORK（ネットワーク）ポート**
ネットワーク接続用のポートです（☞p.37）。

④ **HDMI OUT1-2（HDMI アウト 1-2）端子**
HDMI 入力対応のテレビと接続し、映像 / 音声を出力します（☞p.27、簡易ガイド）。Audio Return Channel 機能（☞p.29）を使用したときは、この端子からテレビの音声が入力されます。

⑤ **MON.OUT/ZONE OUT(モニターアウト / ゾーンアウト）端子（S ビデオ / ビデオ端子）**
S ビデオ / ビデオ入力対応のテレビと接続し、映像を出力します（☞p.28）。

⑥ **D4 VIDEO（D4 ビデオ）端子**
D 端子のある外部機器を接続し、映像を入力します。

⑦ **COMPONENT VIDEO（コンポーネントビデオ）端子**
コンポーネントビデオ出力を持つ外部機器を接続し、映像を入力します（☞p.28）。

⑧ **HDMI 入力端子**
HDMI 出力対応の外部機器を接続し、映像 / 音声を入力します（☞p.32、簡易ガイド）。

⑨ **MONITOR OUT/ZONE OUT（モニターアウト / ゾーンアウト）端子（コンポーネントビデオ端子）**
コンポーネントビデオ入力対応のテレビと接続し、映像を出力します（☞p.28）。

⑩ **REMOTE IN/OUT1-2(リモートイン / アウト 1-2）端子**
リモート機能に対応する外部機器を接続します（☞p.36）。

⑪ **TRIGGER OUT1-2（トリガーアウト 1-2）端子**
本機と連動して動作するトリガー接続機能を搭載した外部機器を接続します（☞p.36）。

⑫ **RS-232C 端子**
サービス用の端子です。通常は使用しません。

⑬ **AV1-4 端子**
映像 / 音声出力を持つ外部機器を接続し、映像 / 音声を入力します（☞p.32）。

⑭ **ANTENNA（アンテナ）端子**
FM アンテナと AM アンテナを接続します。

⑮ **AV OUT（AV アウト）端子**
本機に入力された映像 / 音声を外部へ出力します（☞p.37）。

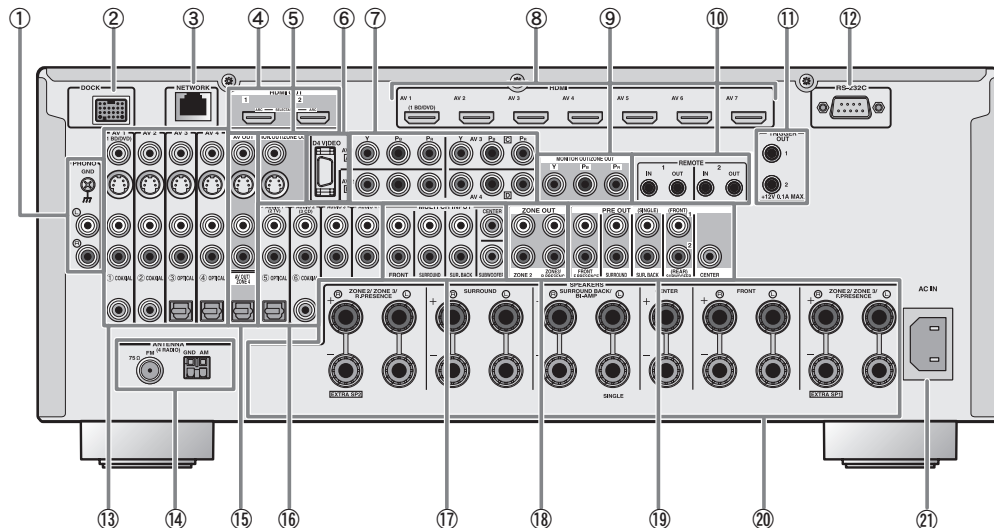
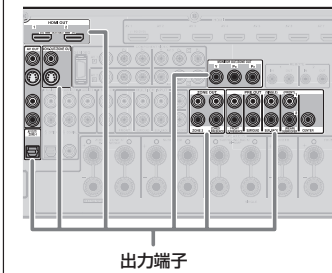
⑯ **AUDIO1-4（オーディオ 1-4）端子**
音声出力を持つ外部機器と接続し、音声を入力します（☞p.33）。

⑰ **MULTI CH INPUT（マルチチャンネルインプット）端子**
マルチチャンネル出力を持つ再生機器と接続します（☞p.35）。

⑱ **ZONE OUT（ゾーンアウト）端子**
別の部屋に設置した外部アンプへ本機の音声信号を出力します（☞p.116）。

⑲ **PRE OUT（プリアウト）端子**
アンプ内蔵のサブウーファーを接続したり（☞ 簡易ガイド）外部パワーアンプなどを接続します（☞p.25）。

⑳ **SPEAKERS（スピーカー）端子**
フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーを接続します（☞ 簡易ガイド）。
フロント／リアプレゼンススピーカー（☞p.17）やゾーン 2、ゾーン 3 に設置するスピーカー（☞p.20）は EXTRA SP 端子に接続します。

㉑ **AC IN（AC イン）端子**
電源コードを接続します（☞ 簡易ガイド）。

入出力端子の見分け方
映像/音声出力端子の周辺は、誤接続を防ぐために白くマークされています。テレビや外部機器への映像/音声出力はこれらの端子をご使用ください。

フロントパネルディスプレイ

① **チューナーインジケーター**
FM/AM 放送を受信すると「TUNED」が点灯します。ステレオで受信しているときは「STEREO」が点灯します。

② **ZONE2/ZONE3/ZONE4(ゾーン2、ゾーン3、ゾーン4)インジケーター**
本機からゾーン 2、3、4 への映像 / 音声出力が有効となっているときに点灯します（☞p.116）。

③ **SLEEP（スリープ）インジケーター**
スリープタイマー（☞p.15）が動作すると点滅します。

④ **PARTY（パーティー）インジケーター**
パーティーモードがオンになっているときに点灯します（☞p.98）。

⑤ **マルチインフォメーションディスプレイ**
設定値や設定メニューなど各種情報が表示されます。

⑥ **VOLUME（ボリューム）インジケーター**
現在の音量を表示します。

⑦ **HDMI インジケーター**
正常に HDMI 信号が入力されると点灯します。

IN インジケーター
本機が HDMI 入力端子に接続されている外部機器を検出すると点灯します。（☞p.26）

OUT 1/OUT 2 インジケーター
HDMI OUT 端子（☞ 簡易ガイド）から音声 / 映像信号が出力されると点灯します。

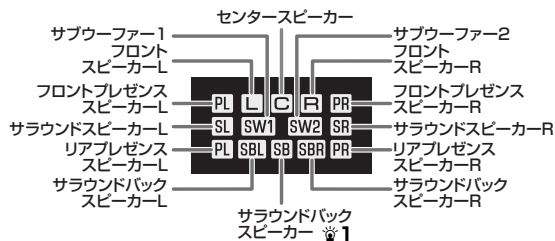
⑧ **ENHANCER（エンハンサー）インジケーター**
コンプレストミュージックエンハンサーが有効になっているときに点灯します（☞p.51）。

⑨ **CINEMA DSP（シネマ DSP）インジケーター**
シネマ DSP 技術を使った音場効果を選ぶと点灯します。

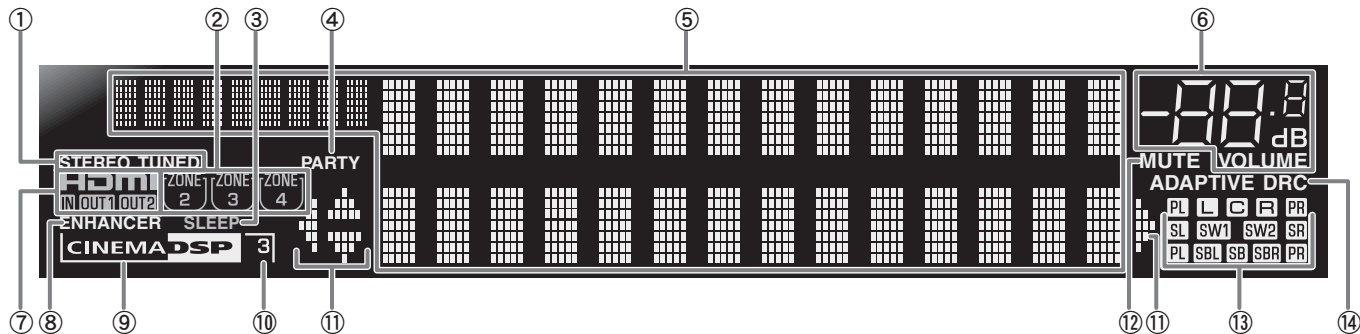
⑩ **CINEMA DSP 3D(シネマ DSP 3D)インジケーター**
シネマ DSP 3D モードまたはシネマ DSP³（シネマディーエスピーキュービック）モードがオンになっているときに点灯します（☞p.51）。

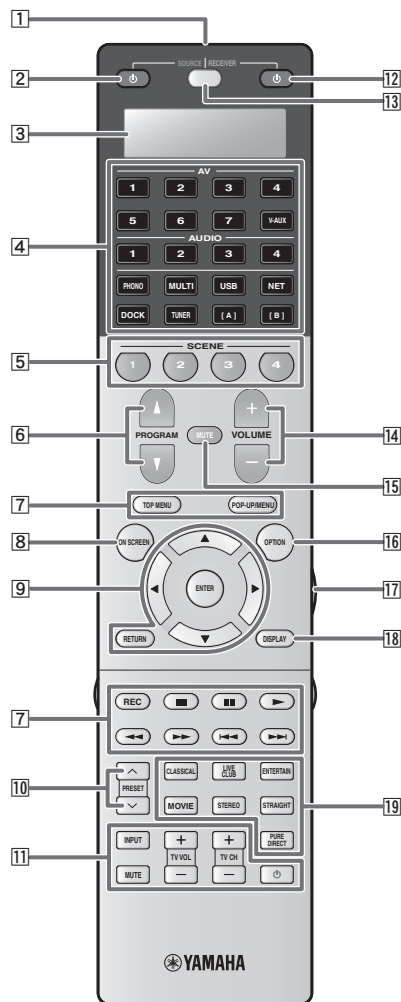
⑪ **カーソルインジケーター**
リモコンの 9 **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷ を操作可能な場合に、キーに対応するインジケーターが点灯します。

⑫ **MUTE（ミュート）インジケーター**
本機を消音すると点滅します。

⑬ **スピーカーインジケーター**
音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

⑭ **ADAPTIVE DRC インジケーター**
Adaptive DRC がオンになっているときに点灯します（☞p.58）。

● フロントパネルディスプレイの表示を切り替えるには

フロントパネルディスプレイには、選択中の入力ソース名以外に、サウンドプログラム名やサラウンドデコーダー名などを表示できます。表示を切り替えるには、リモコンの 21 **INFO** を繰り返し押します。キーを押すたびに表示される情報が切り替わります。2

1 :「SB」は 6.1 チャンネル構成で使用しているときにのみ表示されます。
2 : FM/AM チューナーの使用中は、入力ソース名の代わりに FM/AM 周波数が表示されます。

リモコン

1 **リモコン信号送信部**
赤外線を送信します。

2 **SOURCE ⏻（ソース電源）キー**
外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

3 **ディスプレイウィンドウ**
リモコン情報を表示します。

4 **入力ソース選択キー**
本機で再生する入力ソースを選びます。

AV1-7	：AV1-7 端子
V-AUX	：フロントパネルの VIDEO AUX 端子
AUDIO1-4	：AUDIO1-4 端子
PHONO	：PHONO 端子
MULTI	：MULTI CH INPUT 端子
USB	：USB ポート
NET	：NETWORK ポート
DOCK	：DOCK 端子
TUNER	：ANTENNA（アンテナ）端子
[A]/[B]	：入力を変更せずに、7**外部機器操作キー**で操作できるように外部機器を変更します。💡1

5 **SCENE（シーン）キー**
ボタン 1 つで入力ソースとサウンドプログラムを切り替えます（☞p.48）。本機の電源がスタンバイのときは、このキーを押して、電源オン、入力ソース選択、サウンドプログラム切り替えまでを一括操作できます。

6 **PROGRAM △ / ▽（シーン）キー**
サウンドプログラムを選択します(☞p.49)。アップまたはダウンキーを何度か押して、サウンドプログラムをスクロールします。

7 **外部機器操作キー**
外部機器の録画 / 再生、メニュー表示などを操作します(☞p.106)。💡1

8 **ON SCREEN（オンスクリーン）キー**
さまざまな設定が行える ON SCREEN メニューを呼び出します（☞p.54）。

9 **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ キー、ENTER（エンター）キー、RETURN（リターン）キー**

カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷	：設定メニューなどで上下左右を選択します。
ENTER	：選択された項目を決定します。
RETURN	：設定メニューを表示した際、1 つ手前の表示に戻したり、メニュー表示を終了します。

10 **PRESET ∧ / ∨**
FM/AM 受信中に、登録されたプリセット局を呼び出します。

11 **TV 操作キー**
テレビなどの機器を操作します。

12 **RECEIVER ⏻（レシーバー電源）キー**
本機のオン / スタンバイを切り替えます。

13 **SOURCE/RECEIVER（ソース / レシーバー）キー**
リモコンで本機か接続されている外部機器のどちらを操作するかを切り替えます。外部機器操作のときはキーが緑、本機を操作できるときはキーがオレンジ色に点灯します。

14 **VOLUME（ボリューム）+/– キー**
音量を調節します（☞p.47）。

15 **MUTE（ミュート）キー**
音声出力の消音 / 消音解除を切り替えます（☞p.47）。

16 **OPTION（オプション）キー**
オプションメニュー（☞p.56）を表示します。

17 **LIGHT（ライト）キー**
このキーを押している間照光式のボタンが点灯します。

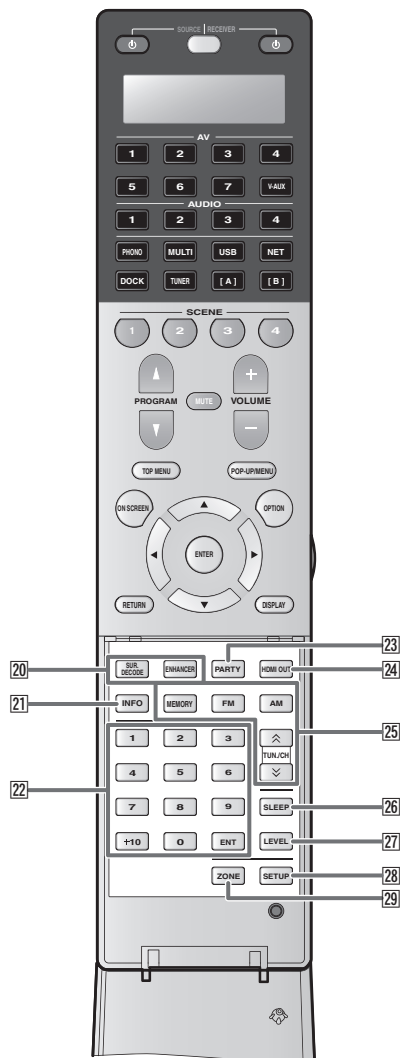
18 **DISPLAY（ディスプレイ）キー**
再生画面とブラウズ画面を切り替えます。

19 **音場選択キー**
使用する音場効果（サウンドプログラム）やサラウンドデコーダーなどを選択します（☞p.49）。

次の症状が現れた場合は、新しい乾電池に交換してください。
- リモコンの操作範囲がせまくなった。
- 13**SOURCE/RECEIVER** が光らない、または光らなくなった。

13**SOURCE/RECEIVER**

💡 **1：** 本機のリモコンは、入力ソースごとに 7**外部機器操作キー**などを使って登録した機器を操作できます。外部機器を操作するには、あらかじめ各入力ソースにリモコンコードを登録する必要があります（☞p.106）。

リモコン（カバーオープン時）

⑳ **音場選択キー**
使用するサラウンドデコーダー、コンプレストミュージックエンハンサーの機能を選択します（☞p.49）。

㉑ **INFO（インフォ）キー**
フロントパネルディスプレイに表示する情報（選択中の入力ソース名、サウンドプログラム、サラウンドデコーダー、FM/AM チューナーの周波数など）を切り替えます。

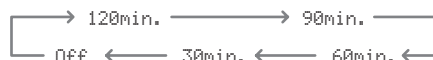
㉒ **数字キー**
数値を入力します。

㉓ **PARTY（パーティー）キー**
パーティーモードのオン / オフを切り替えます（☞p.98）。

㉔ **HDMI OUT（HDMI アウト）キー**
本機から音声 / 映像信号出力する HDMI OUT 端子を切り替えます。

㉕ **チューナーキー**
FM/AM チューナーを操作します。これらのキーはチューナー入力のときに使用できます。

MEMORY	：放送局をプリセット登録します。
FM AM	：FM/AM チューナーのバンドを切り替えます。
TUN./CH ︿ / ﹀	：FM/AM チューナーの周波数を増減させます。

㉖ **SLEEP（スリープ）キー**
指定した時間が経過すると自動でスタンバイになるよう設定します（スリープタイマー）。キーを繰り返し押すと、スタンバイまでの時間を設定できます。

㉗ **LEVEL（レベル）キー**
各スピーカーへの出力レベルを調整します（☞p.91）。

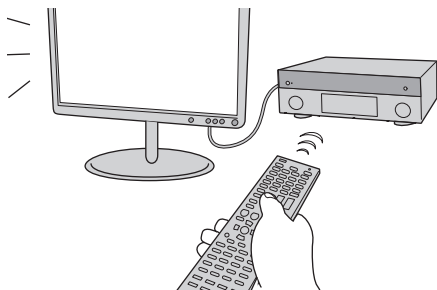
㉘ **SETUP（セットアップ）キー**
このリモコンの設定を行います（☞p.106）。

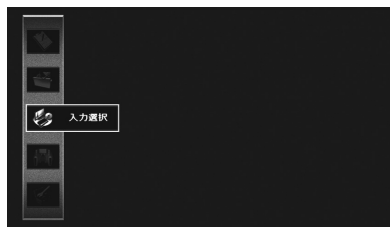
㉙ **ZONE（ゾーン）キー**
リモコンでメイン音場とゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4（☞p.116）のいずれを操作するかを切り替えます。

● リモコンカバーを開閉する

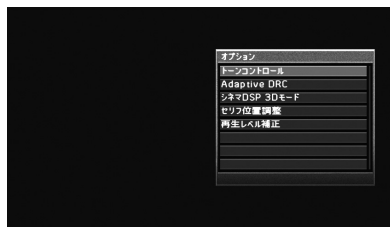
リモコンの両サイドにあるタブを指で持ち、カバーを引いて開きます。

テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）について

本機にテレビを接続している場合は、付属のリモコンでテレビ画面に表示されるメニューを操作して本機の操作や設定が行えます。

オンスクリーンディスプレイには次のような画面が表示されます。

● オンスクリーン（ON SCREEN）メニュー

⑧**ON SCREEN**を押すと表示されます。本機のさまざまな設定、操作を行えます。このメニューを使って入力ソースやサウンドプログラムなどの選択、さまざまな設定の変更、本機の状況表示などが行えます。

詳しくは**「設定する」**（☞p.78）をご覧ください。

● オプションメニュー

⑯**OPTION** を押すと表示されます。そのとき選んでいる入力ソースごとによく使う設定を個別で行えます。「トーンコントロール」や「再生レベル補正」などはすべての入力ソースに対して共通で設定されます。

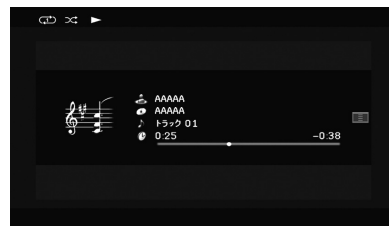
詳しくは**「入力ソースごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー)」**（☞p.56）をご覧ください。

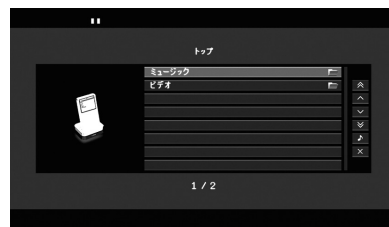
● コンテンツ画面

本機で DOCK（iPod）やチューナーなどの入力ソースを再生するときは、楽曲 / 放送局の情報表示や再生操作を行える画面をテレビに表示します。

この画面を**「コンテンツ画面」**と呼び、④**入力ソース選択キー**を押すと表示されます。

コンテンツ画面には**「再生画面」**と**「ブラウズ画面」**という 2 つの表示があり、表示を切り替えて楽曲などを選んだり、再生操作を行います。

再生画面

そのとき再生している楽曲などの情報を表示します。この画面からリモコンで再生操作ができます。

ブラウズ画面

入力ソースの楽曲や登録されている放送局などがリスト表示されます。リストから再生したい楽曲や放送局を選びます。

接続する

スピーカーの配置、スピーカーや外部機器との基本的な接続については**「簡易接続・操作ガイド」**をご覧ください。本書では応用接続 / 設定を説明します。

スピーカー / サブウーファーを接続する

本機は、さまざまな音場効果やサラウンドデコーダーを使って、著名なコンサートホールの包みこまれるような響きや映画館の迫力と臨場感を再現できます。これらの効果は、使用環境に合わせて適切にスピーカーを設置 / 接続することで実現されます。

チャンネルと機能

フロントスピーカー L/R

再生するソースのフロントチャンネル L/R の音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。
フロントスピーカーは、リスニングルーム前方の左右へ、リスニングポジションから等距離に設置します。プロジェクターの場合は、スクリーンの下辺から 4 分の 1 位の高さが適切です。

センタースピーカー

再生するソースのセンターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
センタースピーカーは、フロントスピーカー L/R の中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。プロジェクターの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

サラウンドスピーカー L/R

5.1 チャンネル以上のソースのサラウンドチャンネルの音声と効果音を出力します。サラウンドバックチャンネルを含む 6.1 チャンネル以上のソースをサラウンドバックスピーカーなしで再生した場合、サラウンドバックチャンネルの音声は、左右のサラウンドスピーカーに振り分けられて出力されます。

サラウンドバックスピーカー L/R

6.1 チャンネル以上のソースの後方の効果音を出力します。7.1チャンネル以上のソースを1本のサラウンドバックスピーカーで再生した場合、サラウンドバックの左右の音声がミックスされ 1 つのスピーカーから出力されます。

プレゼンススピーカー L/R

フロントプレゼンススピーカーからは、再生するソースの前方からの効果音を出力します。サウンドプログラム（☞p.49）と組み合わせることで、より豊かな音声と音場空間を再現できます。
さらにリアプレゼンススピーカーを使って、シネマ DSP³（シネマディーエスピーキュービック）モードをオンにすると、音声の「高さ」が正確に表現され、より立体的で緻密な音声効果を楽しめます（☞p.51）。
フロントプレゼンスはフロントスピーカーから 0.5 ～ 1m 以上、床から 1.8m 以上離して配置します。リアプレゼンスはサラウンドバックスピーカーとサラウンドスピーカーの間に、床から 1.8m 以上離して配置します。

サブウーファー

Dolby Digital、DTS、AAC などに含まれる LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドなどその他チャンネルの低音を出力します。サブウーファーはアンプ内蔵のものをご使用ください。💡**1**
サブウーファーは、リスニングルーム前方のフロントスピーカー L/R の外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。サブウーファーは 2 台まで接続できます。また、2 台接続する場合の配置を「左右配置」、「前後配置」、「モノラル 2 台」から選択することができます（☞p.90）。

スピーカー / サブウーファーの接続

スピーカー

スピーカーの数に応じて**「①スピーカー / サブウーファーを接続する」**（☞ 簡易ガイド）の「スピーカー / サブウーファーの接続」にある手順から以下の表を参照して接続してください。

スピーカーの数	スピーカーの種類	接続手順
2	フロントスピーカー L/R	1
3	フロントスピーカー L/R、 センタースピーカー	1、2
4	フロントスピーカー L/R、 サラウンドスピーカー L/R	1、3
5	「簡易ガイド」をご覧ください。	1 ～ 3
6 ～ 9	「簡易ガイド」をご覧ください。	1 ～ 5

サブウーファー

サブウーファーを接続する場合は、**「①スピーカー / サブウーファーを接続する」**（☞ 簡易ガイド）の「スピーカー / サブウーファーの接続」手順 6 を実施してください。

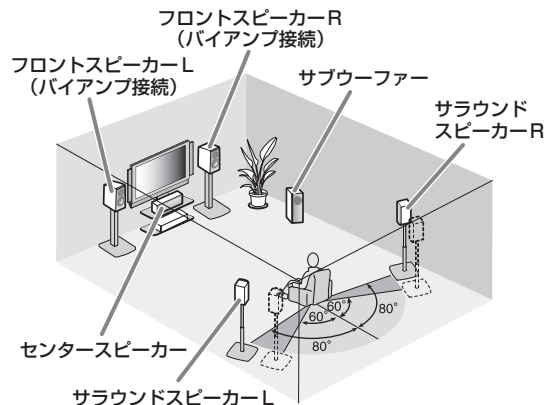
💡 **1：** サウンドプログラムやサラウンドデコーダー（☞p.49）を使用せずに CD などの 2 チャンネルの音声を再生した場合、サブウーファーからの音声が出力されないことがあります。この場合は、設定メニューの**「エクストラベース」**（☞p.90）を「オン」に設定してください。

スピーカー構成を選ぶ

5.1 チャンネル、7.1 チャンネル、フロントプレゼンススピーカーを使った構成については「簡易接続・操作ガイド」をご覧ください。

■ フロントスピーカーをバイアンプ接続して高音質を楽しむ

● 5.1 チャンネルのスピーカー構成

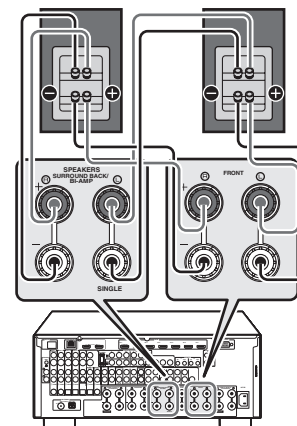
バイアンプ接続に対応したスピーカーを使用することで、より高音質の再生を楽しめます。

● 使用する端子とスピーカー

FRONT	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
SUBWOOFER （PRE OUT）	サブウーファー

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	5ch BI-AMP

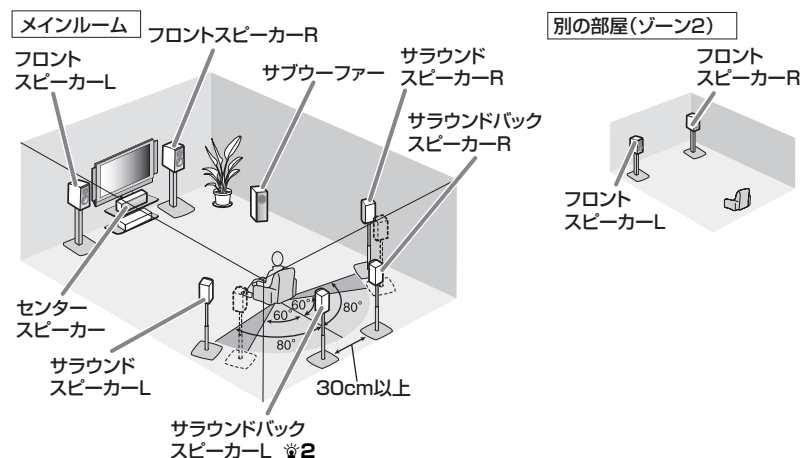
● スピーカーをバイアンプ接続する

本機は、バイアンプ接続対応のスピーカーを接続できます。スピーカーを接続する際は、FRONT 端子および SURROUND BACK/BI-AMP 端子を下図のように接続し、本機のバイアンプ機能をオンにします。

ご注意

バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取りはずしてください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご確認ください。バイアンプ接続をしない場合は、上記の金具（またはケーブル）を必ず取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。

2 つの部屋でスピーカーを使う（ゾーン 2 機能）

● 7.1 チャンネルのスピーカー構成 + ゾーン 2

本機を設置しているメインのリスニング環境に加えて、別の部屋のスピーカーも制御できます。💡1

● 使用する端子とスピーカー

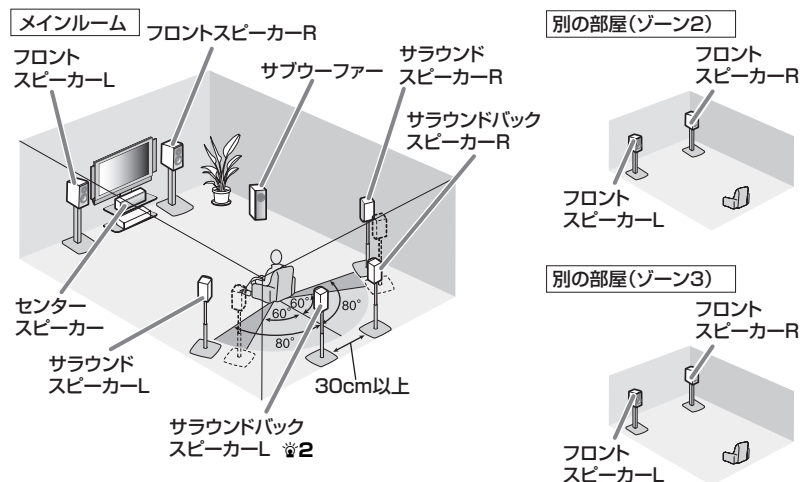
FRONT	フロントスピーカー L/R
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	サラウンドバックスピーカー L/R
SUBWOOFER （PRE OUT）	サブウーファー
EXTRA SP1 💡3	ゾーン 2 スピーカー

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	7ch +1ZONE

3 つの部屋でスピーカーを使う（ゾーン 2 ＋ゾーン 3 機能）

● 7.1 チャンネルのスピーカー構成＋ゾーン 2 ＋ゾーン 3

本機を設置しているメインのリスニング環境に加えて、別の 2 つの部屋のスピーカーも制御できます。💡1 💡4

● 使用する端子とスピーカー

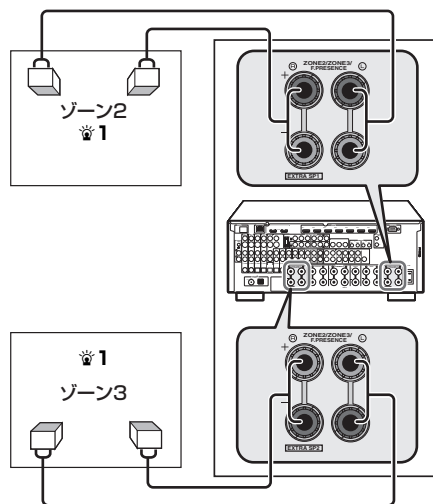
FRONT	フロントスピーカー L/R
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	サラウンドバックスピーカー L/R
SUBWOOFER（PRE OUT）	サブウーファー
EXTRA SP1 💡3	ゾーン 2 スピーカー
EXTRA SP2 💡5	ゾーン 3 スピーカー

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	7ch + 2ZONE

💡**1 :** EXTRA SP1 端子に接続されているスピーカーから音声が出力される場合、サラウンドバックスピーカーからは出力されません。
💡**2 :** サラウンドバックチャンネルからの音声は単一のサラウンドバックスピーカーからも出力できます。サラウンドバックスピーカーを 1 つだけ使用している場合は、SURROUND BACK L (SINGLE) に接続し、視聴位置のすぐ後ろにスピーカーを置いてください。
💡**3 :** EXTRA SP1 端子は、「パワーアンプ割り当て」でゾーン 3 に割り当てることもできます（☞p.88）。
💡**4 :** EXTRA SP2 端子に接続されているスピーカーから音声が出力される場合、サラウンドスピーカーからは出力されません。
💡**5 :** EXTRA SP2 端子は、「パワーアンプ割り当て」でゾーン 2 に割り当てることもできます（☞p.88）。

● 本機の内蔵アンプを使って別の部屋のスピーカーを接続する（マルチゾーン接続）

下図のように、別の部屋のスピーカーをEXTRA SP1 端子、EXTRA SP2 端子に接続します。

ご注意

本機の EXTRA SP 端子 1、2 に、スピーカーセレクターを接続しないでください。また、同端子の各チャンネルに 2 本以上のスピーカーを接続しないでください。インピーダンスが低下して本機が故障する原因になります。

1 :「パワーアンプ割り当て」（☞p.88）で、EXTRA SP1 端子をゾーン 3 スピーカー用に、EXTRA SP2 端子をゾーン 2 スピーカー用に割り当てることができます。

スピーカーを接続する（応用編）

外部パワーアンプを使用したスピーカー構成

本機の PRE OUT 端子に外部アンプを接続して、より多くのスピーカーを使うことができます。

図中マークの意味

- L フロントスピーカー L
- C センタースピーカー
- R フロントスピーカー R
- SL サラウンドスピーカー L
- SR サラウンドスピーカー R
- SBL サラウンドバックスピーカー L
- SBR サラウンドバックスピーカー R
- FPL フロントプレゼンススピーカー L
- FPR フロントプレゼンススピーカー R
- RPL リアプレゼンススピーカー L
- RPR リアプレゼンススピーカー R
- 音声を出力するスピーカー
- 設定によって音声を出力するスピーカー
- EA 外部アンプ

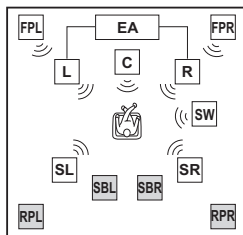
■ スピーカーの接続

スピーカー構成に従って、各端子にスピーカーを正しく接続してください。スピーカー接続について詳しくは、「①スピーカー / サブウーファーを接続する」（→簡易ガイド）をご覧ください。また、外部アンプ接続については **「外部アンプを接続する」**（☞p.25）をご覧ください。

■ スピーカー構成を割り当てる

スピーカーと外部アンプを使用するには、スピーカー構成を本機に割り当てます。「パワーアンプ割り当て」で、お使いのスピーカー構成に最適な設定で簡単に割り当てることができます。パワーアンプの割り当てについては **「スピーカー構成を本機に割り当てる」**（☞p.88）をご覧ください。

■ 高音質 Hi-Fi アンプでフロントスピーカーの音質を高める

● 9.1 チャンネルのスピーカー構成（スピーカー×7 ＋サブウーファー＋外部フロントスピーカー）

自動的にリアプレゼンススピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを選択して、選択されたサウンドプログラムに従って音声を出力します。💡1
本機以上の出力を持つ外部アンプがあれば、フロントスピーカーの音質をより高めることができます。

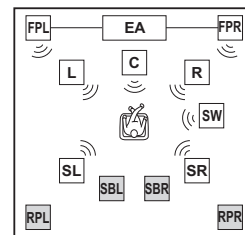
● 使用する端子とスピーカー

端子	スピーカー
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	サラウンドバックスピーカー L/R
FRONT（PRE OUT）	フロントスピーカー L/R（外部アンプ使用）
SUBWOOFER（PRE OUT）💡2	サブウーファー
EXTRA SP1	フロントプレゼンススピーカー L/R
EXTRA SP2	リアプレゼンススピーカー L/R

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	7ch + FRONT

■ 外部アンプを使用してフロントプレゼンススピーカーから出力する

● 9.1 チャンネルのスピーカー構成（スピーカー×7 ＋サブウーファー＋外部フロントプレゼンススピーカー）

自動的にリアプレゼンススピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを選択して、選択されたサウンドプログラムに従って音声を出力します。💡1
フロントプレゼンスおよびサラウンドバックスピーカーは、同時に出力できます。

● 使用する端子とスピーカー

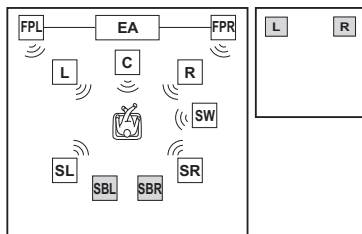
端子	スピーカー
FRONT	フロントスピーカー L/R
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	サラウンドバックスピーカー L/R
F.PRESENCE（PRE OUT）	フロントプレゼンススピーカー L/R（外部アンプ使用）
SUBWOOFER（PRE OUT）💡2	サブウーファー
EXTRA SP2	リアプレゼンススピーカー L/R

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	7ch + FPR

💡**1：** 音声が EXTRA SP2 端子に接続されたスピーカーから出力される場合、サラウンドバックスピーカーからは出力されません。
💡**2：** SUBWOOFER1 および SUBWOOFER2 端子を使えば、サブウーファーを２台接続することができます。この場合、サブウーファーチャンネルからのモノラル音声は両方のスピーカーから出力されます。

■ メインルームでフロントプレゼンススピーカー、別の部屋でフロントスピーカーを使う

● 9.1 チャンネルのスピーカー構成（スピーカー× 7 ＋サブウーファー＋外部フロントプレゼンススピーカー＋フロントスピーカー（別の部屋））

別の部屋でフロントスピーカーを使用しているときでも、メインルームのフロントプレゼンススピーカーを使用することができます。 ☟1

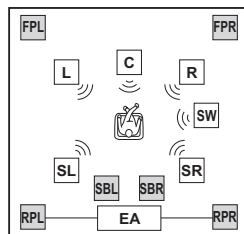
● 使用する端子とスピーカー

FRONT	フロントスピーカー L/R
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	サラウンドバックスピーカー L/R
EXTRA SP1 ☟2	ゾーン 2 スピーカー L/R
F.PRESENCE (PRE OUT)	フロントプレゼンススピーカー L/R (外部アンプ使用)
SUBWOOFER (PRE OUT) ☟3	サブウーファー

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	7ch + FPR + 1ZONE

■ 外部アンプでリアプレゼンススピーカーから出力

● 9.1 チャンネルのスピーカー構成（スピーカー× 7 ＋サブウーファー＋外部リアプレゼンススピーカー）

自動的にフロントプレゼンススピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを選択して、選択されたサウンドプログラムに従って音声を出力します。 ☟1
フロントプレゼンススピーカーチャンネルが出力されていないと、リアプレゼンススピーカーチャンネルは出力されません。 ☟4

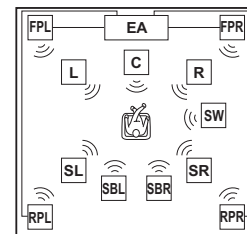
● 使用する端子とスピーカー

FRONT	フロントスピーカー L/R
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	サラウンドバックスピーカー L/R
SUBWOOFER (PRE OUT) ☟3	サブウーファー
R.PRESENCE (ZONE OUT)	リアプレゼンススピーカー L/R (外部アンプ使用)
EXTRA SP1	フロントプレゼンススピーカー L/R

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	7ch + RPR

■ 外部アンプでフロントおよびリアプレゼンススピーカーから出力する

● 11.1 チャンネルのスピーカー構成（スピーカー× 7 ＋サブウーファー＋フロントおよびリアプレゼンススピーカー）

フロントおよびリアプレゼンススピーカー、サラウンドバックスピーカー、およびサラウンドスピーカーは、同時に出力できます。 ☟4

● 使用する端子とスピーカー

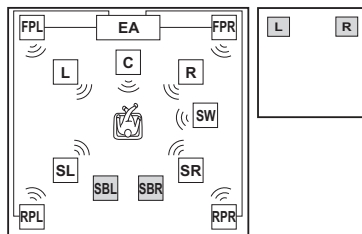
FRONT	フロントスピーカー L/R
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	サラウンドバックスピーカー L/R
F.PRESENCE (PRE OUT)	フロントプレゼンススピーカー L/R (外部アンプ使用)
SUBWOOFER (PRE OUT) ☟3	サブウーファー
R.PRESENCE (ZONE OUT)	リアプレゼンススピーカー L/R (外部アンプ使用)

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	7ch + FPR + RPR

☟1：音声が EXTRA SP1 端子に接続されたスピーカーから出力される場合、サラウンドバックスピーカーからは出力されません。
☟2：EXTRA SP1 端子は、「パワーアンプ割り当て」でゾーン 3 に割り当てることもできます（☞p.88）。
☟3：SUBWOOFER1（FRONT）および SUBWOOFER2（REAR）端子の両方に接続すれば、サブウーファーを 2 台使用することができます。
☟4：このとき、ゾーン 3 に音声は出力されません。

外部アンプでメインルームのフロントおよびリアプレゼンススピーカーから出力し、別の部屋のフロントスピーカーから出力する

● 11.1 チャンネルのスピーカー構成（スピーカー× 7 ＋サブウーファー＋外部フロントおよびリアプレゼンススピーカー＋フロントスピーカー（別の部屋））

別の部屋でフロントスピーカーを使用しているときでも、メインルームのフロントおよびリアプレゼンススピーカーを使用することができます。💡1 💡2

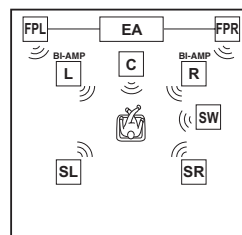
● 使用する端子とスピーカー

FRONT	フロントスピーカー L/R
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	サラウンドバックスピーカー L/R
F.PRESENCE（PRE OUT）	フロントプレゼンススピーカー L/R（外部アンプ使用）
SUBWOOFER（PRE OUT）💡3	サブウーファー
R.PRESENCE（ZONE OUT）	リアプレゼンススピーカー L/R（外部アンプ使用）
EXTRA SP1 💡4	ゾーン 2 スピーカー

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	7ch + FPR + RPR + 1ZONE

バイアンプ接続対応のフロントスピーカーとフロントプレゼンススピーカーを使う

● 7.1 チャンネルのスピーカー構成（フロントスピーカー（バイアンプ）＋スピーカー× 3 ＋サブウーファー＋外部フロントプレゼンススピーカー）

バイアンプ接続対応のフロントスピーカーとフロントプレゼンススピーカーを同時に使用することで、より豊かな音場で楽しむことができます。

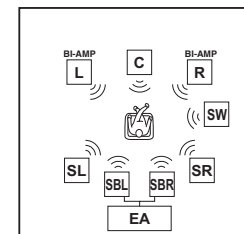
● 使用する端子とスピーカー

FRONT	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
F.PRESENCE（PRE OUT）	フロントプレゼンススピーカー L/R（外部アンプ使用）
SUBWOOFER（PRE OUT）💡3	サブウーファー

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	5ch BI-AMP + FPR

バイアンプ接続対応のフロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーを使う

● 7.1 チャンネルのスピーカー構成（フロントスピーカー（バイアンプ）＋スピーカー× 3 ＋外部サラウンドバックスピーカー）

外部アンプにサラウンドバックスピーカーを接続すると、バイアンプ接続対応のフロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーを同時に使用することができます。

● 使用する端子とスピーカー

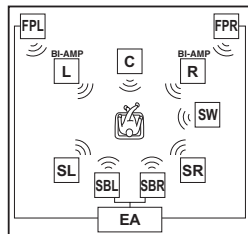
FRONT	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
SUR. BACK（PRE OUT）	サラウンドバックスピーカー L/R（外部アンプ使用）
SUBWOOFER（PRE OUT）💡3	サブウーファー

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	5ch BI-AMP + SB

💡**1 :** 音声が EXTRA SP1 端子に接続されたスピーカーから出力される場合、サラウンドバックスピーカーからは出力されません。
💡**2 :** このとき、ゾーン 3 に音声は出力されません。
💡**3 :** SUBWOOFER1（FRONT）および SUBWOOFER2（REAR）端子の両方に接続すれば、サブウーファーを 2 台使用することができます。
💡**4 :** EXTRA SP1 端子は、「パワーアンプ割り当て」でゾーン 3 に割り当てることもできます（☞p.88）。

■ バイアンプ接続対応のフロントスピーカー、サラウンドバックスピーカー、フロントプレゼンススピーカーを使う

● 9.1 チャンネルのスピーカー構成（フロントスピーカー（バイアンプ）＋スピーカー× 3 ＋サブウーファー＋外部サラウンドバックスピーカー＋外部フロントプレゼンススピーカー）

外部アンプを使用するとバイアンプ接続対応のフロントスピーカーと同時に、フロントプレゼンススピーカーおよびサラウンドバックスピーカーを使用することができます。💡**1**

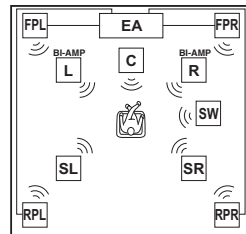
● 使用する端子とスピーカー

FRONT	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
SUR. BACK（PRE OUT）	サラウンドバックスピーカー L/R（外部アンプ使用）
F.PRESENCE（PRE OUT）	フロントプレゼンススピーカー L/R（外部アンプ使用）
SUBWOOFER（PRE OUT）💡**2**	サブウーファー

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	5ch BI-AMP + SB + FPR

■ バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを使い、外部アンプでフロントおよびリアプレゼンススピーカーから出力する

● 9.1 チャンネルのスピーカー構成（フロントスピーカー（バイアンプ）＋スピーカー× 3 ＋サブウーファー＋外部フロントおよびリアプレゼンススピーカー）

外部アンプがあれば、バイアンプ接続対応のフロントスピーカー使用時でも、フロントおよびリアプレゼンススピーカーを使用することができます。💡**1** 💡**3**

● 使用する端子とスピーカー

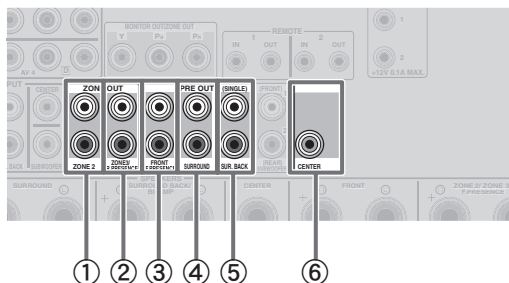
FRONT	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
CENTER	センタースピーカー
SURROUND	サラウンドスピーカー L/R
SURROUND BACK	フロントスピーカー L/R（バイアンプ接続）
F.PRESENCE（PRE OUT）	フロントプレゼンススピーカー L/R（外部アンプ使用）
SUBWOOFER（PRE OUT）💡**2**	サブウーファー
R.PRESENCE（ZONE OUT）	リアプレゼンススピーカー L/R（外部アンプ使用）

● パワーアンプ割り当て

パワーアンプ割り当て	5ch BI-AMP + FPR + RPR

💡**1 :** このスピーカー構成には、4 チャンネルの外部アンプが必要です。
💡**2 :** SUBWOOFER1（FRONT）および SUBWOOFER2（REAR）端子の両方に接続すれば、サブウーファーを 2 台使用することができます。
💡**3 :** このとき、ゾーン 3 に音声は出力されません。

外部アンプを接続する

同じチャンネルの信号は、対応するスピーカーの端子、また PRE OUT 端子および ZONE OUT 端子から出力されます。外部パワーアンプでスピーカーからの出力を強調する場合は、パワーアンプの入力端子を本機の PRE OUT 端子または ZONE OUT 端子に接続します。

① **ZONE2 端子**
ゾーン 2 の出力端子です。

② **ZONE3/R.PRESENCE 端子**
ゾーン 3 またはリアプレゼンスチャンネルの出力端子です。

③ **FRONT/F.PRESENCE（PRE OUT）端子**
フロントチャンネルまたはフロントプレゼンスチャンネルの出力端子です。FRONT または F.PRESENCE のどちらか片方の信号のみ出力します。出力する信号の割り当てについては、**「スピーカー構成を本機に割り当てる」**（☞p.88）をご参照ください。

④ **SURROUND（PRE OUT）端子**
サラウンドチャンネルの出力端子です。

⑤ **SUR. BACK（PRE OUT）端子**
サラウンドバックの出力端子です。

⑥ **CENTER（PRE OUT）端子**
センターチャンネルの出力端子です。

ご注意

音量調整機能対応の外部アンプを接続しても、音量調整機能は十分に働きません。以下の機器を接続することをおすすめします。

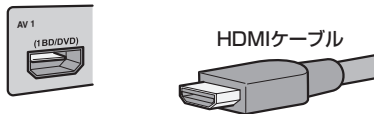
- 音量調整機能に非対応かオフにできる外部アンプ
- 音量回路をバイパスできる MAIN IN 端子のあるアンプ（例：ヤマハ A-S2000）

入出力端子とケーブル

本機は次のような入出力端子を装備しています。接続したい外部機器側の端子に合わせて適切なケーブルを使い、接続する必要があります。

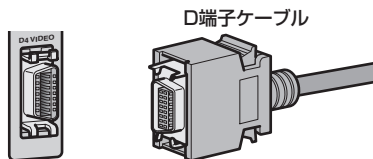
■ 映像および音声を入出力する端子

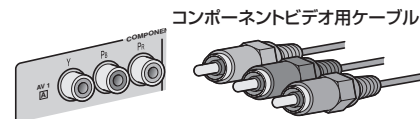
HDMI 端子

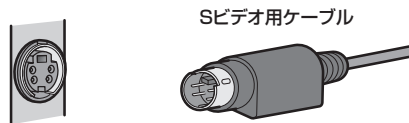
デジタル映像およびデジタル音声を 1 つの端子で伝送します。
接続には、HDMI ケーブルを使用します。

- 接続には HDMI ロゴのついた標準サイズの HDMI ケーブルをお使いください。
- 伝送時の品質劣化を防ぐため、5.0m以下の長さのケーブルを使って接続することをおすすめします。
- 本機に 3D 映像形式対応のプレーヤーやテレビを接続している場合は、3D の映像ソフトを再生できます。
- HDMIとオーディオリターンチャンネル機能を搭載したテレビを本機に接続する場合は、テレビから本機への音声 / 映像出力と本機からテレビへの音声出力を HDMI ケーブル一本で通信できます（☞p.29）。
- DVI 端子を搭載した機器と本機を接続する際は、HDMI—DVI-D ケーブルが必要です。

■ 映像を入出力する端子

D 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）の 3 種類に分離し、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を含めて伝送します。
接続には D 端子ケーブルを使用します。

コンポーネントビデオ端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）の 3 種類に分離して伝送します。
接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントビデオ用ケーブルを使用します。

S ビデオ端子

輝度信号（Y）と色信号（C）を含む S ビデオ映像を伝送します。接続には、S ビデオ用ケーブルを使用します。

ビデオ端子

標準的なアナログビデオ映像を伝送します。
接続には、ビデオ用ピンケーブルを使用します。

■ 音声を入出力する端子

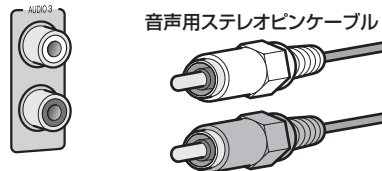
光デジタル端子

光デジタル音声を伝送します。
接続には、光デジタル音声用の光ファイバーケーブルを使用します。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、キャップを取り外してからご使用ください。

同軸デジタル端子

同軸デジタル音声を伝送します。
接続にはデジタル音声用の同軸ケーブルを使用します。

アナログ端子

標準的なアナログステレオ音声を伝送します。
接続にはステレオピンケーブルを使用し、赤いケーブルのプラグを R 端子（赤）、白いケーブルのプラグを L 端子（白）へ接続します。

テレビを接続する

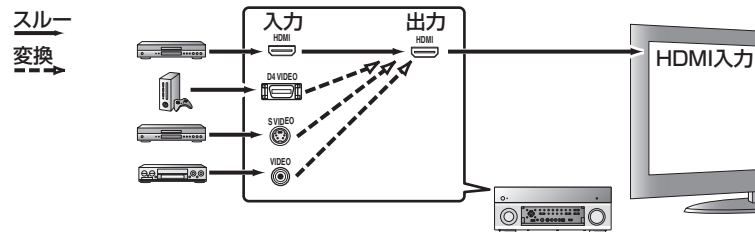
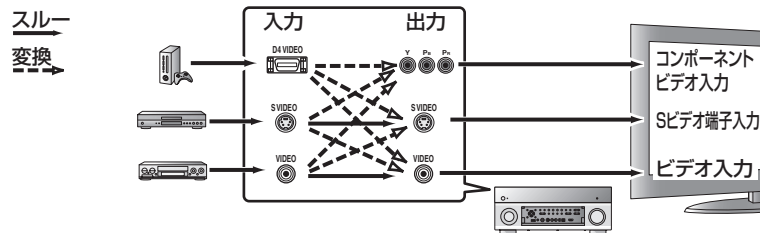
本機にはテレビ接続用として 4 系統の出力端子（HDMI、コンポーネントビデオ、S ビデオ、ビデオ）が用意されています。ご使用のテレビの入力端子に合わせて、適切に接続してください。

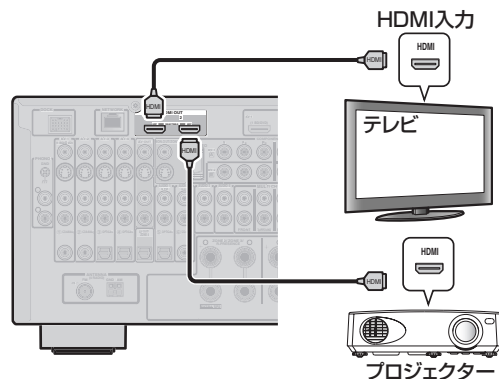
● HDMI を使って接続した場合

本機に入力されたコンポーネントビデオ、S ビデオ、ビデオなどの映像は、HDMI に変換されてテレビへと出力されます。テレビ側で HDMI 入力を選ぶだけで、本機に接続されたすべての外部機器の映像を視聴できます。 **1**

● D 端子やビデオ端子などを使って接続した場合

同じ種類の出力端子をテレビと接続し、再生する外部機器に合わせてテレビの入力を切り替えて視聴できます。外部機器からのアナログ映像出力端子とテレビの入力端子の種類が異なる際は、テレビの映像入力端子に合わせて映像信号を変換できます。 **2**、 **3**

HDMI 入力に対応しているテレビ

HDMI 入力に非対応のテレビ

▌HDMI 入力対応のテレビ

本機の HDMI OUT 1-2 端子とテレビの HDMI 入力端子を HDMI ケーブルで接続します。

- 接続には HDMI ロゴのついた 19 ピンの HDMI ケーブルをお使いください。
- 伝送時の信号劣化を防ぐため、5.0m以下の長さのケーブルを使って接続することをおすすめします。
- 本機のHDMI OUT 1-2端子は設定で選んでいる端子だけが有効となっています(☞p.47)。有効にする HDMI OUT 端子は本機の「シーン選択」機能に登録しておくことができます(☞p.48)。

1 : HDMI に変換される際の解像度やアスペクト比は、必要に応じて変更できます（☞p.94）。
2 :「アナログ端子間変換」を「オン」にしてください（☞p.94）。
3 : アナログ端子間変換は解像度 480i/576i の映像信号でのみ行われます。

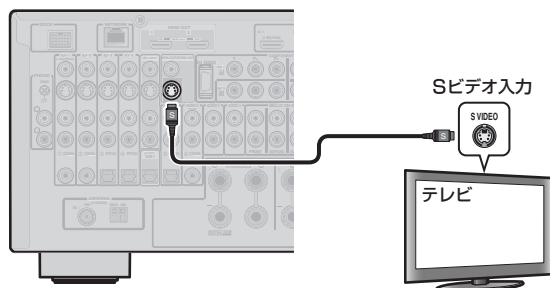
❚ コンポーネントビデオ入力対応のテレビ

MONITOR OUT/ZONE OUT のコンポーネントビデオ端子とコンポーネントビデオ用ケーブルで接続します。☆1

❚ S- ビデオ入力対応のテレビ

MONITOR OUT/ZONE OUT の S ビデオ端子と S ビデオ用ケーブルで接続します。☆1

❚ ビデオ入力対応のテレビ

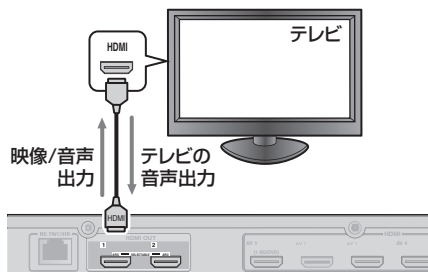
MONITOR OUT/ZONE OUT のビデオ端子とビデオ用ピンケーブルで接続します。☆1

☆1：テレビと HDMI 接続している場合、本機に入力された映像は HDMI 映像に変換されてテレビへと出力されます。D 端子 / コンポーネントビデオ端子、S ビデオ端子、ビデオ端子をテレビに接続する必要はありません。

テレビの音声を本機で聴く

テレビの音声を本機で聴きたい場合は、本機と接続したテレビの機能に応じて次のいずれかの方法でテレビの音声を本機に入力してください。

■ HDMIコントロール機能およびオーディオリターンチャンネル機能に対応しているテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック　ビエラリンクなど）と Audio Return Channel機能の両方に対応している場合は、本機とテレビを接続した HDMI ケーブル 1 本で、テレビへの映像 / 音声出力、本機への音声入力ができます。

Audio Return Channel 機能は、テレビへ映像 / 音声出力をしている HDMI ケーブルを使って、ステレオ PCM や AAC など光 / 同軸デジタル相当の音声を AV アンプ / レシーバーに出力する機能です。テレビ側で音声出力を伴う操作をすると、HDMI コントロール機能により本機の入力ソースが自動で変わるため、本機側を操作せずにテレビの音声を視聴できます。

テレビから入力された音声は、AV1-4 などの入力ソースに割り当てられます。使用しない入力ソースにテレビの音声を割り当てれば、使用中の入力ソースの接続を変えることなくテレビの音声を視聴できます。

1 テレビと本機をHDMIケーブルで接続する。

2 テレビの電源をオンにして、本機を接続した映像入力に切り替える。

3 8**ON SCREEN** を押す。💡1

4 9**カーソル △ / ▽** を使って「設定」を選び、9**ENTER** を押す。

5 9**カーソル ◁ / ▷** を使って「HDMI 設定」を選び、9**ENTER** を押す。

6 「HDMI コントロール」がオンに設定されていることを確認する。💡2

オフに設定されている場合は、9**ENTER** と 9**カーソル △ / ▽** を使ってオンを選択してください。

7 9**カーソル △ / ▽** を押して「コントロール選択」を選び、9**ENTER** を押す。

8 9**カーソル △ / ▽** を使ってテレビに接続している HDMI OUT 端子を選び、9**ENTER** を押す。

9 9**カーソル △ / ▽** を押して「TV 音声入力」を選び、9**ENTER** を押す。

10 9**カーソル △ / ▽** を使って手順8で選んだ端子に対応するテレビを選び、9**ENTER** を押す。

11 9**カーソル △ / ▽** を使ってテレビの音声を割り当てたい入力ソースを選び、9**ENTER** を押してから 9**RETURN** を押す。

12 9**カーソル △ / ▽** を押して「ARC（オーディオリターンチャンネル）」を選び、9**ENTER** を押す。

13 9**カーソル ▽** を押してオンを選び、9**ENTER** を押す。

14 8**ON SCREEN** を押して設定を終了する。

TV 番組が再生される操作をすると、本機の入力ソースが手順 10 で選んだ入力端子に自動で切り替わります。

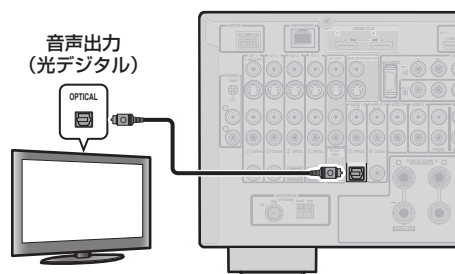
- シーン機能を使って入力ソースを選択している場合も、HDMI コントロール機能により「TV 音声入力」で設定した入力端子に自動的に切り替わります。
- シーン機能を使ってサウンドプログラムを設定する場合は、選択する「SCENE」キーの入力ソースを手順 10 で選んだ入力端子に設定する必要があります。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.48）をご覧ください。
- 4**入力ソース選択キー**を使って「TV 音声入力」で選択した入力ソースを手動で選択することもできます。

💡 **1 :** ON SCREEN メニューについての詳しい説明は**「テレビ画面を使って本機を操作する」**（☞p.54）をご覧ください。

💡 **2 :** 実際に HDMI コントロール機能を動作させるには、テレビや外部機器などの HDMI コントロール機能もオンにする必要があります。詳しい設定方法は**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**（☞ 簡易ガイド）をご覧ください。

HDMI コントロール機能に対応しており、Audio Return Channel に非対応のテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック　ビエラリンクなど）に対応している場合、本機の HDMI コントロール機能をオンにするとテレビ側の操作に連動して入力ソースを自動で切り替えできます。あらかじめテレビの音声出力を本機に接続しておけば、テレビ側の操作だけでテレビの音声が視聴可能になります。

テレビが本機の HDMI OUT 1 端子と接続されている場合、工場出荷時には、AUDIO1 に切り替わるよう設定されており、テレビの光デジタル音声出力を AUDIO1 端子に接続すれば、本機の設定を変更せずにテレビの音声を楽しむことができます。

テレビが本機の HDMI OUT 2 端子と接続されている場合、HDMI コントロール機能で連動する入力ソースが工場出荷時には AUDIO3 に設定されています。

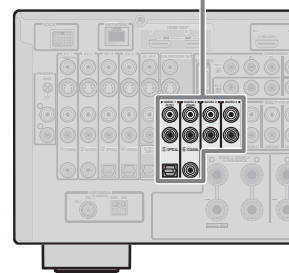
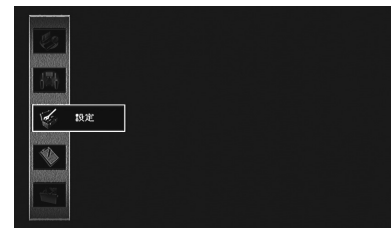
他の端子に接続したい場合は、次の手順で音声入力端子を変更できます。

1 **本機とテレビを HDMI ケーブルで接続する。**

2 **テレビの音声出力端子を本機の入力端子に接続する。**

テレビの音声入力用として、次の入力端子が使用できます。テレビ側の音声出力端子と同じ端子にケーブルを接続してください。

テレビ側の端子	入力端子	使用するケーブル
光デジタル	AUDIO1	光ファイバーケーブル
同軸デジタル	AUDIO2	デジタル音声用同軸ケーブル
アナログ音声	AUDIO1、AUDIO2、AUDIO3、AUDIO4 のいずれか 1 つ	ステレオピンケーブル

使用可能な入力端子

3 **[8]ON SCREEN を押す。💡1**

4 **[9]カーソル △ / ▽ を使って「設定」を選び、[9]ENTER を押す。**

5 **[9]カーソル ◁ / ▷ を使って「HDMI 設定」を選び、[9]ENTER を押す。**

6 **「HDMI コントロール」がオンに設定されていることを確認する。💡2**

オフに設定されている場合は、[9]**カーソル** △ / ▽ を使ってオンを選択してください。

7 **[9]カーソル △ / ▽ を押して「コントロール選択」を選び、[9]ENTER を押す。**

8 **[9]カーソル △ / ▽ を使ってテレビに接続している HDMI OUT 端子を選び、[9]ENTER を押す。**

💡**1：** ON SCREEN メニューについての詳しい説明は「**テレビ画面を使って本機を操作する**」（☞p.54）をご覧ください。

💡**2：** 実際に HDMI コントロール機能を動作させるには、テレビや外部機器などの HDMI コントロール機能もオンにする必要があります。詳しい設定方法は「**⑥テレビのリモコンで本機を操作する**」（☞ 簡易ガイド）をご覧ください。

9 **9カーソル △ / ▽ を押して「TV 音声入力」を選び、9ENTER を押す。**

10 **9カーソル △ / ▽ を使って手順8で選んだ端子に対応するテレビを選び、9ENTER を押す。**

11 **9カーソル △ / ▽ を押して、手順 2 で選んだ本機の入力端子（AUDIO1 など）を選び、9ENTER を押す。**

12 **8ON SCREEN を押して設定を終了する。**

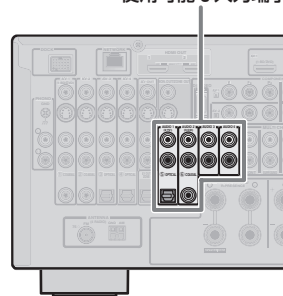
以降はテレビ側で音声出力されると、本機の入力ソースが手順 10 で選んだ入力端子に自動で切り替わります。

シーン機能を使ってサウンドプログラムを設定する場合は、選択する「SCENE」キーの入力ソースを手順 10 で選んだ入力端子に設定する必要があります。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.48）をご覧ください。

■ HDMIコントロール機能およびAudio Return Channel 機能に非対応のテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック　ビエラリンクなど）に対応していない場合は、AUDIO1-4 とテレビの音声出力端子を接続し、本機側の操作で入力ソースを選択します。

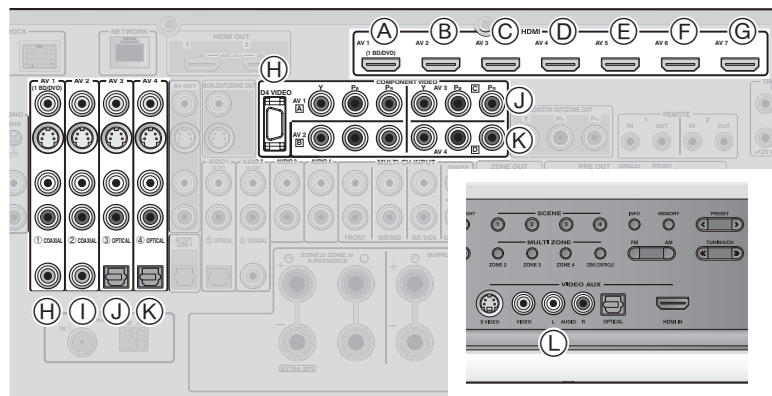
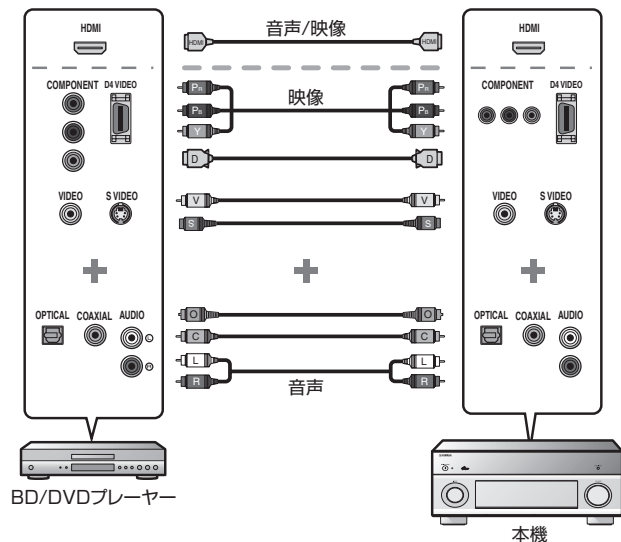
テレビ側の端子	入力端子	使用するケーブル
光デジタル	AUDIO1	光ファイバーケーブル
同軸デジタル	AUDIO2	デジタル音声用同軸ケーブル
アナログ音声	AUDIO1-4	ステレオピンケーブル

- テレビ側が光デジタル音声出力に対応している場合は、テレビのオーディオ出力を本機の AUDIO1 に接続することをおすすめします。工場出荷時には「SCENE」キーの「TV」を押すと AUDIO1 が選ばれるよう設定されており、キー操作 1 つでテレビの音声が再生できます。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.48）をご覧ください。
- 本機のリモコンを使ってテレビを操作することも可能です。テレビを操作するには、本機のリモコンにお使いのテレビのリモコンコードを登録します（☞p.106）。

接続する

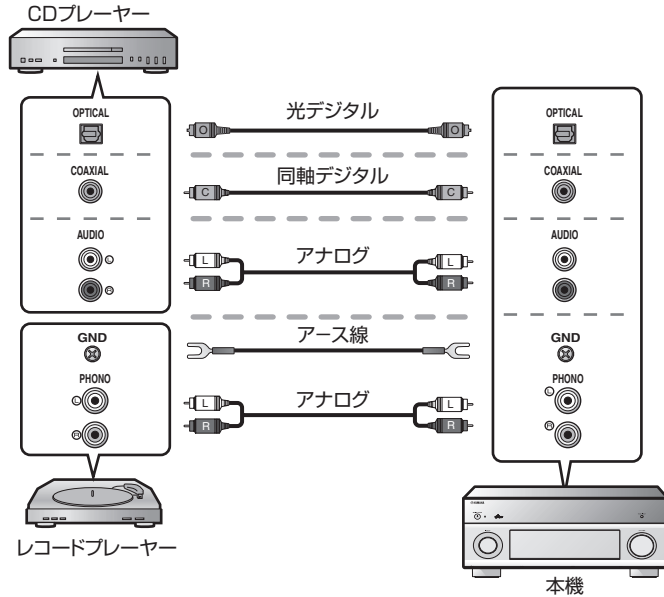
BD（ブルーレイディスク）/DVD プレーヤー（レコーダー）などの再生機器を接続する

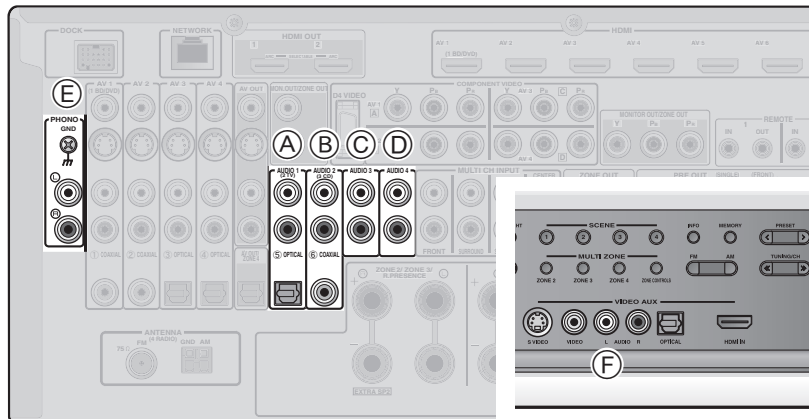
本機には、入力ソースごとに接続端子が用意されています。フロントパネルやリモコンで対応する入力ソースを選ぶと、該当する機器の映像や音声が再生できます。
使用するケーブルは**「入出力端子とケーブル」**（☞p.26）をご覧ください。

BD/DVD プレーヤーなどの再生機器を接続する

お手持ちの機器の出力端子をご確認のうえ、接続方法を選んでください。

接続する外部機器の出力端子			本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	信号の種類	出力端子		
HDMI 出力を持つ外部機器	音声 / 映像	HDMI	Ⓐ AV1（BD/DVD）	AV1
			Ⓑ AV2	AV2
			Ⓒ AV3	AV3
			Ⓓ AV4	AV4
			Ⓔ AV5	AV5
			Ⓕ AV6	AV6
			Ⓖ AV7	AV7
			Ⓛ VIDEO AUX	HDMI IN
コンポーネントビデオ /D 端子出力を持つ外部機器	音声	光デジタル	Ⓙ AV3/Ⓚ AV4	OPTICAL
	映像	コンポーネントビデオ		COMPONENT VIDEO
	音声	同軸デジタル	Ⓗ AV1/Ⓘ AV2	COAXIAL
	映像	コンポーネントビデオ / D 端子		COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO
	音声	アナログ音声（ステレオ）	Ⓗ AV1-Ⓚ AV4	AUDIO
	映像	コンポーネントビデオ / D 端子		COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO
S ビデオ端子出力を持つ外部機器	音声	光デジタル	Ⓙ AV3/Ⓚ AV4	OPTICAL
	映像	S ビデオ端子		S-VIDEO
	音声	同軸デジタル	Ⓗ AV1/Ⓘ AV2	COAXIAL
	映像	S ビデオ端子		S-VIDEO
	音声	アナログ音声（ステレオ）	Ⓗ AV1-Ⓚ AV4	AUDIO
	映像	S ビデオ端子		S-VIDEO
ビデオ出力を持つ外部機器	音声	同軸デジタル	Ⓗ AV1/Ⓘ AV2	COAXIAL
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	光デジタル	Ⓙ AV3/Ⓚ AV4	OPTICAL
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ音声（ステレオ）	Ⓗ AV1-Ⓚ AV4	AUDIO
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ音声（ステレオ）	Ⓥ VIDEO AUX	AUDIO
	映像	ビデオ		VIDEO

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を接続する

お手持ちの機器の出力端子をご確認のうえ、接続方法を選んでください。

接続する外部機器の出力端子			本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	出力端子			
光デジタル出力を持つ外部機器	光デジタル		Ⓐ AUDIO1	OPTICAL
同軸デジタル出力を持つ外部機器	同軸デジタル		Ⓑ AUDIO2	COAXIAL
アナログ音声（ステレオ）出力を持つ外部機器	アナログ（ステレオ）		Ⓐ AUDIO1	AUDIO
			Ⓑ AUDIO2	AUDIO
			Ⓒ AUDIO3	AUDIO
			Ⓓ AUDIO4	AUDIO
	音声	アナログ（ステレオ）	Ⓕ VIDEO AUX	AUDIO
レコードプレーヤー	アナログ		Ⓔ PHONO	PHONO

- 光デジタルケーブルをご使用になる際、プラグの先端に保護キャップが付いている場合は取り外してください。
- 工場出荷時には「SCENE」キーの「BD/DVD」を押すと AV1 が選ばれるよう設定されています。
- 工場出荷時には「SCENE3」キーを押すと AUDIO2 が選ばれるよう設定されています。
- 「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.48）をご覧ください。
- 本機の設定を変更すると、複数の音声入力端子を持つ入力ソースで、音声入力を行う端子を選ぶことができます。この機能を使えば、HDMI 端子から映像信号を入力しながら、光デジタル端子から音声信号を入力するなどの組み合わせが可能です。詳細は**「HDMI/AV 端子の映像と他の端子の音声を組み合わせる」**（☞p.34）をご覧ください。

HDMI/AV 端子の映像と他の端子の音声を組み合わせる

AV1-7 の HDMI 入力を使用する際は、音声のみを他の入力端子（AV1-4、AUDIO1-4 ☞1、V-AUX）からの入力に差し替えられます。たとえば外部機器が HDMI 端子から音声出力できない場合は、音声入力する端子を変更できます。次のような場合に使うと便利です。

- HDMI経由で音声出力できない外部機器をHDMI接続したいとき
- 映像出力がD端子、音声出力がアナログ音声の外部機器（一部ゲーム機など）を接続したいとき

設定方法は次の通りです。

1 **映像 / 音声ケーブルを接続する。**

外部機器の音声出力が同軸デジタル端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AV1、AV2 または AUDIO2 の音声入力端子と、外部機器をデジタル音声用同軸ケーブルで接続します。

外部機器の音声出力が光デジタル端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AV3、AV4、AUDIO1 または V-AUX の音声入力端子と外部機器を光ファイバーケーブルで接続します。

外部機器の音声出力がアナログステレオ端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AUDIO1、AUDIO2 のいずれか 1 つの音声入力端子と、外部機器をステレオピンケーブルで接続します。

2 **4入力ソース選択キー**を押して入力ソースを選ぶ。

3 **16OPTION を押してオプションメニューを表示させる。**

4 **9カーソル △ / ▽ を使って「音声入力選択」を選び、9ENTER を押す。**

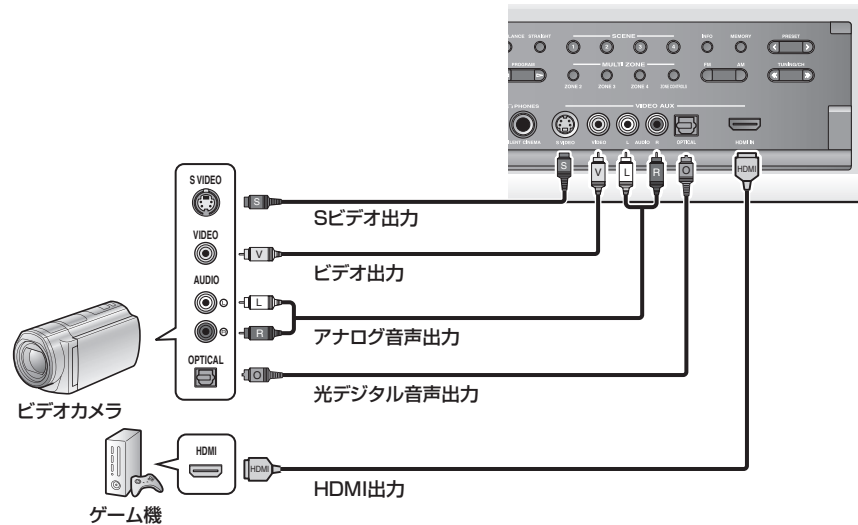
5 **9カーソル ◁ / ▷ を押して、音声を入力したい端子を選び、9ENTER を押す。**

6 **設定が終わったら、16OPTION を押してオプションメニューを終了する。**

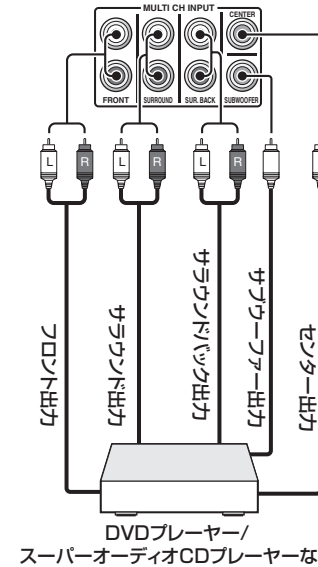
設定を元に戻したいときは、もう一度メニューを表示して設定していた入力端子を変更してください。

☞ **1 :** 工場出荷時の状態では、AUDIO3-4 は使用できません。設定メニューの「入力端子割り当て」で「同軸 / 光」を割り当てた場合のみ使用できます。詳しくは **「入出力端子を機器に割り当てる」**（☞p.101）をご覧ください。

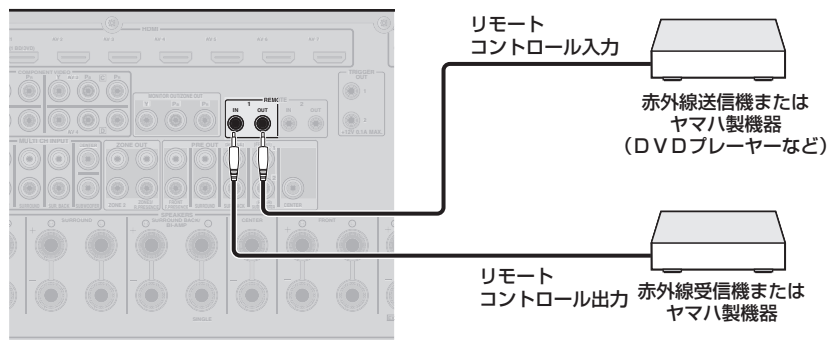
ビデオカメラやゲーム機をフロントパネルの端子に接続する

ビデオカメラやゲーム機などの機器を一時的に接続したい場合は、フロントパネルの VIDEO AUX 端子を利用すると便利です。
接続した外部機器を再生するときは、入力ソースに「VIDEO AUX」を選びます。

- 接続する際は、再生機器を停止させ、本機の音量を十分に下げてください。接続が終わったら、本機と再生機器の両方の音量を上げてください。
- VIDEO AUX の HDMI IN 端子と VIDEO/AUDIO 端子の両方に機器を接続した場合は、HDMI 側の入力のみが有効となります。

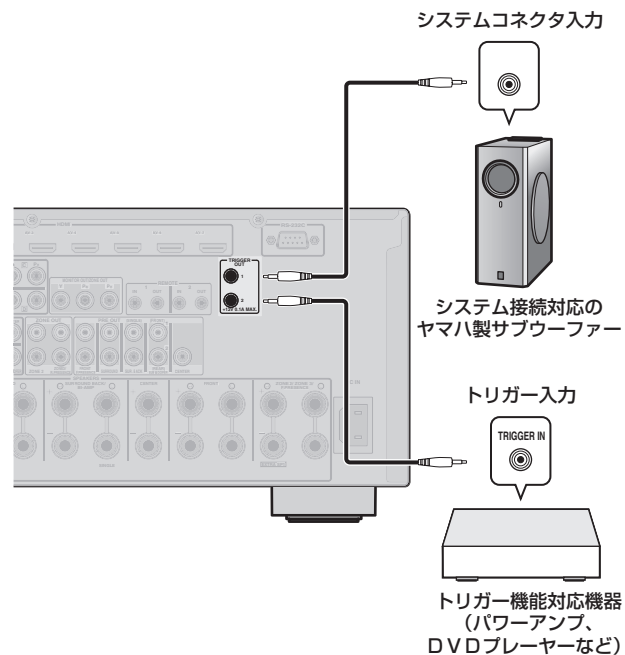
マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

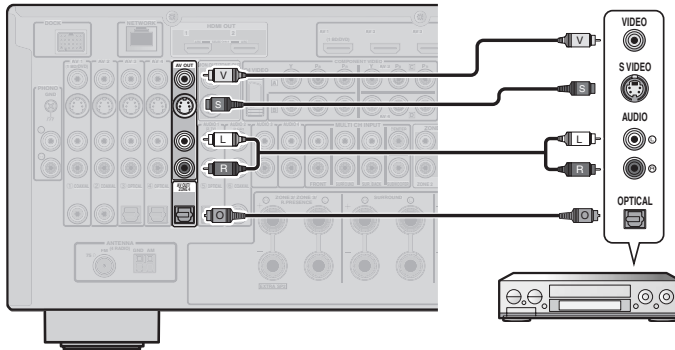
本機にはマルチチャンネルアナログ音声信号を入力する MULTI CH INPUT 端子を搭載しています。DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、マルチチャンネルアナログ音声出力端子がある機器を接続して、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。
接続した機器の音声を再生するときは、入力ソースに「MULTI CH」を選びます。

- 入力ソースに「MULTI CH」を選択すると、サウンドプログラムによる音場効果とトーンコントロールの設定は無効になります。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声は出力されません。接続したスピーカーの構成にあわせて、マルチチャンネル機器を設定してお楽しみください。
- マルチチャンネルアナログ信号の音声と同時に楽しむ映像入力を選択できます（☞p.80）。DVD プレーヤーなどの機器がマルチチャンネルデジタル出力に対応していない場合は、マルチチャンネルアナログ音声出力を本機の MULTI CH INPUT 端子に、映像出力を本機の AV1-7 や VIDEO AUX の映像端子に接続してください。

シーン連動再生に対応する機器を接続する

シーンコントロール信号の送受信に対応するヤマハ製機器をお使いの場合は、下図のようにモノラルミニプラグケーブルで本機の REMOTE IN 端子および REMOTE OUT 端子と接続してください。

- REMOTE OUT 端子にヤマハ製のシーン連動に対応している機器を接続している場合は、本機のシーン機能を使うと連動して再生が始まります（シーン リモコン連動機能）（☞p.81）。
- REMOTE OUT 端子に接続している機器がヤマハ製でない場合は、シーンメニューの「シーンリモコン連動」を「オフ」に設定してください（☞p.81）。

トリガー機能に対応する機器を接続する

システム接続に対応しているヤマハ製のサブウーファーや、トリガー入力端子がある機器と本機をモノラルミニプラグケーブルで接続すると、本機を操作して電源のオン / オフを切り替えられます。

入力された映像 / 音声を外部機器へ出力する

本機の AV OUT 端子からは、現在選ばれている入力ソースの映像や音声が出力されます。これらの端子にビデオデッキなどを接続すれば、入力された映像や音声を録画 / 録音することができます。

以下の映像 / 音声は、AV OUT 端子から出力されません。
- HDMI 入力端子に入力された映像 / 音声
- D4 VIDEO 端子または COMPONENT VIDEO 端子に入力された映像

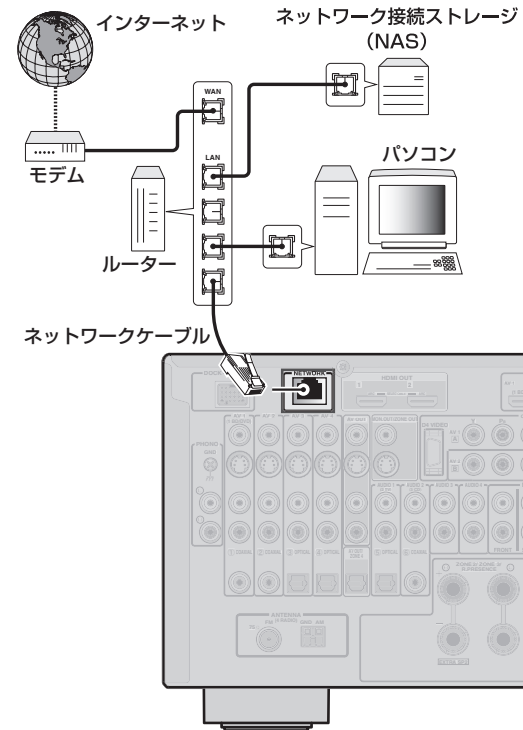
HDMI コントロール機能を使う

本機は、HDMI 経由で外部機器を操作する「HDMI コントロール機能」に対応しています。HDMI コントロール機能対応の機器と HDMI 接続すれば、テレビなどの外部機器のリモコンと連動して本機の機能の操作をすることが可能です。

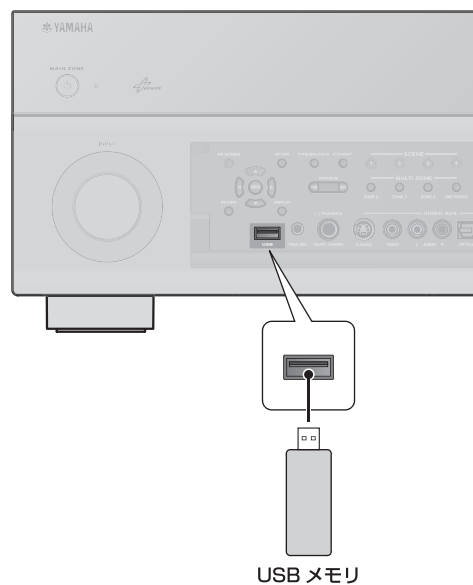
設定方法は**「簡易接続・操作ガイド」**の**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**をご覧ください。

ネットワークに接続する

本機をネットワークに接続するには、ネットワークケーブル（CAT-5 以上のストレートケーブル）を本機のネットワークポートに差し込みます。ケーブルのもう一方は DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サーバー対応のルーターに接続します。
インターネットラジオやパソコン、ネットワーク接続ストレージ（NAS）などの DLNA サーバーに保存した音楽ファイルを再生するには、各デバイスがネットワークに正しく接続されている必要があります。

- ハブまたはルーターと本機は、市販の STP ケーブルで接続してください。
- お使いのルーターが DHCP サーバー非対応の場合は、ネットワーク設定を手動で行ってください（☞p.97）。

接続する

USBデバイスを接続する

USB メモリを、フロントパネルの USB ポートに差し込みます。
USB メモリを使って再生できる音楽ファイルの形式や、本機が対応している USB メモリの種類などについては、**「パソコンや USB デバイスを使って曲を再生する」**（☞p.64）をご覧ください。

USB メモリ

ご注意

- USB デバイスを差し込むときは、正しい向きになっていることを確認してください。
- ハードディスクドライブなど、USB メモリ以外の機器を接続しないでください。

スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）

本機には、最適な音響で視聴できるよう、スピーカーの有無、音量バランス、音色などを自動調整する YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）が搭載されています。YPAO を使えば、リスニングルームの音響測定やスピーカーの出力調整などの設定が自動でできます。

YPAO の実行

本書では複数の視聴位置で測定を行う「マルチ測定」について説明します。
マルチ測定を行わない際の YPAO の実行方法は**「簡易接続・操作ガイド」**の**「⑦スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）」**をご覧ください。

1 YPAO 測定を行う前の準備をする。

「簡易接続・操作ガイド」の**「⑦スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）」**の手順1～6をご覧のうえ、準備を行ってください。

2 ⑨カーソル △ / ▽ を使って「マルチ測定」を選び、⑨ENTER を押す。

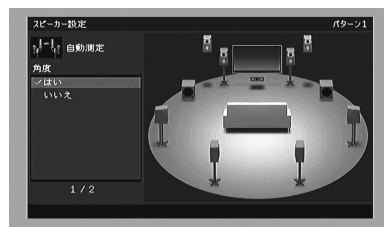
マルチ測定（8 か所まで）を行うときは **⑨カーソル △ / ▽** で「はい」を選び、**⑨ENTER** を押します。

YPAO MLT.Position -18.5 dB VOLUME
>Yes No

3 ⑨カーソル △ / ▽ を使って「角度」を選び、⑨ENTER を押す。

スピーカーの角度を測定するときは **⑨カーソル △ / ▽** で「はい」を選び、**⑨ENTER** を押します。

測定しない場合は、「いいえ」を選んで **⑨ENTER** を押します。

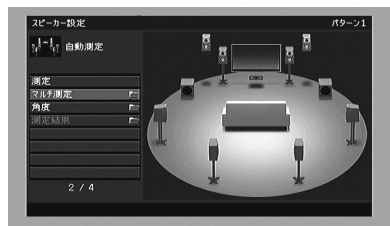
YPAO Angle -18.5 dB VOLUME
>Yes No

これで準備は完了です。より正確な測定結果を得るために次のことにご注意ください。

- 測定は一か所につき数分かかります。測定中はリスニングルームをできるだけ静かに保ってください。
- 測定中はリスニングルームの隅で待機するか部屋から退出して、スピーカーと YPAO マイクの間を遮らないようにしてください。

4 ⑨カーソル △ / ▽ を使って「測定」を選び、⑨ENTER を押して測定を開始する。

10 秒ほどで自動測定が始まります。

- 測定をすぐに開始する場合はもう一度 **⑨ENTER** を押します。
- 自動測定を中止する場合は **⑨RETURN** を押してから **⑨ENTER** を押します。

測定中の画面

❚ 手順２で「マルチ測定」を「いいえ」にしたとき

測定が問題なく完了した場合は、測定結果に基づいて計測が開始されます。

● 手順３で「角度」を「いいえ」にした場合

計測が完了すると以下の画面が表示されます。

手順 11 に進んでください。

● 手順３で「角度」を「はい」にした場合

計測が完了すると以下の画面が表示されます。

手順６に進んでください。

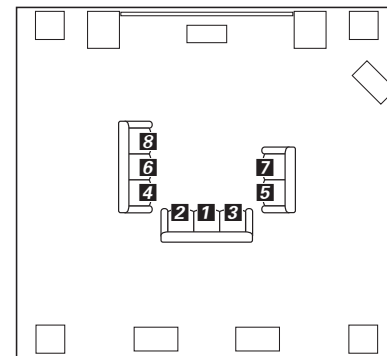
❚ 手順２で「マルチ測定」を「はい」にしたとき

最初の位置での測定が完了すると以下の画面が表示されます。

次の手順に進んでください。

5 YPAOマイクを次に測定する場所へ移動させ、9ENTER を押して測定を再開する。

10 秒ほどで自動測定が始まります。

以下のイラストは測定位置（視聴位置）を８つとした場合の測定位置例です。最大８つまでの視聴位置を測定できます。💡1

💡 **1：** まずテレビの正面など、最もよく視聴する位置から測定を開始してください。

すべての位置での測定が完了するまで測定を繰り返します。

最後の位置での測定が問題なく完了した場合は、測定結果に基づいて計測が開始されます。

次ページにつづく

■ 手順３で「角度」を「いいえ」にしたとき

計測が完了すると以下の画面が表示されます。

手順 11 に進んでください。

■ 手順３で「角度」を「はい」にしたとき

計測が完了すると以下の画面が表示されます。

手順 6 に進んでください。

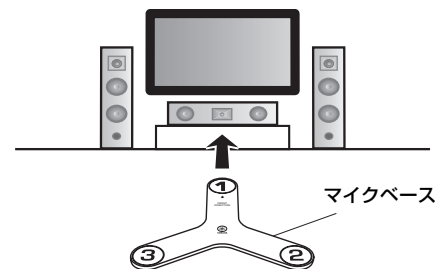
ご注意

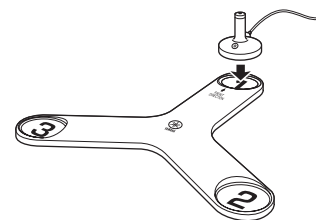
問題が発生した場合は、測定中または測定後にエラーメッセージや警告メッセージが表示されます。**「測定中にエラーメッセージが表示された場合」**（☞p.44）、**「測定後に警告メッセージが表示された場合」**（☞p.45）を参考に問題を解消し、再度 YPAO を実行してください。

6 ⑨カーソル ◁ / ▷ を押して「はい」を選び、⑨ENTER を押す。

以下の画面が表示されます。

7 付属のマイクベースを、自分がもっともよく視聴する位置におく。

このとき、マイクベースの矢印がセンタースピーカーまたは左右のフロントスピーカーの間を指すようにしてください。

角度を正確に測定するには、マイクベースを測定位置に座ったときの耳の位置に合わせて取り付けるために、三脚のご使用をおすすめします。三脚にマイクベースを固定するには、付属の三脚用ネジをご使用ください。

8 YPAOマイクをマイクベースの①の位置に置く。

9 ⑨ENTER を押す。

アングルの測定が始まります。

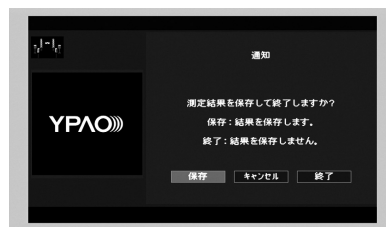
9

10 手順８と９を繰り返して、マイクベースの②、③の位置でも測定する。

測定が完了すると、以下の画面が表示されます。

測定結果	自動測定の結果などを表示します。詳しくは取扱説明書の**「自動測定の設定値を確認する」**（☞p.43）をご覧ください。
保存／終了	保存　スピーカーの設定に測定結果を反映させ、自動測定を終了します。 キャンセル　前の画面に戻ります。 終了　スピーカーの設定に測定結果を反映させずに自動測定を終了します。

- 画面に警告メッセージが表示されたときは、**「測定中にエラーメッセージが表示された場合」**（☞p.44）をご覧ください。
- 前の画面に戻る場合は 9**RETURN** を押してください。

11 9カーソル △ / ▽ を使って「保存／終了」を選び、9ENTER を押す。

12 9カーソル ◁ / ▷ を使って「保存」を選び、9ENTER を押す。

13 9ENTER を押す。

YPAO 設定が完了しました。YPAO マイクを本機から外してください。

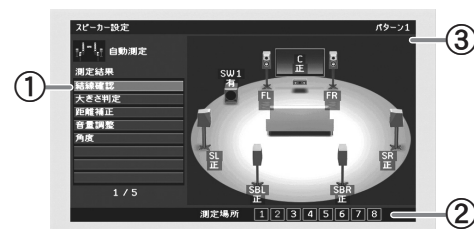
YPAO マイクは熱に弱いため、測定が終了したら高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

自動測定の設定値を確認する

自動測定の設定値を確認することができます。

1 自動測定が終了したら、9カーソル △ / ▽ を押して「測定結果」を選び、9ENTER を押す。

「測定結果」は、自動測定を行った場合のみ表示できます。

以下の画面が表示されます。

① **測定結果メニュータイトル**
測定結果メニューのタイトルが表示されます。

② **マルチ測定番号**
マルチ測定を行った際の順番が番号で表示されます。

③ **グラフィック表示**
スピーカー設定とサウンド調整がグラフィックで表示されます。

2 9カーソル△ / ▽ / ◁ / ▷と9ENTERを使って、メニュー項目を選ぶ。

結線確認	スピーカーの接続状態や極性を表示します。 – 正：極性が正しく接続されている。 – 逆：極性が逆に接続されている。
大きさ判定	各スピーカーの大きさ低音クロスオーバー周波数を表示します。 – 大：低域効果音を効果的に再生できる。 – 小：低域効果音を効果的に再生できない。
距離補正	視聴位置から各スピーカーまでの距離を表示します。
音量調整	各スピーカーの音量の補正結果を表示します。
角度	測定位置でのフロントスピーカー、サラウンドスピーカー、フロント / リアプレゼンススピーカーの角度を表示します。
設定の呼び出し ☞1	手動での設定値を破棄し、自動測定の設定値に戻します。詳しくは**「自動測定の設定値に戻す」**（☞p.43）をご覧ください。

3 9RETURN を押して「測定結果」メニューを終了する。

自動測定の結果は、「手動設定」でお好みに合わせて微調整することができます。詳しくは、**「スピーカーの各種パラメーターを手動設定する」**（☞p.89）をご覧ください。

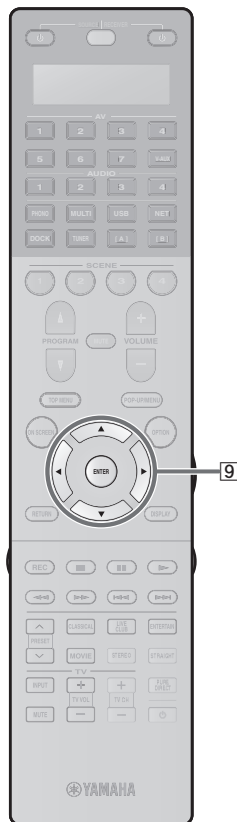
■ 自動測定の設定値に戻す

手動で微調整した設定値を自動測定の設定値に戻したい場合は、本機に登録した自動測定結果を呼び出して戻すことができます。

1 測定結果メニューで「設定の呼び出し」を選び、9ENTER を押す。

ご注意
自動測定の設定値が呼び出されると、手動での設定値は破棄されます。設定呼び出し後も手動での設定値を保存しておく場合は、**「設定保護」**（☞p.102）をご覧ください。

☞ **1 :** この項目は「手動設定」で測定結果を微調整したときのみ表示されます。

接続する

YPAO を実行した際、エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合は、以下の説明を参考に問題を解決し、再度 YPAO を実行してください。

測定中にエラーメッセージが表示された場合

メッセージの内容をメッセージ一覧（☞p.46）で確認できます。

エラー内容を確認したら、下記に沿って YPAO を再実行してください。

「E-1、E-2、E-3、E-4、E-6、E-11」が表示された場合

1 9**ENTER** を押す。

2 9**カーソル** ▷ を押して「終了」を選ぶ。

3 9**ENTER** を押して YPAO を終了させ、本機の電源を落としてスタンバイにする。

4 スピーカーの接続が正しくされているか確認する。

5 本機をオンにして YPAO を再実行する。

「E-7、E-8」が表示された場合

1 9**ENTER** を押す。

2 周囲の騒音や YPAO マイクの状態など、測定した状況が適切か確認する。

3 9**カーソル** ▷ を押して「再測定」を選ぶ。

4 9**ENTER**を押してYPAOを再実行する。

「E-5、E-9」が表示された場合

1 9**ENTER** を押す。

2 周囲の騒音や YPAO マイクの状態など、測定した状況が適切か確認する。

3 9**カーソル** ◁ / ▷ を押して下記のどちらかを選ぶ。

続行	「E-5」表示時でも測定を進めることができます。ただし騒がしい場所では、正確に測定できないことがあります。「E-9」表示時は、中止されたところから測定を再開します。
リトライ	測定を最初からやり直します。

4 9**ENTER** を押して選択した項目を確定する。

「E-10」が表示された場合

1 9**ENTER** を押す。

2 9**カーソル** ▷ を押して「終了」を選ぶ。

3 9**ENTER** を押して YPAO を終了させ、本機の電源を落としてスタンバイにする。

4 本機をオンにして YPAO を再実行する。

測定後に警告メッセージが表示された場合

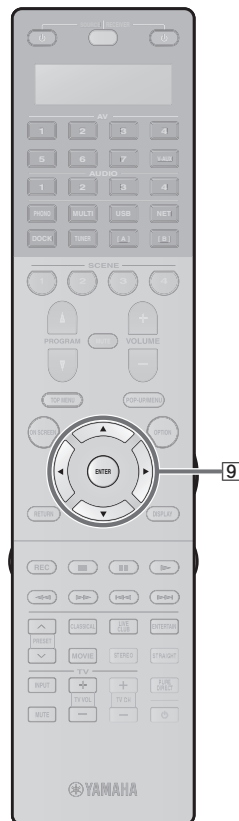
警告内容の詳細はテレビ画面で確認できます。メッセージ一覧（☞p.46）で確認してください。次の操作でメッセージの内容を確認できます。

警告メッセージが表示された場合、測定結果を反映できますが、最適な音響は得られません。問題を解決してから再度YPAOを実行することをおすすめします。
お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、「W-1」が表示されることがあります。この場合はそのまま設定を保存してください。

YPAOを終了する場合

1 **9カーソル △ / ▽ を使って「保存／終了」を選び、9ENTERを押す。**

2 **9カーソル ◁ / ▷ を使って以下の操作を選び、9ENTERを押す。**

保存：
測定結果をスピーカー設定に反映して、YPAOを終了します。
キャンセル：
前の画面（警告表示画面）に戻ります。
終了：
測定結果をスピーカー設定に反映させないまま、YPAOを終了します。

メッセージ一覧

次のメッセージが表示された場合は、発生している問題を解決してから測定をやり直してください。次の表の括弧内（Connect Mic! など）は、フロントパネルディスプレイの表示を表しています。

● 測定前に表示されるメッセージ

メッセージ	原因	対処
マイク接続確認 (Connect Mic!)	YPAO マイクが接続されていません。	YPAO マイクをフロントパネルの YPAO MIC 端子に接続してください。
HP を抜いて下さい (Unplug HP!)	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。
保護されています (Memory Guard!)	本機の設定が保護されています。	設定メニューの「設定保護」を「しない」に設定してください（☞p.102）。

● エラーメッセージ

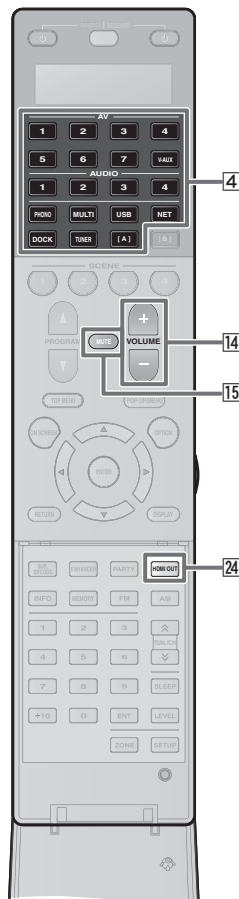
メッセージ	原因	対処
E-1: フロント SP (E-1:NO FRNT SP)	フロントチャンネルが検出されませんでした。	左右のフロントスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-2: サラウンド SP (E-2:NO SUR SP)	サラウンドチャンネルの片側しか検出されませんでした。	左右のサラウンドスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-3:F プレゼンス SP (E-3:NO FPR SP)	フロントプレゼンススピーカーの片側しか検出されませんでした。	左右のフロントプレゼンススピーカーが正しく接続されていることを確認してください。
E-4:SBR → SBL (E-4:SBR->SBL)	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合に、R 側のサラウンドバックチャンネルのみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続する場合は､L 側(SINGLE)の端子に接続してください。
E-5: 雑音大 (E-5:NOISY)	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな環境で測定をやり直してください。騒音を発生する機器が室内にある場合は電源を一時的に切るか、YPAO マイクから遠ざけてください。 このメッセージが表示された場合は「続行」を選択して測定を続行することも可能です。ただし最適な計測結果が得られるよう再計測することをおすすめします。
E-6: サラウンド確認 (E-6:CHECK SUR)	サラウンドスピーカー L/R が接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンドスピーカー L/R を接続する必要があります。
E-7: マイク未接続 (E-7:NO MIC)	測定の途中で YPAO マイクが外れました。	測定中は YPAO マイクに触れないようご注意ください。
E-8: 信号入力無し (E-8:NO SIGNAL)	YPAO マイクがテストトーンを検知していません。	YPAO マイクが正しく設置されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。
		YPAO マイク、または YPAO MIC 端子が壊れている可能性があります。お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9: 測定キャンセル (E-9:CANCEL)	何らかの操作をしたため、測定を中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。
E-10: 内部エラー (E-10:INTERNAL)	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。「E-10」が繰り返し表示される場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-11:R プレゼンス SP (E-11:NO RPR SP)	リアプレゼンススピーカーの片側しか検出されませんでした。	左右のリアプレゼンススピーカーが正しく接続されていることを確認してください。

● 警告メッセージ

メッセージ	原因	対処
W-1:SP 接続逆相 (W-1:PHASE)	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されている可能性があります。	お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、「W-1」が表示されることがあります。この場合は測定結果を反映しても問題ありません。
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
W-2: 距離 24m 超 (W-2:DISTANCE)	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が 24m 以上離れているため、正確に補正できません。	リスニングポジションの 24m 以内にスピーカーを設置してください。
W-3: 音量補正限界 (W-3:LEVEL)	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、正確に補正できません。	すべてのスピーカーが同じ環境下に設置されているか確認してください。
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。
		サブウーファーの音量を調節してください。

「W-2」または「W-3」が表示された場合、計測結果は適用できますが、最適な状態ではありません。問題を解決してから再度計測することをおすすめします。

再生する

再生の基本操作

1 本機に接続した外部機器（テレビや BD/DVD プレーヤーなど）の電源をオンにする。

2 ④入力ソース選択キーを押す。

選択した入力ソース名が、フロントパネルディスプレイにしばらく表示されます。1

HDMI、AV、AUDIO、V-AUX、MULTI CH、PHONO 以外の入力ソースを選んだときは、選んだ入力ソースのコンテンツ画面がテレビに表示されます（☞p.60）。

3 外部機器を再生する、またはチューナーの放送局を選ぶ。

外部機器の再生方法については、外部機器に付属する取扱説明書をご覧ください。FM/AM チューナーの放送局の選び方や、本機を使って iPod や Bluetooth 機器を再生する方法は、下記ページをご覧ください。

- 「FM/AM 放送を聴く」（☞p.61）
- 「パソコンやUSBデバイスを使って曲を再生する」（☞p.64）
- 「インターネットラジオを聴く」（☞p.67）
- 「iPod™/iPhone™ を再生する」（☞p.70）
- 「Bluetooth® 機器を再生する」（☞p.74）

4 音量を調節するには、⑭VOLUME +/– を押す。

音声を消音（ミュート）するには

⑮**MUTE** を押します。

消音を解除するには、もう一度 ⑮**MUTE** を押すか、⑭**VOLUME +/–** を使って音量を変更します。

■ 出力する HDMI OUT 端子を選ぶ

信号を出力する HDMI OUT 端子を選びます。

㉔HDMI OUT を繰り返し押し、出力に使う HDMI OUT 端子を選ぶ。

以下のように HDMI OUT 出力の設定が切り替わります。

OUT 1+2	HDMI OUT 1-2 端子の両方から同時に信号を出力します。
OUT 1	HDMI OUT 1 端子からのみ信号を出力します。
OUT 2	HDMI OUT 2 端子からのみ信号を出力します。
Off	HDMI OUT 1-2 端子のどちらからも信号を出力しません。HDMI OUT 端子に接続したテレビを使わずに他の出力端子に接続した機器へ信号出力したい際に、この設定を選びます。

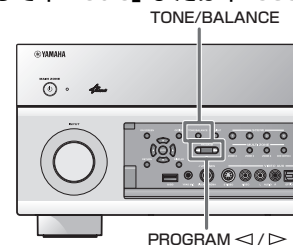
- HDMI コントロール機能を使ってテレビと接続しているときは、出力する HDMI OUT 端子を「コントロール選択」で設定します。
- HDMI コントロールが「オン」の場合、HDMI 対応の外部機器が接続されている HDMI OUT 端子と同様に、「コントロール選択」で選択した HDMI OUT 端子も自動的に有効になります。
- 出力する HDMI OUT 端子はシーン機能（☞p.81）でも登録できます。

■ 高音 / 低音を調整する（トーンコントロール）

フロントスピーカー L/R またはヘッドホンから出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを変更して、お好みの音色に調整します。

スピーカーとヘッドホンは個別にトーンコントロールを設定できます。ヘッドホンのトーンコントロールを調節するには、ヘッドホンを接続した状態で操作してください。

1 フロントパネルの TONE/BALANCE を押して「Treble」または「Bass」を選ぶ。

TONE/BALANCE

PROGRAM ◁ / ▷

フロントパネルディスプレイに、現在の設定値が表示されます。

Tone Control
Treble +0.5dB

2 PROGRAM ◁ / ▷ を押して、増減量を調節する。

設定範囲	–6.0dB ～ +6.0dB
設定単位	0.5dB

操作してからからしばらく待つと、元の表示に戻ります。

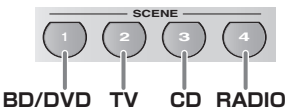
- 入力ソースが「MULTI CH」のときや本機を「ピュアダイレクトモード」にしているときは、トーンコントロールの設定が無効になります。
- 極端な設定にすると、再生する音声の音のつながりが悪くなることがあります。
- トーンコントロールはオプションメニューでも設定できます（☞p.56）。

1：フロントパネルに表示される入力ソース名は必要に応じて変更できます（☞p.79）。

ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）

本機には、キー操作 1 つで電源オンから入力ソースやサウンドプログラム、出力する HDMI OUT 端子の切り替えまでを一括操作できる「シーン機能」が搭載されています。

外部機器に適したシーンを選択する

初期設定では、シーン機能は以下の機器に合わせて設定されています。再生したい機器の種類に合わせて、シーンを選択してください。

シーン 1

ブルーレイディスクまたは DVD 再生に適した設定です。フロントパネルの SCENE1 を押してから、AV1 端子に接続した BD/DVD プレーヤーを再生してください。

シーン 2

テレビ番組に適した設定です。フロントパネルの SCENE2 を押してから、AUDIO 端子に接続したテレビの電源をオンにしてください。

シーン 3

CD に適した設定です。フロントパネルの SCENE3 を押してから、AUDIO2 端子に接続した CD プレーヤーを再生してください。

シーン 4

ラジオに適した設定です。フロントパネルの SCENE4 を押してから、ラジオを受信してください。

シーン 5 〜 12

初期設定では、何も登録されていません。お気に入りのシーンを登録したり、シーン選択メニューで「保存」や「呼び出し」をしたりできます。詳しくは、**「シーン選択メニュー項目」**（☞p.81）をご覧ください。

- シーンを切り替えるときは、リモコン操作の対象になっている外部機器も切り替えてください。
- シーン選択および編集は、シーン選択メニューで行ってください。（☞p.81）
- 本機には、さらに8つのシーン機能があります。いずれか1つのシーンを選ぶと、8つのシーンのうちのどれか 1 つも選択されます。（☞p.81）
- 5**SCENE** を 3 秒以上押し続けると、現在の設定をシーンに登録できます。

映画と音楽など、異なる目的で 4 つのシーンを利用することができます。下記の表のような入力ソース、サウンドプログラム、HDMI 出力端子などの設定は、初期設定で割り当てられています。

☑ の付いていない設定は、シーンボタンを押すと無効になります。有効になる設定については、シーン選択メニューの「呼び出し」で確認してください。詳しくは、**「シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）」**（☞p.81）をご覧ください。

シーン	入力ソース	音声入力選択	HDMI 出力端子	サウンドプログラム	ピュアダイレクトモード	トーンコントロール	Adaptive DRC	コンプレストミュージックエンハンサー	シネマ DSP 3D モード	セリフ位置調整	拡張サラウンド	ビデオ画質調整	ビデオ信号処理	マスターボリューム	リップシンク	ディレイ	設定パターン	PEQ 選択
	☑		☑	☑		☑			☐			☐	☐	☐	☐		☐	
1 (BD/DVD Music Viewing)	AV1	自動	OUT1 ＋ 2	Drama	自動	低音：0.0dB 高音：0.0dB	オン	オフ	オン	0	自動	オフ	オフ	-40.0dB	自動	0ms	パターン 1	ナチュラル
2 (TV Viewing)	AUDIO1	自動	OUT1 ＋ 2	STRAIGHT	自動	低音：0.0dB 高音：0.0dB	オン	オン	オン	0	自動	オフ	オフ	-40.0dB	自動	0ms	パターン 1	ナチュラル
3 (CD Music Listening)	AUDIO2	自動	OUT1 ＋ 2	STRAIGHT	自動	低音：0.0dB 高音：0.0dB	オフ	オフ	オン	0	自動	オフ	オフ	-40.0dB	自動	0ms	パターン 1	ナチュラル
4 (RADIO Listening)	AUDIO3	---	OUT1 ＋ 2	STRAIGHT	自動	低音：0.0dB 高音：0.0dB	オフ	オン	オン	0	自動	オフ	オフ	-40.0dB	自動	0ms	パターン 1	ナチュラル

シネマ DSP などの音場効果を楽しむ

記憶されたさまざまなサウンドプログラム（音場プログラム）や多彩なサラウンドデコーダーを使って、ほぼすべての音声をマルチチャンネル再生できます。

音場効果やサラウンドデコーダーなどを選ぶ

本機では、映画用、音楽用など用途に応じた複数のカテゴリーにそれぞれ音場設定（サウンドプログラム）が用意されています。サウンドプログラムの名前や説明にこだわらず、再生するソースが最も心地よく聴こえるプログラムをお選びください。

サウンドプログラムを選ぶ：

CLASSICAL カテゴリー（☞p.52）： ⑲**CLASSICAL** を繰り返し押す。💡1
LIVE/CLUB カテゴリー（☞p.52）： ⑲**LIVE/CLUB** を繰り返し押す。💡1
ENTERTAIN カテゴリー（☞p.52）： ⑲**ENTERTAIN** を繰り返し押す。💡1
MOVIE カテゴリー（☞p.53）： ⑲**MOVIE** を繰り返し押す。

ステレオ再生（☞p.53）を選ぶ：

⑲**STEREO** を繰り返し押す。

サラウンドデコーダー（☞p.53）を選ぶ：

⑳**SUR. DECODE** を繰り返し押す。

ストレートデコードモード（☞p.50）に切り替える：

⑲**STRAIGHT** を押す。

ピュアダイレクトモード（☞p.51）に切り替える：

⑲**PURE DIRECT** を押す。

コンプレストミュージックエンハンサー（☞p.51）を選ぶ：

⑳**ENHANCER** を繰り返し押す。

サウンドプログラムのカテゴリー

サウンドプログラム

- 現在音声を出力しているスピーカーは、フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターで確認できます（☞p.13）。
- 各サウンドプログラムは、音場の要素を調節できます（☞p.83）。
- 選択されたサウンドプログラムは、入力ソースごとに記憶されます。入力ソースを切り替えた場合は、切り替え先の入力ソースで前回選ばれていたサウンドプログラムが呼び出されます。

💡**1：**サウンドプログラム、ステレオ再生オプション、またはサウンドデコーダーも ⑥**PROGRAM △ / ▽** で選択できます。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

音場効果をかけずに再生したい場合は、ストレートデコードモードを使用します。ストレートデコードモードを有効にすると、CD や BD/DVD など再生するソースに応じて、次のように再生されます。

CD などの 2 チャンネルソースの場合

フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルのソースの場合

適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

⑲STRAIGHT を押す。

ストレートデコードモードが有効になります。

ストレートデコードモードを解除するには、もう一度 ⑲**STRAIGHT** を押してください。

以前に選ばれていたプログラム

ステレオ再生する

再生するソースにかかわらず、2 チャンネルステレオ（フロントスピーカーのみ）で再生したい場合は、サウンドプログラムの「2ch Stereo」を選びます。2ch Stereo を選ぶと、CD や BD/DVD など再生するソースに応じて、次のように再生されます。

CD などの 2 チャンネルソースの場合

フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。

BD/DVD などのマルチチャンネルソースの場合

再生ソースに含まれるフロント以外のチャンネルを、フロントチャンネルにミックスして、フロントスピーカーから再生します。

⑲STEREOを繰り返し押して、「2ch Stereo」を選択する。

ステレオ再生を解除するには、 ⑲**音場選択キー**を使って「2ch Stereo」以外のサウンドプログラムを選んでください。

サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ

サラウンドスピーカーがない場合でも、仮想スピーカーを創り出すことで自然な音場効果を再現できます（バーチャルシネマ DSP モード）。たとえばフロントスピーカーのみの構成でも、サウンドプログラムの臨場感が楽しめます。

サラウンドスピーカーを「構成」で「無」にしているときは、自動でバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。 **1**

ヘッドホンで音場効果を楽しむ

本機にヘッドホンを接続した場合でも、音場効果の臨場感が手軽に再現できます（サイレントシネマモード）。 **2**

1 : 次の場合バーチャルシネマ DSP モードは動作しません。
- ヘッドホンを本機に接続している場合
- サウンドプログラムの 7ch Stereo か 2ch Stereo を選んでいる場合
- ピュアダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合

2 : 次の場合サイレントシネマモードは動作しません。
- サウンドプログラムの 2ch Stereo を選んでいる場合
- ピュアダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合

■ より空間的な音場効果で楽しむ（シネマ DSP 3D モード / シネマ DSP³ モード）

シネマ DSP 3D モードまたはシネマ DSP³（シネマディーエスピーキュービック）モードでは、より緻密で立体的な 3D 感覚の音場をリスニングルームに再現します。リアプレゼンススピーカーの有無により、シネマ DSP 3D モードとシネマ DSP³ モードは、自動的に切り替わります。💡1

シネマ DSP 3D モード

フロントプレゼンススピーカーを使った 9.1 チャンネル（7.1ch ＋フロントプレゼンス 2ch）や 7.1 チャンネル（5.1ch ＋フロントプレゼンス 2ch）のスピーカーシステムを構築している場合に、フロントプレゼンススピーカーの効果を最大限発揮させることで立体的な音場を創り出します。フロントプレゼンススピーカーは、以下の手順で接続、設定します。

- フロントプレゼンススピーカーを本機の EXTRA SP1端子か、PRE OUTのFRONT/F.PRESENCE端子から外部アンプを経由して接続する。
  （☞ 簡易ガイド、p.25）
- 「パワーアンプ割り当て」でフロントプレゼンススピーカーを有効にする。（☞p.88）
- オプションメニューでシネマDSP 3Dモードを有効にする。（☞p.58）

シネマ DSP³ モード

フロントプレゼンススピーカーを使った 9.1 チャンネルまたは7．1チャンネルスピーカー構成に加えて 2 台のリアプレゼンススピーカーを接続している場合に、視聴位置後方の立体感をより明瞭に表現します。シネマ DSP 3D モードの 3D 感覚を、さらにスケールアップするモードです。シネマ DSP³ を有効にするには、シネマDSP 3D モードの設定に加えて、以下の手順でリアプレゼンスを接続、設定します。

- リアプレゼンススピーカーを EXTRA SP2 端子に、またはZONE OUTのZONE3/R.PRESENCE端子から外部アンプを経由して接続する。
  （☞ 簡易ガイド、p.25）
- 「パワーアンプ割り当て」でフロントプレゼンススピーカーとリアプレゼンススピーカーを有効にする。（☞p.88）
- YPAO を実行するか、「構成」で「リアプレゼンス」を「使用する」に設定する。（☞ 簡易ガイド、p.89）

シネマDSP 3Dモードまたはシネマ DSP³モードが有効になっているときはフロントパネルディスプレイのシネマ DSP 3D インジケーターが点灯します。

点灯

■ フロントプレゼンススピーカーなしで音場効果を楽しむ

本機ではフロントプレゼンススピーカーを接続していない場合でも、内部で仮想のフロントプレゼンススピーカーを構築して立体感のある音場を再現できます（バーチャルシネマ DSP 3D モード）。フロント、センター、サラウンドスピーカーがあれば、立体的な音場感を楽しめます。
フロントプレゼンススピーカーが有効でない場合は、本機は自動でバーチャルシネマ DSP 3D モードに切り替わって音場を再現します。
以下の手順でバーチャルシネマ DSP 3D モードを設定します。

- フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーは必ず本機へ接続する。
- センタースピーカーとサラウンドスピーカーを「構成」で有効にする（☞p.89）。
- オプションメニューでシネマDSP 3Dモードを有効にする（☞p.58）。

■ 原音に忠実な音質で楽しむ（ピュアダイレクトモード）

ピュアダイレクトモードは、入力された音声を最小限の回路構成で出力する機能です。原音に忠実な音質で音声を楽しみたいときに使用します。
ピュアダイレクトモードをオンにしている間は、以下の機能が無効になります。

- 他のサウンドプログラム、トーンコントロールの設定
- オプションメニューやON SCREENメニューの表示および操作

⑲PURE DIRECT を押す。

ピュアダイレクトモードが有効になります。💡2

ピュアダイレクトモードを解除するには、もう一度 **⑲PURE DIRECT** を押してください。

■ 圧縮音源をより良い音質で楽しむ（コンプレストミュージックエンハンサーモード）

コンプレストミュージックエンハンサーモードは圧縮フォーマットの音源に原音のような深みと広がりを与えるモードです。💡3
このモードは他のサウンドプログラムと一緒に使うことができます。

⑳ENHANCER を押してコンプレストミュージックエンハンサーモードをオンにする。

点灯

コンプレストミュージックエンハンサーモードをオフにするには、もう一度 **⑳ENHANCER** を押します。

💡**1：** 次の場合シネマ DSP 3D モードまたはシネマ DSP³ モードは動作しません。
- ヘッドホンを本機に接続している場合
- サウンドプログラムの 7ch Stereo か 2ch Stereo を選んでいる場合
- ピュアダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合

💡**2：** ピュアダイレクトモードをオンにしている間、ノイズ軽減のためフロントパネルディスプレイの表示は暗くなります。オフにすると元の明るさに戻ります。

💡**3：** コンプレストミュージックエンハンサーモードは以下の音源では無効となります。
- サンプリングレートが 48kHz 以上の音声信号
- HD オーディオなど高解像度のストリーム音声

サウンドプログラム一覧

表中の CINEMA DSP は、シネマ DSP を使ったサウンドプログラムを表します。

■ カテゴリー：CLASSICAL

CD などの音楽ソースに効果をかけて視聴する際に最適です。

Hall in Munich CINEMA DSP	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna CINEMA DSP	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Hall in Amsterdam CINEMA DSP	アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり、客席は 2200 程です。
Church in Royaumont CINEMA DSP	パリ郊外のロワイヨモンに位置する、中世の修道院の大食堂です。美しいゴシック調の建物より作りだされる音場を特徴としています。
Chamber CINEMA DSP	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。

■ カテゴリー：LIVE/CLUB

CD などの音楽ソースに効果をかけて視聴する際に最適です。

Village Vanguard CINEMA DSP	ニューヨークの 7 番街にあるジャズクラブです。天井が低く、狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。
Warehouse Loft CINEMA DSP	ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギッシュな音場です。
Cellar Club CINEMA DSP	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre CINEMA DSP	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最高 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line CINEMA DSP	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。

■ カテゴリー：ENTERTAINMENT

テレビ番組やゲームなどの映像ソースの視聴に最適です。

Sports CINEMA DSP	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり臨場感を体感できます。
Action Game CINEMA DSP	カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、まるでゲームのなかにいるような感覚が体感できます。このプログラムはコンプレストミュージックエンハンサーモードと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game CINEMA DSP	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。バックミュージックや効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。このプログラムはコンプレストミュージックエンハンサーモードと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。
Music Video CINEMA DSP	ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。
Recital/ Opera	響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の楽しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。

カテゴリー：MOVIE

映画の映像ソースの視聴に最適です。

Mono Movie CINEMA DSP	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。拡がりと適度な残響が付加され、奥行感をともなった心地よい空間が再現されます。
Standard CINEMA DSP	Dolby Digital、DTS および AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle CINEMA DSP	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間再現と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi CINEMA DSP	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各々の空間を鮮やかに再現します。
Adventure CINEMA DSP	アクション＆アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama CINEMA DSP	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。

カテゴリー：STEREO

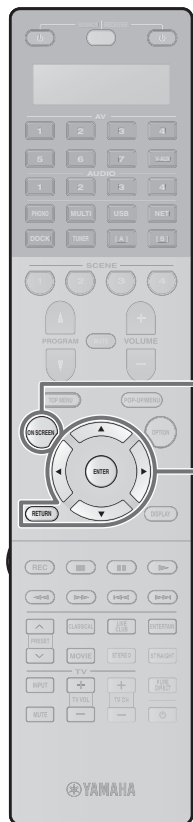
ステレオソースの視聴に最適です。

2ch Stereo	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、入力信号は 2 チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカー L/R から出力されます。
7ch Stereo CINEMA DSP	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。ホームパーティーの BGM に最適です。セットアップメニューの設定により、最大 7 つのスピーカーから音が出力されます。

カテゴリー：SUR.DECODE（サラウンドデコーダー）

サラウンドデコーダーを使って、入力された音声を最大 7.1 チャンネルで再生します。

DD Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
DD PLIIx Movie/ DD PLII Movie	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。1
DD PLIIx Music/ DD PLII Music	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。1
DD PLIIx Game/ DD PLII Game	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。ゲームに適しています。1
Neo:6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS デコーダーです。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS デコーダーです。

1：次の場合 Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。
- ON SCREEN メニューの「設定」→「スピーカー設定」→「手動設定」→「構成」でサラウンドバックスピーカーが「無」に設定されている場合
- ヘッドホンを接続している場合

テレビ画面を使って本機を操作する

本機はオンスクリーンディスプレイをテレビ画面に表示します。画面に表示されるガイドにより本機のさまざまな機能を簡単に操作できます。またオンスクリーンディスプレイで各入力ソースの情報や本機の状態を確認できます。

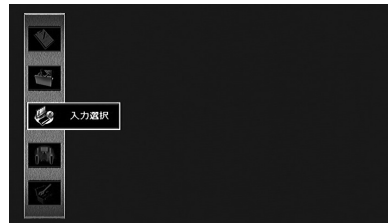
テレビ画面を使った本機の基本操作

ON SCREENやオプションといったメニューを操作するには本機とテレビを接続しておく必要があります。テレビの接続については**「テレビを接続する」**（☞p.27）をご覧ください。

ここではオンスクリーンディスプレイを使った「入力選択」、「シーン選択」、「サウンドプログラム」を設定するための基本的な操作について説明します。

[8]ON SCREEN を押す。
ON SCREEN メニューがテレビに表示されます。

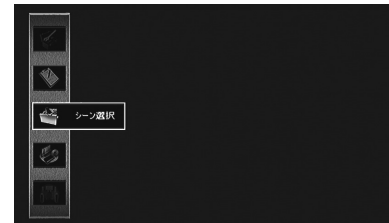
■ 入力ソースを選ぶ

1 **[9]カーソル △ / ▽ を使って「入力選択」を選び、[9]ENTER を押す。**

各入力ソースが画面の下部にアイコン表示されます。

2 **[9]カーソル ◁ / ▷ を使って入力ソースを選び、[9]ENTER を押す。**
入力ソースの選択はこれで完了です。

- **[9]RETURN**を押すと一つ前の画面に戻ります。**[9]RETURN** を繰り返し押すと ON SCREEN メニューを閉じます。
- 入力ソースを選ぶだけでなく、各入力ソースに詳細の設定ができます。詳しくは**「入力ソースごとに入出力の設定をする（入力選択メニュー）」**（☞p.78）をご覧ください。

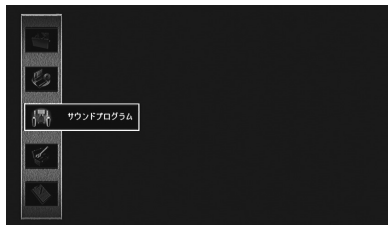
■ シーンを選ぶ

1 **[9]カーソル △ / ▽ を使って「シーン選択」を選び、[9]ENTER を押す。**

本機に登録されている各シーン設定が画面の下部にアイコン表示されます。

2 **[9]カーソル ◁ / ▷ を使ってシーンを選び、[9]ENTER を押す。**
シーンの選択はこれで完了です。

- **[9]RETURN**を押すと一つ前の画面に戻ります。**[9]RETURN** を繰り返し押すと ON SCREEN メニューを閉じます。
- シーン機能の初期設定については**「ボタン1つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.48）をご覧ください。
- シーンごとに詳細の設定をエディットできます。詳しくは**「シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）」**（☞p.81）をご覧ください。

■ サウンドプログラムを選ぶ

1 **⑨カーソル △ / ▽ を使って「サウンドプログラム」を選び、⑨ENTER を押す。**

本機に登録されている各サウンドプログラムが画面の下部にアイコン表示されます。

2 **⑨カーソル ◁ / ▷ を使ってサウンドプログラムを選び、⑨ENTER を押す。**
サウンドプログラムの選択はこれで完了です。

- **⑨RETURN**を押すと一つ前の画面に戻ります。**⑨RETURN** を繰り返し押すと ON SCREEN メニューを閉じます。
- サウンドプログラムについては**「シネマ DSP などの音場効果を楽しむ」**（☞p.49）をご覧ください。
- サウンドプログラムごとに詳細の設定をエディットできます。詳しくは**「音場 / サラウンドデコーダーの効果を調節する（サウンドプログラムメニュー）」**（☞p.83）をご覧ください。

本機では主に以下の 3 つのメニューから操作や設定確認ができます。
- ON SCREEN メニュー（☞p.78）
- オプションメニュー（☞p.56）
- コンテンツ画面（☞p.60）

これらのメニューを使うことで入力ソースやシーン、サウンドプログラムを選ぶだけでなく、さまざまな機能の設定が行えます。

入力ソースごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）

本機には、入力ソースごとに設定可能なメニュー（オプションメニュー）が用意されています。オプションメニューでは、他の入力ソースとの音量差を調整したり、外部機器から入力された映像 / 音声の情報を表示したりできます。

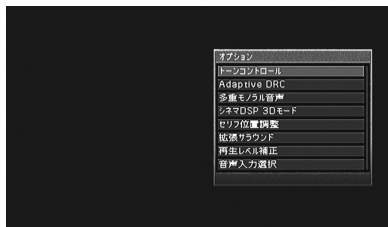
オプションメニューの表示 / 設定

オプションメニューは、本機のフロントパネルディスプレイや、テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）を見ながら操作できます。ここではテレビ画面を見ながら設定する方法を例にあげて説明します。

1 **4入力ソース選択キー**を使ってオプション機能を設定したい入力ソースを選ぶ。

2 **16OPTION を押す。**

オプションメニューが表示されます。

オプションメニュー

表示されるオプションメニューでできることは入力ソースごとに異なります。
詳しくは次項目の「オプションメニュー」をご覧ください。

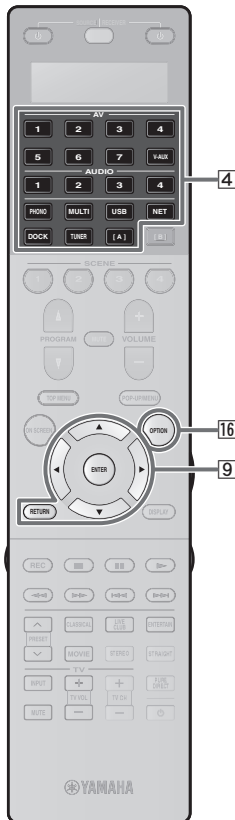
3 **9カーソル △ / ▽ を使って設定したい項目を選び、9ENTER を押す。**

選んだ項目の設定値が表示されます。

4 **9カーソル ◁ / ▷ を使って設定値を変更する。**

- **9RETURN** を押すと一つ前の画面に戻るかオプションメニューを閉じます。
- 幾つかの機能をお使いになる際、オプションメニューが自動で閉じることがあります。

5 **16OPTION を押してオプションメニューを閉じる。**

オプションメニューを閉じた後、数秒の間リモコンのキーが反応しにくいことがあります。このようなときは入力ソースを選び直してください。

オプションメニュー項目

オプションメニューでは入力ソースに応じて以下の項目を設定できます。💡1

	AV1-4	AV5-7	V-AUX	AUDIO1-4	PHONO	MULTI CH	USB	PC	NET RADIO	DOCK（iPod）	DOCK（Bluetooth）	TUNER
トーンコントロール	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
Adaptive DRC	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
多重モノラル音声	○	○	○									
シネマ DSP 3D モード	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
セリフ位置調整 💡2	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
拡張サラウンド	○	○	○	○ 💡3								
再生レベル補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビデオ画質調整	○		○	○ 💡4								
音声入力選択	○		○	○ 💡3								
シャッフル							○	○		○ 💡5		
リピート							○	○		○ 💡5		
接続											○	
切断											○	
ペアリング											○	

💡**1：**下記の項目は全入力ソースに共通で設定されます。
「トーンコントロール」、「Adaptive DRC」、「多重モノラル音声」、「シネマ DSP 3D モード」、「セリフ位置調整」、「拡張サラウンド」
このときはフロントパネルディスプレイに「ALL」と表示されます。入力ソースごとに固有で設定できる項目では、フロントパネルディスプレイに入力ソース名が表示されます。入力ソース名を変更していない場合は、入力ソースの初期名称が表示されます。

💡**2：**「セリフ位置調整」はフロントプレゼンススピーカーが有効なときにのみ設定できます。

💡**3：**「拡張サラウンド」と「音声入力選択」は、設定メニューの「入力端子割り当て」からこの入力ソースに「同軸 / 光」を割り当てている場合のみ設定できます。詳しくは、**「入出力端子を機器に割り当てる」**（☞p.101）をご覧ください。

💡**4：**この機能は、入力ソースにコンポーネントを割り当てたときのみ設定できます。詳しくは、**「入出力端子を機器に割り当てる」**（☞p.101）をご覧ください。

💡**5：**ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）には対応していません。

高音 / 低音を調整する

トーンコントロール

フロントスピーカー L/R またはヘッドホンから出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを変更して、お好みの音色に調整します。

設定範囲	–6.0dB ～ +6.0dB
設定単位	0.5dB

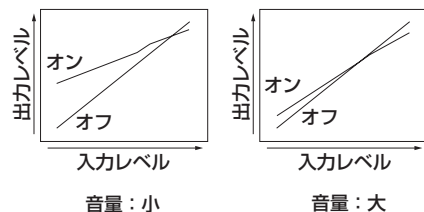
小音量でも聴きやすい音量に自動調節する

Adaptive DRC

本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。この設定を「オン」にすると、セリフや効果音がよりクリアになります。1

オフ（初期設定）	自動ではダイナミックレンジを調節しません。
オン	ダイナミックレンジを自動的に調節します。

オン に設定した場合、次のようにダイナミックレンジが調節されます。

音量が小さいときはダイナミックレンジ幅が狭く、音量が大きくなるほどレンジ幅が拡がります。

テレビの主音声と副音声を切り替える

多重モノラル音声

BS ／地上波デジタル放送などで使われている AAC モノラル二重音声入力時に、出力する音声を設定します。2

主＋副	主音声と副音声をフロント左／右スピーカーから同時に出力します。PCM 信号入力時のフロント左／右チャンネルへの振り分けは、BS デジタルチューナーの設定により異なります。詳しくは BS デジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。
主音声（初期設定）	主音声をフロント左／右スピーカーから出力します。
副音声	副音声をフロント左／右スピーカーから出力します。

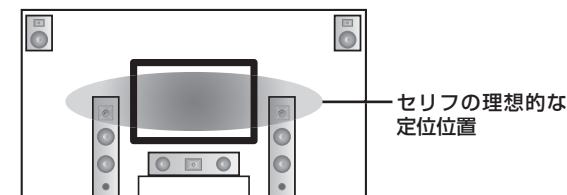
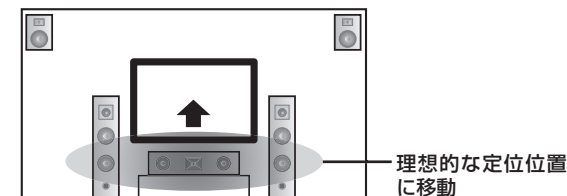
より立体的な音場を楽しむ

シネマ DSP 3D モード

CINEMA DSP 3D モードまたは CINEMA DSP^3（シネマディーエスピーキュービック）モードが可能な音源の場合に、サウンドプログラムを CINEMA DSP 3D モードまたは CINEMA DSP^3 モード（☞p.51）にするかを設定します。

セリフの音の位置を調整する

セリフ位置調整

フロントプレゼンススピーカーを使っている場合に、セリフなど、中央に定位する音の位置を上下に調節します。値を大きくするほど上方に移動します。

セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合は、設定値を大きくしてください。

「0」（初期設定）が最も低く、「5」が最も高い位置となります。

- フロントプレゼンススピーカーが接続されていない場合（または無効に設定した場合）、このパラメーターは表示されません。
- セリフの位置を初期設定の状態より低くすることはできません。

1：「Adaptive DRC」はヘッドフォンをご使用の際に便利です。
2：本項目は、デジタル音声を入力した場合にのみ有効になります。

サラウンドバック使用時に5.1チャンネル音声の再生方法を設定する

拡張サラウンド

サラウンドバックスピーカーが使用可能な環境（6.1/7.1 チャンネル）での、本機に入力された 5.1 チャンネル音声の再生方法を選びます。※1

自動判別（初期設定）	サラウンドバックチャンネルのフラグを含む音声が入力されると、最適なデコーダーを自動的に選び、音声を 6.1 または 7.1 チャンネルに再構成して再生します。
PLIIx ムービー	サラウンドバックチャンネルのフラグの有無にかかわらず、常に Dolby Pro Logic IIx Movie デコーダーを使って音声を 6.1 または 7.1 チャンネルに再構成して再生します。サラウンドバックスピーカーを 2 つ接続しているときのみ選択できます。
PLIIx ミュージック	サラウンドバックチャンネルのフラグの有無にかかわらず、常に Dolby Pro Logic IIx Music デコーダーを使って音声を 6.1 または 7.1 チャンネルに再構成して再生します。サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選択できます。
EX/ES	サラウンドバックチャンネルのフラグの有無にかかわらず、最適なデコーダーを自動的に選び、常に 6.1 チャンネルで再生します。
オフ	サラウンドバックチャンネルのフラグ有無にかかわらず、常にオリジナルのチャンネル数で再生します。

入力ソース間の音量差を調整する

再生レベル補正

入力ソースごとに音量を調節し、入力ソース間の音量差を補正します。入力ソースを切り替えたときの音量差が気になる場合は、このパラメーターを調節してください。

設定範囲	–6.0dB ～ +6.0dB
初期設定	0.0dB
設定単位	0.5dB

画質調整プリセットの選択

ビデオ画質調整

選択した入力ソースに適したプリセットを選択します。（☞p.95）

音声入力端子を選択する

音声入力選択

入力ソースが 1 つ以上の端子に接続されている場合に、ソースからの信号が入力される端子を選択します。

自動判別（初期設定）	以下の順で、自動的にインプット信号を選択します。 HDMI →デジタル信号→アナログ信号
HDMI	HDMI 信号のみを選択します。HDMI 信号が入力されていない場合は、音声は出力されません。
同軸 / 光	同軸または光デジタル信号のみを選択します。それらの信号が入力されていない場合は、音声は出力されません。
アナログ	アナログ信号のみを選択します。アナログ信号が入力されていない場合は、音声は出力されません。

シャッフル再生する

シャッフル

iPod/iPhone の曲やアルバムをシャッフル再生します。シャッフル機能がオンのときはテレビに「 」が表示されます 。※2

オフ	シャッフル機能をオフにします。
オン ※3	シャッフル機能をオンにします。
曲 ※4	曲をランダムに再生します。
アルバム ※4	アルバム単位でランダムに再生します。

リピート再生する

リピート

iPod/iPhone の曲やアルバムを繰り返し再生します。リピート機能がオンのときはテレビに「 （1 曲）」か「 （すべて）」が表示されます 。※2

オフ	リピート機能をオフにします。
1 曲	曲を繰り返し再生します。
すべて	アルバム単位で繰り返し再生します。

Bluetooth 機器を本機とワイヤレス接続する

接続

切断

Bluetooth 機器とのワイヤレス接続 / 解除を切り替えます（☞p.75）。

Bluetooth 機器を本機とペアリングする

ペアリング

本機と Bluetooth 機器をペアリング（接続認証）します（☞p.74）。

※1：設定メニューの「入力端子割り当て」で「同軸 / 光」を割り当てている場合は、AUDIO3-4 が設定できます。また以下の場合は、拡張サラウンドの設定は無効になります。
- サウンドプログラムの 7ch Stereo を選んでいる場合
- ダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合

※2：ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）には対応していません。
※3：入力ソースに USB または PC を選択しているときのみ表示されます。
※4：入力ソースに DOCK（iPod）を選択しているときのみ表示されます。

コンテンツ画面で入力ソースを操作する

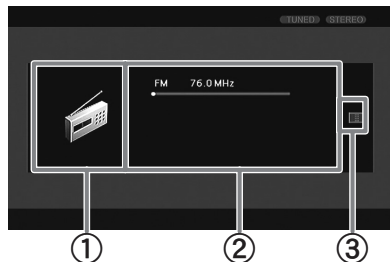
入力ソースとして USB、NET、DOCK、TUNER などを選ぶと、選んだ入力ソースのコンテンツ画面がテレビに表示されます。iPod の再生および FM/AM チューナー、インターネットラジオ、パソコン、USB の各種設定をコンテンツ画面から行えます。

コンテンツ画面をご覧になるには本機とテレビを接続しておく必要があります。テレビの接続については **「テレビを接続する」**（☞p.27）をご覧ください。

テレビにコンテンツ画面を表示する

4DOCK、4TUNER、4USB、4NET のいずれかを押して、入力ソースを切り替える。
選んだ入力ソースのコンテンツ画面が表示されます。

コンテンツ画面には、再生中の情報を表示する「再生画面」と iPod の曲情報や、チューナーのプリセット局を一覧で表示する「ブラウズ画面」の 2 つの状態があります。

TUNER 再生画面の例

① **イメージ表示**
入力ソースのイメージアイコンや再生しているアルバムアートが表示されます。

② **情報表示**
再生している曲、映像や放送局についての情報が表示されます。

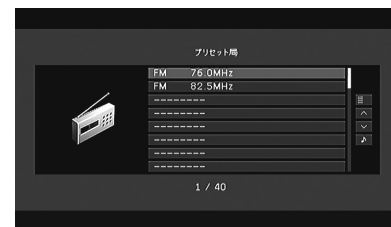
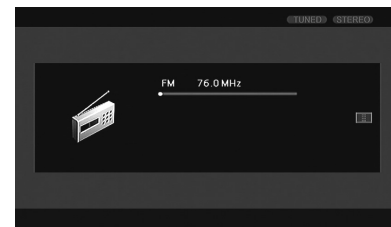
③ **操作ボタン**
選んでいる入力ソースに応じた各種操作がボタンで表示されます。
入力ソースごとの操作については下記をご覧ください。
– FM/AM チューナー（☞p.62）
– パソコン（☞p.65）
– USB デバイス（☞p.65）
– インターネットラジオ（☞p.67、p.68）
– iPod（☞p.71）

- 再生画面ではまず 9**ENTER** を押してから 9**カーソル △ / ▽** でボタンを選び、もう一度 9**ENTER** を押して決定します。
- ブラウズ画面ではまず 9**カーソル▷** を押してから 9**カーソル △ / ▽** でボタンを選び、もう一度 9**ENTER** を押して決定します。
- 再生画面では 9**RETURN** を繰り返し押すと手前の画面に戻って、画面上での操作を終了できます。

再生画面とブラウズ画面を切り替える

次の方法で再生画面とブラウズ画面を切り替えます。

- 18**DISPLAY** を押すたびに再生画面とブラウズ画面が切り替わります。
- 再生画面ではまず 9**ENTER** を押してから 9**カーソル △ / ▽** で ボタンを選びます。9**ENTER** を押して決定するとブラウズ画面に切り替わります。
- ブラウズ画面では 9**カーソル△ / ▽ / ▷** で ボタンを選びます。9**ENTER** を押して決定すると再生画面に切り替わります。

ブラウズ画面

再生画面

入力ソースが DOCK で、さらに iPod/iPhone からビデオを再生している場合、18**DISPLAY** を押すたびに画面は以下の順で切り替わります。
再生画面→ブラウズ画面→ビデオ再生画面（コンテンツ画面は閉じます）→再生画面

FM/AM 放送を聴く

FM/AM 放送の受信時は、本機に接続した FM/AM アンテナの向きを受信感度が最良になるよう調節してください。

本機の FM/AM チューナーは、以下の 2 種類の方法で選局できます。

周波数選局

放送局をサーチしたり、周波数を直接指定したりして FM/AM 放送を受信します。

プリセット選局（☞p.62）

あらかじめ FM/AM 放送局を登録（プリセット）しておき、プリセット番号を指定して放送局を呼び出します。

周波数を指定して受信する（周波数選局）

1 ④**TUNER** を押して入力ソースをチューナーに切り替える。

2 ㉕**FM** または ㉕**AM** を押して受信するバンドを選ぶ。

3 ㉕**TUN./CH** ⌃ / ⌄ を使って受信する周波数を指定する。

㉕TUN./CH ⌃

周波数をアップします。キーを 1 秒以上押し続けた場合は、現在より高い周波数に向けて放送局をサーチします。💡**1**

㉕TUN./CH ⌄

周波数をダウンします。キーを 1 秒以上押し続けた場合、現在より低い周波数に向けて放送局をサーチします。💡**1**

● 周波数を数値入力するには

リモコンの ㉒**数字キー**を使って周波数を入力します。入力する際は少数点を省略します。💡**2**
たとえば 77.1MHz の放送局を選択する場合は次のように入力します。

▌放送局を手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局を手動で選局し、1 つずつプリセットします。

1 「周波数を指定して受信する」を参考にして、登録したい放送局を受信する。

2 次のいずれかの方法で受信中の放送局を登録する。

● 空のプリセット番号に登録する場合

㉕**MEMORY** を 3 秒以上押し続けます。
最も番号の小さい空のプリセット番号（または前回登録した次のプリセット番号）に自動登録されます。

● プリセット番号を指定して登録する場合

㉕**MEMORY** を一度押し、フロントパネルディスプレイに「Manual Preset」と表示させます。しばらくすると登録先のプリセット番号が表示されます。💡**3**

⑩**PRESET** ∧ / ∨ を使って登録先のプリセット番号を選び、㉕**MEMORY** を押して登録を実行します。
登録した放送局を選ぶには、⑩**PRESET** ∧ / ∨ を使って放送局のプリセット番号を選びます。💡**4**

💡**1：** 放送局をサーチする際は、サーチが始まったらキーから手を離してください。
💡**2：** 受信範囲外の周波数を入力した場合は、フロントパネルディスプレイに「Wrong Station!」と表示されます。入力した周波数が正しいかご確認ください。
💡**3：** マニュアルプリセットを終了するには、⑨**RETURN** を押すか、30 秒間何も操作をせずに待ちます。
💡**4：** プリセット番号で放送局を選ぶ際、㉒**数字キー**を使ってプリセット番号を入力することもできます。番号が間違っていると「Wrong Num.」とフロントディスプレイに表示されます。このときは正しいプリセット番号を確かめ直してください。

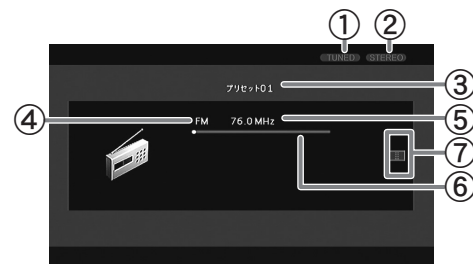
▍登録した放送局を呼び出す

オートプリセットまたはマニュアルプリセットで登録した放送局を呼び出します。💡1

登録した放送局を選局するには、⑩PRESET ∧ / ∨ を押してプリセット番号を選ぶ。💡2

コンテンツ画面でチューナーを操作する

現在受信している放送局の情報をテレビ画面に表示して確認できます。FM/AM チューナーのさまざまな操作もフロントディスプレイでなくコンテンツ画面を見ながら行えます。コンテンツ画面は ④**TUNER** を押してチューナーを入力ソースに選ぶと表示されます。コンテンツ画面の「再生画面」と「ブラウズ画面」を使って FM/AM チューナーの操作が行えます。

▍再生画面でチューナーを操作する

① **TUNED インジケーター**
放送局を受信しているときに点灯します。

② **STEREO インジケーター**
ステレオ放送を受信している際に点灯します。「FM モード」を「モノラル」にしている場合、このインジケーターは点灯しません。

③ **プリセット番号**
選んでいる放送局をプリセット登録してある場合、プリセットの番号が表示されます。

④ **受信バンド**
FM か AM で選んでいるバンドが表示されます。

⑤ **周波数**
現在受信している周波数が表示されます。

⑥ **周波数ガイド**
現在受信している周波数がバンドのどの辺りかがバー上のカーソルで表示されます。

⑦ **操作ボタン**
行える操作がボタンで表示されます。詳しくは「再生画面での操作ボタン」をご覧ください。

再生画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず ⑨**ENTER** を押します。その後使いたいボタンを ⑨**カーソル** △ / ▽ で選び、⑨**ENTER** で決定します。

マニュアルチューニング

お好みの放送局に手動で周波数を合わせます。

FM	受信バンドを FM に切り替えます。
AM	受信バンドを AM に切り替えます。
チューニング –	受信周波数の数値を低くします。
チューニング +	受信周波数の数値を高くします。
オート –	現在の周波数より周波数の低い放送局を自動で検索します。
オート +	現在の周波数より周波数の高い放送局を自動で検索します。
ダイレクト	受信したい周波数を画面上で直接入力します。
メモリー	現在受信している放送局をプリセット局として登録します。FM/AM 合わせて 40 局まで登録できます。

次ページにつづく

💡**1：** 登録されていないプリセット番号はスキップされます。すべてのプリセット番号が未登録の場合は、「No Presets」と表示されます。

💡**2：** プリセット番号を指定して選局するには、㉒**数字キー**を使って呼び出したいプリセット番号を入力します。無効な番号を入力した場合は「Wrong Num.」と表示されます。番号が正しいかご確認ください。

プリセットセレクト

プリセット登録しておいた放送局を呼び出せます。

プリセット －	一つ前のプリセット局を選びます。
プリセット ＋	次のプリセット局を選びます。
プリセット －８	プリセット局を８つ分手前の番号に戻します。
プリセット ＋８	プリセット局を８つ分先の番号に進めます。
メモリー	現在受信している放送局をプリセット局として登録します。FM/AM 合わせて 40 局まで登録できます。
ダイレクト	プリセット番号を画面上で直接入力してプリセット局を選びます。

ユーティリティ

FM モード	FM を受信する際にステレオ出力するかモノラル出力するかを選びます。

ブラウズ画面へ

表示をブラウズ画面に切り替えます。

■ ブラウズ画面でチューナーを操作する

① **プリセット局リスト**
プリセット登録している局のリストが表示されます。9**カーソル △ / ▽** で放送局を選択して 9**ENTER** を押すと、選択した局の再生画面を呼び出せます。

② **操作ボタン**
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「ブラウズ画面での操作ボタン」をご覧ください。

ブラウズ画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず 9**カーソル ▷** を押します。その後使いたいボタンを 9**カーソル △ / ▽** で選び、9**ENTER** で決定します。

ユーティリティ

自動で放送局をプリセット登録したり、プリセット局の登録をクリアします。

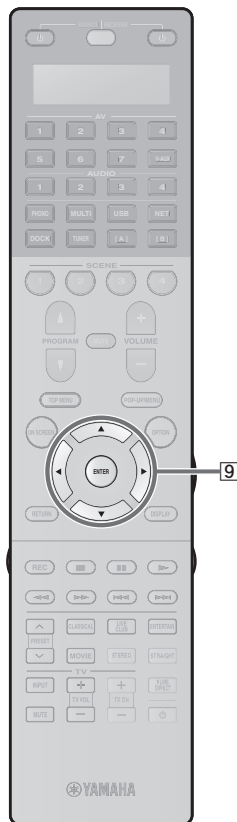
オートプリセット	信号の強い FM 放送局を自動で検波して 40 局までプリセット登録します。リストで選んでいたプリセット番号から順に登録します。AM 局は、オートプリセットでは登録できません。
クリアプリセット	リスト内の選択中のプリセット局をクリアします。
クリアオールプリセット	登録されているすべてのプリセット局をクリアします。

1 ページ上へ

1 ページ下へ

プリセット局のリストを前後のページへ切り替えます。

再生画面へ

表示を再生画面に切り替えます。

再生する

パソコンや USB デバイスを使って曲を再生する

本機に接続した USB デバイスやパソコンから WAV（PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC、FLAC などの音楽ファイルを再生して楽しむことができます。パソコンはネットワークを経由して音楽ファイルを再生します。

USBデバイスまたはパソコンの準備をする

USB デバイスを使って音楽を楽しむ

本機は、USB HDD を除く FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器に対応しています。

- 先頭のパーティションに保存されたファイルのみ再生できます。
- USB デバイスによっては、再生できないファイルがあります。
- 本機のUSBデバイス再生は、48kHzまでのサンプリング周波数に対応しています。

パソコンを使って音楽を楽しむ

パソコンに保存されている音楽ファイルを再生する場合は、Windows Media Player、およびファイルの共有設定が必要です。以下の手順でパソコンの準備をしてください。

1 パソコンに Windows Media Player をインストールする。

Windows Media Player のインストーラーは Microsoft のウェブサイトからダウンロードできます。すでに Windows Media Player がインストールされている場合は、アップグレードすることもできます。

2 パソコンを立ち上げ、メディアの共有設定を行う。

Windows Media Player のメディア共有を「オン」にし、共有するデバイスで本機を選択します。

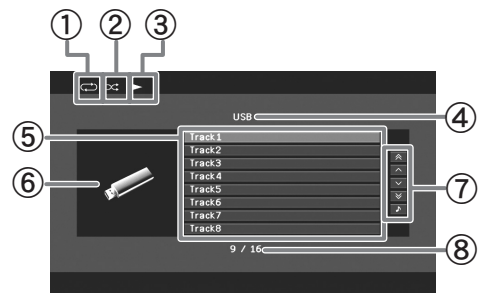
- DHCP サーバーを使わない場合は、IP アドレスなどネットワーク関連の設定は手動で行ってください（☞p.97）。
- アンチウイルスソフトなどのセキュリティソフトがインストールされていると、本機からパソコンにアクセスできないことがあります。その場合は、セキュリティソフトの設定を変更してください。
- 本機は 16 台のパソコンに接続することができます。各サーバーは本機と同様に、同じサブネットに接続してください。

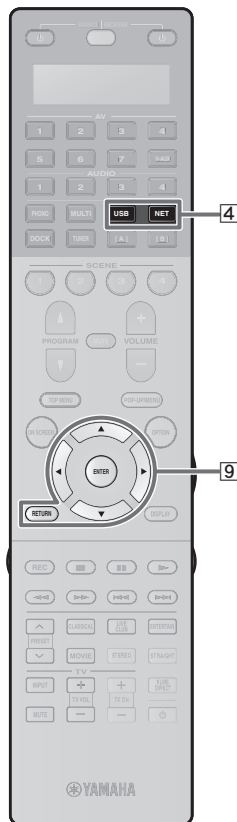
コンテンツ画面でパソコンやUSBデバイスの音楽ファイルを再生する

本機に表示されるメッセージについて詳しくは、**「USB/ネットワーク」**（☞p.122）をご覧ください。

パソコンやUSBデバイスに保存されている音楽ファイルの操作をコンテンツ画面の「再生画面」と「ブラウズ画面」を見ながら行えます。

ブラウズ画面で音楽ファイルを操作する

入力ソースが USB の場合

① **リピートアイコン**
② **シャッフルアイコン**
③ **再生アイコン**
④ **表示中の階層名**
⑤ **メニュー項目**
⑥ **アルバムイメージ *1/ 入力ソースアイコン**
⑦ **操作ボタン**
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「ブラウズ画面での操作ボタン」をご覧ください。
⑧ **表示中のリスト番号 / リスト総数**

*1：パソコンの音楽ファイル再生時のみ表示されます。

ブラウズ画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず 9**カーソル** ▷ を押します。その後使いたいボタンを 9**カーソル** △ / ▽ で選び、9**ENTER** で決定します。

10 ページ上へ

10 ページ下へ

曲リストを 10 ページ単位で移動させます。

1 ページ上へ

1 ページ下へ

曲リストを 1 ページ単位で移動させます。

再生画面へ

表示を再生画面に切り替えます。

パソコンに保存されている曲を再生する場合

1 4**NET** を何度か押して「PC」を選ぶ。

2 9**カーソル** △ / ▽ を押してパソコンサーバーおよび再生するファイルを選ぶ。

- サーバー、フォルダ、ファイルを選ぶには 9**カーソル** △ / ▽ を押します。
- 選択を確定するには 9**ENTER** を押します。
- メニューを 1 つ前に戻すには、9**RETURN** を押します。

3 9**ENTER** を押して再生する。

再生中は再生画面が表示されます。

USB デバイスに保存されている曲を再生する場合

1 USB デバイスをフロントパネルの USB ポートに接続する（☞p.11）。

2 INPUT セレクターを回すか 4**USB** を押して「USB」を選ぶ。

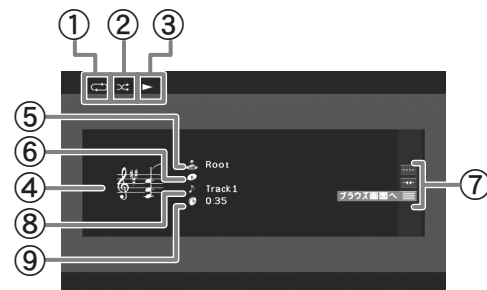
3 9**カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷ を押して再生するファイルを選ぶ。

- フォルダ、ファイルを選ぶには 9**カーソル** △ / ▽ を押します。
- 選択を確定するには 9**ENTER** を押します。
- メニューを 1 つ前に戻すには、9**RETURN** を押します。

4 9**ENTER** を押して再生する。

再生中は再生画面が表示されます。

■ 再生画面で音楽ファイルを操作する

入力ソースが USB の場合

① リピートアイコン
② シャッフルアイコン
③ 再生アイコン
④ アルバムアート
⑤ アーティスト名
⑥ アルバムタイトル
⑦ 操作ボタン
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「再生画面での操作ボタン」をご覧ください。
⑧ 曲名
⑨ 再生時間表示

- フロントパネルの INFO を押して、表示内容を切り替えることができます（☞p.11）。
- アルバムアートは、ファイルに画像データが含まれている場合のみ表示されます。

再生画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際は再生中に 9**ENTER** を押します。その後使いたいボタンを 9**カーソル** △ / ▽ で選び、9**ENTER** で決定します。

再生操作

パソコンおよびUSBデバイスの基本的な再生操作が行えます。

▷（再生）※1	再生を開始します。
□（停止）	再生を停止します。
▯▯（ポーズ）※1	再生を一時停止します。
⏮（スキップ－）	再生中の曲を曲の先頭までスキップします。曲の先頭で 9 ENTER を押してスキップすると一つ前の曲に戻ります。
⏭（スキップ＋）	次の曲の先頭へスキップします。

スクロール切替

アーティスト名やアルバム名、曲名など文字スクロールさせる対象を切り替えます。

ブラウズ画面へ

表示をブラウズ画面に切り替えます。

■ デジタルメディアコントローラとの互換性

DLNA対応のデジタルメディアコントローラ（DMC）からも、再生操作ができます。詳しくは**「ネットワーク上のパソコンから本機を操作する」**（☞p.80）をご覧ください。※2

ご注意

DMC コントロールで音量を調整すると、音量が予想外に大きくなってしまい、本機やスピーカーの故障の原因となる場合があります。「音量の上限」で、過度に大きい音量にならないように最大音量を指定しておくことができます（☞p.93）。

■ 本機のリモコンで音楽ファイルを操作する

以下のリモコンキーで再生、停止、スキップなどの操作ができます。

7 ▷	再生を開始します。
7 □	再生を停止します。
7 ▯▯ ※2	再生と一時停止を切り替えます。
7 ⏭	次の曲へスキップします。
7 ⏮	前の曲へスキップします。

■ シャッフル / リピート再生

シャッフル/リピート再生はオプションメニューから操作します。詳しくは**「シャッフル再生する」**（☞p.59）と**「リピート再生する」**（☞p.59）をご覧ください。

※**1：**パソコンの音楽ファイル再生時のみに表示されます。
※**2：**パソコンの音楽ファイル再生時のみの機能です。

インターネットラジオを聴く

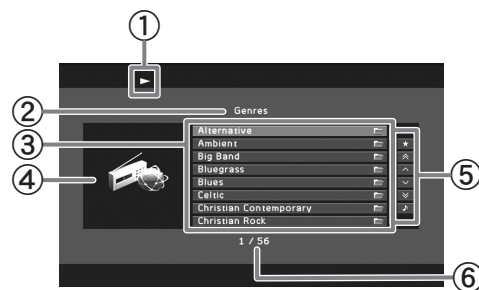
本機用に編集された 2000 以上の放送局データをもつ vTuner ラジオ局データベースサービスを利用して、インターネットラジオ放送を聴くことができます。また、お気に入りの放送局をブックマークすることもできます。

- この機能には、インターネット接続が必要です。
- 使用するインターネット回線はブロードバンドをおすすめします。
- DHCP サーバーを使わない場合は、IP アドレスなどネットワーク関連の設定は手動で行ってください（☞p.97）。
- ファイヤーウォールなどのセキュリティデバイスをお使いの場合、インターネットラジオを受信できないことがあります。その場合は、セキュリティソフトの設定を変更してください。
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。
- インターネットラジオ局によっては、受信できないことがあります。

インターネットラジオを聴く

本機に表示されるメッセージについて詳しくは、「USB/ネットワーク」(☞p.122)をご覧ください。

インターネットラジオの操作をコンテンツ画面の「再生画面」と「ブラウズ画面」を見ながら行えます。

ブラウズ画面で操作する

① **再生アイコン**
② **表示中の階層名**
③ **メニュー項目**
④ **チャンネルアート**
⑤ **操作ボタン**
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「ブラウズ画面での操作ボタン」をご覧ください。
⑥ **表示中のリスト番号 / リスト総数**

ブラウズ画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず ⑨**カーソル** ▷ を押します。その後使いたいボタンを ⑨**カーソル** △ / ▽ で選び、⑨**ENTER** で決定します。

ブックマーク オン

選択した放送局を「NET RADIO」のブックマークリストに登録します。

ブックマーク オフ

この項目はブックマークリスト内に表示されます。選択した放送局を「NET RADIO」のブックマークリストから削除します。

10 ページ上へ

10 ページ下へ

リストを 10 ページ単位で移動させせます。

1 ページ上へ

1 ページ下へ

リストを 1 ページ単位で移動させせます。

再生画面へ

表示を再生画面に切り替えます。

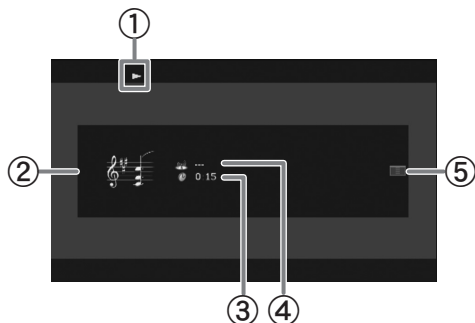
1 ④**NET を何度か押して「NET RADIO」を選ぶ。**

2 ⑨**カーソル △ / ▽ を押して再生する放送局を選ぶ。**

- 放送局を選ぶには⑨**カーソル**△ / ▽を押します。
- 選択を確定するには ⑨**ENTER** を押します。
- メニューを 1 つ前に戻すには、⑨**RETURN** を押します。

3 ⑨**ENTER を押して再生する。**
再生中は再生画面が表示されます。

再生する

再生画面で操作する

① 再生アイコン
② チャンネルアート
③ 再生時間
④ 再生中の放送局名
⑤ 操作ボタン
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「再生画面での操作ボタン」をご覧ください。

21INFO を押して、表示内容を切り替えることができます（☞p.11）。

再生画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず 9**ENTER** を押します。その後使いたいボタンを 9**カーソル △ / ▽** で選び、9**ENTER** で決定します。

ブックマーク オン

再生中の放送局を「NET RADIO」のブックマークリストに登録します。

再生操作

以下の操作ができます。

□（停止）	再生を中止します。

ブラウズ画面へ

表示をブラウズ画面に切り替えます。

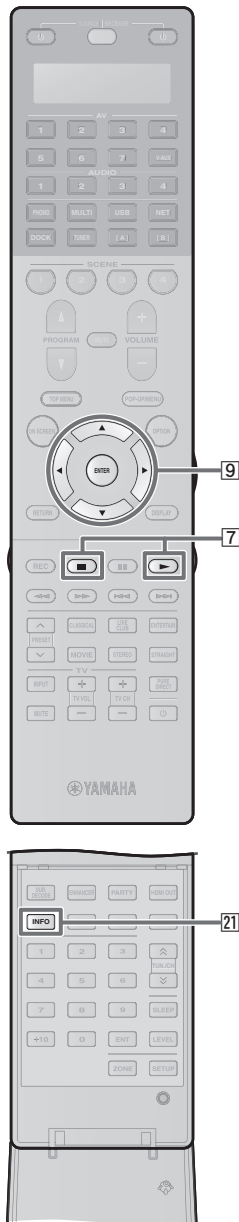
本機のリモコンでインターネットラジオを操作する

以下のリモコンキーで再生、停止などの操作ができます。

7▷	再生します。
7□	再生を停止します。

お使いのパソコンでウェブサイトにアクセスして、お好みのインターネットラジオ局を本機に登録することもできます。個人アカウントを作るため本機の vTuner ID とメールアドレスが必要です。詳しくは、ウェブサイトのヘルプをご覧ください。
URL: http://yradio.vtuner.com/

ご注意

vTuner ID やメールアドレスなどの個人情報を削除するには、アドバンスドセットアップメニューの「INITIALIZE」で「NETWORK」を実行してください（☞p.115）。

ショートカット機能を使う

ショートカットを使って、パソコンや USB デバイスの音楽ファイルや、インターネットラジオ局に直接アクセスすることができます。上記の入力ソースで、40 個のショートカットを設定することができます。

ショートカットを登録する

1 **ショートカットを登録したいファイルやインターネットラジオを再生する。**

2 **[25]MEMORY を押す。**

フロントパネルディスプレイに以下のように表示され、空いているプリセット番号が自動的に選択されます。

Memory Preset -18.5 dB VOLUME
01:Empty

プリセット番号（点滅）

- [9]**RETURN** を押すと、操作を中止できます。
- 次の手順はそれぞれ 30 秒以内に操作してください。最後に操作してから 30 秒以上経過すると、ショートカット登録が自動で中止されます。再度登録する場合は、手順 2 からやり直してください。

3 **[10]PRESET∧ / ∨ または [22]数字キーを押して、割り当てたいプリセット番号を選ぶ。**

Memory Preset -18.5 dB VOLUME
09:Empty

プリセット番号に使用できるのは、「01」～「40」です。

4 **[25]MEMORY を押す。**

フロントパネルディスプレイに以下のように表示され、設定が完了します。

Memory Preset -18.5 dB VOLUME
09:Memorized

登録したショートカットを選んで再生する

1 **[10]PRESET∧ / ∨ または [22]数字キーを押して目的の項目が割り当てられたプリセット番号を選ぶ。**

選択した番号に割り当てられた曲が再生されます。

ご注意

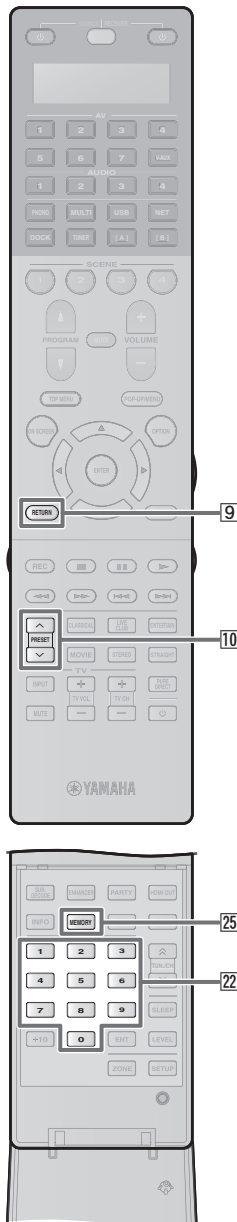
- ショートカットが登録されていないプリセット番号を選ぶと、「xx:Empty」と表示されます。
- 以下の場合はプリセット番号を選択しても本機が正しく動作しないことがあります。
  - 曲を登録したときとは異なる USB デバイスを接続している。
  - パソコンの電源がオフになっている、またはパソコンがネットワークから切断されている。
  - 登録したインターネットラジオ局に一時的に接続できない、または放送を停止した。
  - ディレクトリ内でファイルの位置を移動した。

本機は登録したコンテンツのディレクトリ内における相対的な位置を記憶しています。したがって、ディレクトリ内で音楽ファイルを追加／削除すると、登録した曲が呼び出されないことがあります。そのような場合はショートカットを登録し直してください。
以下はショートカット機能を上手に利用するためのおすすめの方法です。

USB デバイス

USB デバイス内にディレクトリをいくつか作成し、その中に音楽ファイルを保存します。次に、それぞれのディレクトリ内の先頭の音楽ファイルをショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、ディレクトリは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを新しい音楽ファイルと入れ替えます。

パソコン

パソコンにプレイリストを作成します。次に、それぞれのプレイリストの先頭の音楽ファイルをショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、プレイリストは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを新しく登録する音楽ファイルと入れ替えます。

iPod™/iPhone™ の曲 / 映像を再生する

ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（別売 YDS-12 など）を本機に接続すると、本機のリモコンで操作しながら iPod の再生を楽しめます。iPod を再生する際にサウンドプログラムのコンプレストミュージックエンハンサー（☞p.51）を選べば、圧縮オーディオフォーマット（MP3 など）をメリハリの効いたダイナミックな音で再生できます（☞p.51）。
ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（別売 YID-W10）を使えば、本機と iPod/iPhone をワイヤレス接続して再生を楽しめます。

- **iPod/iPhone を有線接続して再生するときは** **「ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックの接続」**をご覧ください。
- **iPod/iPhone をワイヤレス接続して再生するときは** **「iPod/iPhone をワイヤレス接続で再生する」**（☞p.72）をご覧ください。

- iPod touch、iPod(iPod classic を含むクリックホイール)、iPod nano、iPod mini、iPhone、iPhone 3G、iPhone 3GS に対応しています(2010 年 3 月現在)。
- ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックを使って iPhone を接続する場合は、YDS-12 をご使用ください。
- iPod の種類やソフトウェアのバージョンによっては、一部の機能が使えない場合があります。
- ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックの種類により一部の機能が使えないことがあります。ここでは YDS-12 を使って説明します。

ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックの接続

リアパネルの DOCK 端子と専用ケーブルを使って接続します。iPod/iPhone をセットする方法は、iPod 用ユニバーサルドックの取扱説明書をご覧ください。

ご注意
故障の原因となるため、iPod 用ユニバーサルドックは、本機をスタンバイに切り替えてから接続してください。

電源をオンにして、iPod/iPhone をセットすれば再生準備は完了です。

iPod connected-

本機がスタンバイのときは、iPod 用ユニバーサルドックに置いた iPod/iPhone を自動で充電します（☞p.80）。

iPod/iPhone の操作

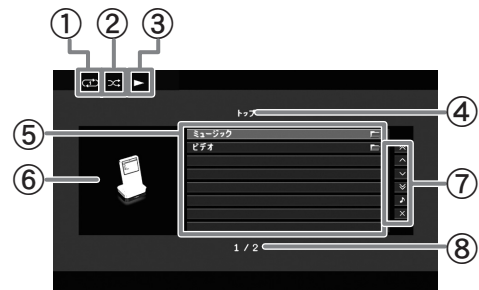
iPod/iPhone のセット後は、4**DOCK** を押して入力ソースをDOCKに切り替えるだけでiPod/iPhone を操作できます。
iPod/iPhoneの再生方法には、次の2種類があります。

メニュー表示モード：
テレビに表示されるメニューを見ながら iPod/iPhone を再生します。
「コンテンツ画面で iPod/iPhone を操作する（メニュー表示モード）」（☞p.71）をご覧ください。
シンプル再生モード：
iPod/iPhone の画面を見ながら再生します。
「本機のリモコンで iPod/iPhone を再生する（シンプル再生モード）」（☞p.72）をご覧ください。

- iPod 用ユニバーサルドックに置いている間、またはメニュー表示モードで使用している間は、iPod/iPhone 本体を操作できません。
- メニュー表示モードで再生している間、フロントパネルに曲の各種情報（Artist、Album、Song）を表示できます。表示を切り替えるには 21**INFO** を繰り返し押します。
- （iPod touch/iPhone を除く iPod）メニュー表示モードの動作中は、iPod の画面にヤマハロゴが表示されます。ただし、シンプル再生モードではヤマハロゴは表示されません。

コンテンツ画面で iPod/iPhone を操作する（メニュー表示モード）

iPod/iPhone の操作をコンテンツ画面の「再生画面」と「ブラウズ画面」を見ながら行えます。

ブラウズ画面で iPod/iPhone を操作する

① リピートアイコン
② シャッフルアイコン
③ 再生アイコン
④ 表示中の階層名
⑤ 曲 / 映像リスト表示
⑥ 入力ソースアイコン表示
⑦ 操作ボタン
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「ブラウズ画面での操作ボタン」をご覧ください。
⑧ 表示中のリスト番号／リスト総数

9RETURN を押すと、1 つ上の階層の表示に戻せます。

ブラウズ画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず 9**カーソル ▷** を押します。その後使いたいボタンを 9**カーソル △ / ▽** で選び、9**ENTER** で決定します。

10 ページ上へ

10 ページ下へ

曲 / 映像リストを 10 ページ単位で移動させます。

1 ページ上へ

1 ページ下へ

曲 / 映像リストを 1 ページ単位で移動させます。

再生画面へ

表示を再生画面に切り替えます。

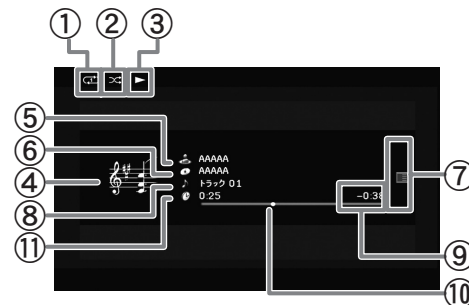
閉じる

映像再生に切り替わり、メニュー表示を閉じます。

1 4**DOCK を押して入力ソースを DOCK に切り替える。**

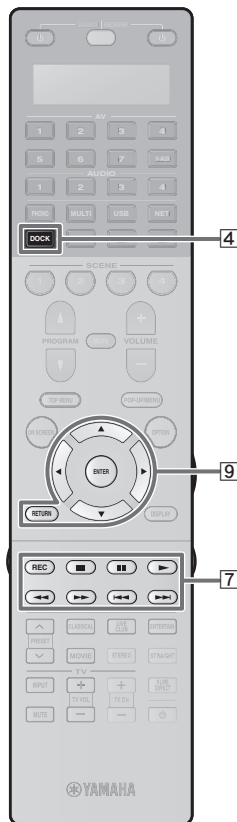
2 9**カーソル △ / ▽ を使って再生したい曲 / 映像（もしくはミュージック、ビデオ）を選び、**9**ENTER を押す。**💡**1**

3 9**カーソル △ / ▽ を使って項目を選び、**9**ENTER を押して再生する。**
再生中は再生画面が表示されます。💡**2**

再生画面で iPod/iPhone を操作する

① リピートアイコン 💡**3**
② シャッフルアイコン 💡**3**
③ 再生アイコン
④ アルバムアート
⑤ アーティスト名
⑥ アルバムタイトル
⑦ 操作ボタン
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「再生画面での操作ボタン」をご覧ください。
⑧ 曲名
⑨ 残り時間表示
⑩ 再生位置バー
⑪ 再生時間

再生画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず 9**ENTER** を押します。その後使いたいボタンを 9**カーソル △ / ▽** で選び、9**ENTER** で決定します。

💡**1 :** ご使用になっている iPod や iPod 用ユニバーサルドックがビデオファイルのブラウザー機能に対応していない場合は、iPod/iPhone のビデオを表示できません。
💡**2 :** ビデオファイル選択時は、左図のアイコンは表示されません。
💡**3 :** これらのアイコンは、オプションメニューの「リピート」または「シャッフル」の設定によって表示が変わります。詳しくは、「iPod/iPhone をシャッフル再生する」または「iPod/iPhone をリピート再生する」をご参照ください（☞p.59）。

再生する

再生操作

iPod/iPhone の基本的な再生操作が行えます。

▷（再生）	再生を開始します。
□（停止）	再生を停止します。
▯▯（ポーズ）	再生を一時停止します。
⏮（スキップ –）	再生中の曲を曲の先頭までスキップします。曲の先頭で 9ENTER を押してスキップすると一つ前の曲に戻ります。
⏭（スキップ +）	次の曲の先頭へスキップします。
◁◁（スキャン –）	曲を巻き戻します。
▷▷（スキャン +）	曲を早送りします。

スクロール切替

アーティスト名やアルバム名、曲名など文字スクロールさせる対象を切り替えます。

ブラウズ画面へ

表示をブラウズ画面に切り替えます。

閉じる

映像再生に切り替わり、メニュー表示を閉じます。

本機のリモコンで iPod/iPhone を再生する（シンプル再生モード）

本機のリモコンを使ってiPod/iPhoneの基本的な操作（再生、停止、スキップなど）をします。曲情報などは iPod/iPhone の画面で確認できます。💡1
7REC を押すとシンプル再生モードになります。もう一度 7REC を押すとメニュー表示モードに戻ります。

4DOCK	入力ソースを DOCK（iPod）に切り替えます。
9カーソル △ / ▽	上下の項目にカーソルを移動させます。
9RETURN	メニューを 1 つ前に戻したり、選んだメニューに入ります。
9ENTER	選んだメニューに入ります。
7 ◁◁	押し続けている間、巻き戻しします。
7 ▷▷	押し続けている間、早送りします。
7 ⏮	再生中の曲の先頭にスキップします。さらに繰り返し押せば、1 曲ずつ前の曲にスキップします。
7 ⏭	次の曲の先頭にスキップします。
7 □	再生をストップします。
7 ▯▯	再生 / 一時停止を切り替えます。
7 ▷	再生 / 一時停止を切り替えます。
7REC	メニュー表示モードとシンプル再生モードを切り替えます。

iPod/iPhone をワイヤレス接続で再生する

ヤマハ iPod 用ワイヤレスシステム（別売 YID-W10）を使うと、本機と iPod/iPhone をワイヤレス接続して再生できます。このとき iPod/iPhone は再生のリモコンとして使えます。💡2

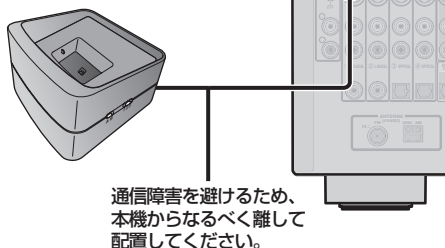
■ ヤマハ iPod 用ワイヤレスシステムを接続して再生する

本機のリアパネルにある DOCK 端子へ iPod 用ワイヤレスシステムを専用ケーブルで接続します。詳しくは YID-W10 の取扱説明書をご覧ください。

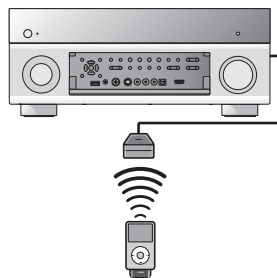
ご注意

事故防止のためiPod用ワイヤレスシステムを接続する前に本機のコンセントを抜いておいてください。

💡 **1 :** シンプル再生モードで使用している間、iPod/iPhone 本体でも操作できます。
💡 **2 :** 映像信号はワイヤレス接続時には通信できません。

iPod/iPhone をトランスミッターに差し込めば準備は完了です。

以下の設定をしておくと、本機がスタンバイのときiPod/iPhone を自動で充電できます。

–「スタンバイ時充電」を「自動」にする（☞p.80）

iPod/iPhone を使って再生を開始します。

- iPod/iPhone を使って再生操作を行うとき、本機は次のように動作します。（本機がメインゾーンにある場合）
  – 本機の電源がオンになり、入力ソースが DOCK（iPod）に切り替わります。
  – 本機のスタンバイ中に iPod/iPhone での再生を始めた場合、本機の電源がオンになり、入力ソースが DOCK（iPod）に切り替わります。💡1
- 次の操作がされた場合、本機は自動でスタンバイになります。
  – iPod/iPhone が YID-W10 から外された場合
  – 再生停止後しばらくの間 iPod/iPhone を操作しなかった場合

- 4**DOCK** を押すと入力ソースが DOCK（iPod）に切り替わります。
- 本機のリモコンでオンスクリーンディスプレイのメニューを操作しているときはこの機能は動作しません。
- 「入力選択」メニューで「iPod 連動」の「電源と入力連動」が「オフ」になっているときは、本機の電源と入力ソース切り替えは連動しません（☞p.80）。

ご注意

事故防止のためiPod用ワイヤレスシステムを接続する前に本機のコンセントを抜いておいてください。

- iPod/iPhone で音量調節すると、連動して本機の音量も最大 0.0dB まで調節されます。

- 「入力選択」メニューで「iPod 連動」の「音量連動」が「オフ」になっているときは、本機の音量はiPod/iPhoneの音量調節と連動しません（☞p.80）。
- 極端に大きい音での再生を防止するため、音量が制限される場合があります。その場合は、少しずつ音量を上げてください。

ご注意

iPod/iPhone を使った音量調節をするときは、再生音量が予想外に大きくなってしまい、本機やスピーカーの故障の原因となる場合があります。

もし再生中に突然音量が上がってしまった際は、すぐに iPod/iPhone を iPod 用ワイヤレスシステムから外してください。「音量の上限」機能を使って最大音量を決めておくと、再生時に不慮の大音量を防止できます（☞p.93）。

💡**1：**この機能はアプリケーションの音声や着信音を受信した場合でも機能します。

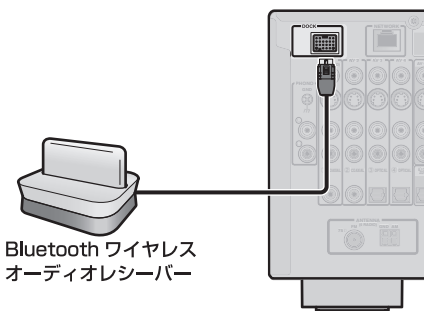
Bluetooth® 機器の曲を再生する

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10）を本機に接続すれば、Bluetooth に対応した携帯音楽プレーヤーと本機をワイヤレス接続して再生できます。💡**1**

Bluetooth 機器をはじめて再生するには、最初にペアリング（Bluetooth 機器の登録）が必要です。実際にワイヤレス接続する際は、本機側と Bluetooth 機器側の両方でペアリングします。

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーの接続

リアパネルの DOCK 端子と専用ケーブルを使って接続します。本機の電源をオンにすれば、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーの接続は完了です。

Bluetooth ワイヤレス
オーディオレシーバー

ご注意

故障の原因となるため、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは本機をスタンバイに切り替えてから接続してください。

Bluetooth 機器のペアリング

Bluetooth 機器とはじめてワイヤレス接続する場合や設定が消去された場合は、必ずペアリングしてください。
ペアリングする際は、必要に応じて Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは最大８台の Bluetooth 機器とペアリングできます。９台目の機器がペアリングされた場合は、最も長い間使われていない機器のペアリング設定が消去されます。

1 **④DOCK を使って入力ソースを DOCK に切り替える。**

2 **ペアリングしたい Bluetooth 機器の電源を入れ、Bluetooth 機器側をペアリングモードにする。**

3 **⑯OPTION を押してオプションメニューを表示させ、⑨カーソル △ / ▽ を使って「Pairing」を選ぶ。**

Option
◆Pairing

4 **ペアリングを始めるには、⑨ENTER を押す。**

- ペアリングを中止するには⑨**RETURN**を押します。
- 手順2の後に㉕**MEMORY**を押し続けてペアリングを開始することも可能です。

5 **Bluetooth 機器が Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識していることを確認する。**

認識している場合は Bluetooth 機器のデバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」などと表示されます。

6 **Bluetooth 機器のデバイスリストから Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。**💡**2**

正常にペアリングされた場合

7 **ペアリングを終了するには ⑨RETURN を押す。**

💡 **1：**本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。
💡 **2：**一部の Bluetooth 機器では、ペアリング実行後に自動でワイヤレス接続することがあります。この場合は「Completed」の代わりに「BT connected」と表示されます。

Bluetooth機器の曲再生

ペアリングが完了したら、次の手順で本機とBluetooth 機器をワイヤレス接続します。ワイヤレス接続が完了すると、Bluetooth 機器の曲が再生可能になります。

> ワイヤレス接続は、Bluetooth 機器側の操作で実行することもできます。
> 一部の Bluetooth 機器は、自動でワイヤレス接続することがあります。これらの場合、以下の手順は必要ありません。

1 **[4]DOCKを押して入力ソースをDOCKに切り替える。**

2 **[16]OPTION を押して、オプションメニューを表示させる。**

3 **[9]カーソル △ / ▽ を何度か押して「Connect」を選び、[9]ENTER を押す。** 💡1

BT connected -18.5 dB VOLUME

ワイヤレス接続が完了した場合

> 接続に失敗した場合は「Not found」と表示されます。次の条件を満たしていることを確認し、再度ワイヤレス接続してください。
> - 本機とBluetooth 機器の両方でペアリングされている
> - Bluetooth 機器の電源がオンになっている
> - Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーとBluetooth 機器が 10 メートル以内に置かれている

4 **[16]OPTION を押して、オプションメニューを閉じる。**

5 **Bluetooth 機器を操作して再生する。**

> Bluetooth 機器の接続を解除するには、もう一度同じ要領で操作して、オプションメニューで「Disconnect」を選び、ワイヤレス接続を解除します。

💡 **1 :** すでにワイヤレス接続済みの場合は「Disconnect」と表示されます。

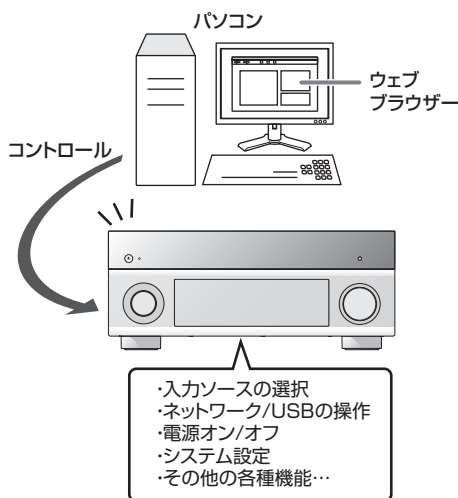
ウェブブラウザーで本機を操作する（ウェブコントロールセンター）

ウェブコントロールセンターで操作する

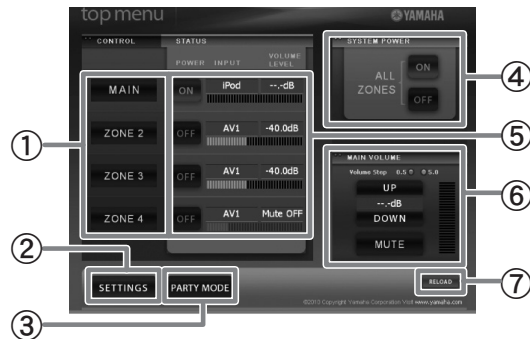
ウェブブラウザーに表示される「ウェブコントロールセンター」から、入力ソースやサウンドプログラムの選択、iPod・ネットワーク・USB の内容の確認、プリセット項目の選択、本機の設定などを行うことができます。
「ネットワーク」メニューの「IP アドレス」（☞p.97）で本機の IP アドレスを確認し、ウェブブラウザーに入力すると本機へのアクセス・操作が可能になります。

ご注意

「ネットワークスタンバイ」が「オン」に設定されていると、本機の電源がスタンバイのときでもウェブコントロールセンターがパソコンに表示されます（☞p.97）。
ウェブコントロールセンターをご使用の場合は、「ネットワークスタンバイ」は「オン」に設定しておくことをおすすめします。

- この機能を使うには、本機とパソコンを正しくネットワークに接続する必要があります。接続について詳しくは、**「ネットワークに接続する」**（☞p.37）をご覧ください。
- Windows XP または Windows 7 で Internet Explorer 8 からアクセスすることをおすすめします。
- 本機の電源がスタンバイのときに、ウェブブラウザーからコントロール信号を受信するかどうかを設定することができます。
- 本機を操作したいパソコンの MAC アドレスを登録して、操作のできるパソコンを制限することができます。「ネットワーク設定」の**「MAC アドレスフィルター」**（☞p.97）で、MAC アドレス登録済みのパソコンのみをアクセス可能にするかどうかを設定できます。

■ 各ゾーンでのウェブコントロールセンター機能

機能	メインゾーン	ゾーン２／ゾーン３	ゾーン４
電源オン / オフ	○	○	○
スリープタイマー	○	○	○
入力選択	○	○	○
音量調整	○	○	−
ミュートオン / オフ	○	○	○
曲 / チャンネル選択	○	○	○
サウンドプログラム	○	−	−
パーティーモードオン / オフ	○	○	○
ウェブコントロールセンターの設定	○	○	○

トップメニュー

① CONTROL
ゾーンコントロールメニューを表示します。

② SETTINGS
設定メニューを表示します。

③ PARTY MODE
パーティーモードをオン / オフします（☞p.98）。

④ SYSTEM POWER
全ゾーンの電源をオン / オフします。

⑤ STATUS
各ゾーンの電源をオン / オフします。また、各ゾーンの入力ソースと音量を表示します。

⑥ MAIN VOLUME
メインゾーンの音量調整、およびミュートをします。また、音量調整の単位を変更することもできます。

⑦ RELOAD
画面に表示されている本機の動作状態を更新します。

ゾーンコントロールメニュー

選択したゾーンを操作します。

① PLAY INFO
各ゾーンの入力をコントロールします。

② TOP MENU
トップメニューに戻ります。

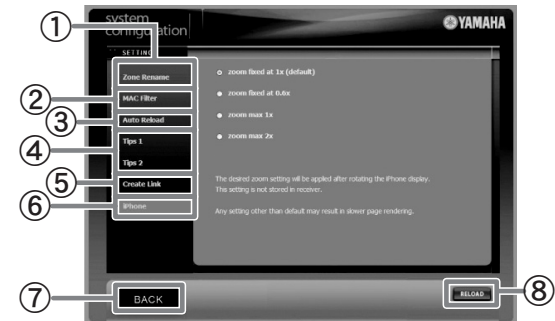
③ SCENE キー
シーンを選択します。

④ POWER
選択したゾーンの電源をオン / オフします。また、選択したゾーンにスリープタイマーをセットすることもできます。

⑤ VOLUME
メインゾーンの音量調整、およびミュートをします。また、音量調整の単位を変更することもできます。

⑥ RELOAD
画面に表示されている本機の動作状態を更新します。

設定メニュー

ウェブコントロールセンターの設定をします。

① Zone Rename
Friendly Name とゾーン名を切り替えることができます。Friendly Name とは、パソコンに接続した機器（本機）の名称です。

② MAC Filter
本機に MAC アドレスフィルターを割り当てます。ここで設定された MAC アドレスと同一のアドレスを持つパソコンのみが、ウェブコントロールセンターにアクセスできるようになります。

③ Auto Reload
オートリロード機能（5 分ごとに画面に表示されている本機の動作状態を更新する）をオン / オフします。

④ Tips 1/Tips 2
ウェブコントロールセンターを使ううえでのヒントを表示します。

⑤ Create Link
ウェブコントロールセンターの表示をカスタマイズします。

⑥ iPhone ☞1
iPhone の拡大率を選択します。

⑦ BACK
トップメニューに戻ります。

⑧ RELOAD
画面に表示されている本機の動作状態を更新します。

☞1：本機に iPhone を接続している場合にのみ表示されます。

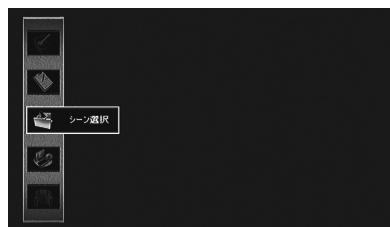
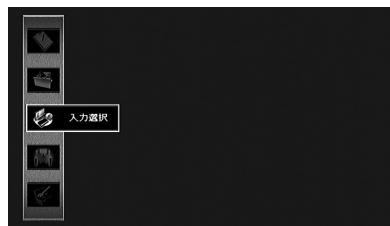
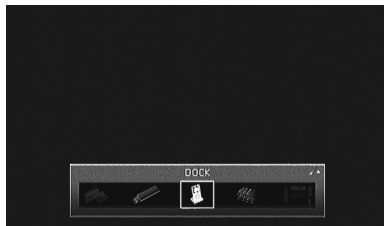
設定する

入力ソースごとに入出力の設定をする（入力選択メニュー）

入力選択メニューでは、テレビ画面に表示される入力ソースの名称やアイコンを変更することなどができます。

入力ソースの設定を変更する

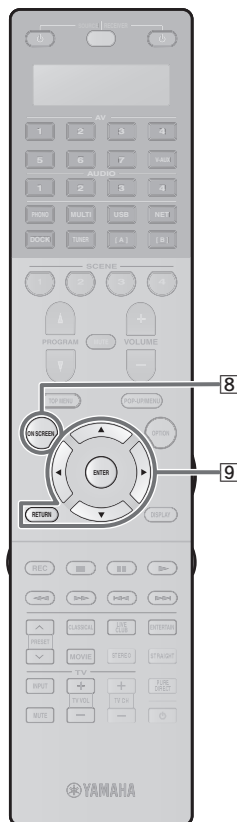
入力ソースごとの名称やアイコンは、テレビ画面を見ながら変更することができます。

1 **⑧ON SCREEN** を押す。

2 **⑨カーソル △ / ▽** を使って「入力選択」を選び、**⑨ENTER** を押す。

3 **⑨カーソル ◁ / ▷** を使って設定を変更したい入力ソースを選び、**⑨カーソル △** を押す。

4 **⑨カーソル △ / ▽** を使って操作 / 設定したいメニュー項目を選び、**⑨ENTER** を押す。

選んだメニュー項目にサブメニューがある場合は、さらに **⑨カーソル △ / ▽** を使って設定したい項目を選び、**⑨ENTER** を押す。

5 **⑨カーソル △ / ▽** を使って選んだ項目の設定を変更する。

⑨RETURN を押すと、1つ前の画面表示に戻せます。手順4〜5を繰り返せば、複数項目を設定できます。

6 設定を終えるには、**⑧ON SCREEN** を押す。

入力選択メニュー項目

入力選択メニューでは、入力ソースに応じて以下の項目を設定できます。

	AV1-7	V-AUX	AUDIO1-4	PHONO	MULTI CH	USB	PC	NET RADIO	DOCK (iPod)	DOCK (Bluetooth)	TUNER
入力名変更 / アイコン選択	○	○	○	○	○	○			○	○	
デコードモード	○	○	○								
エンハンサー	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
DMC からの操作							○				
スタンバイ時充電									○		
iPod 連動									○ *1		
映像選択					○						

■ 入力ソースの名前やアイコンを変更する

入力名変更 / アイコン選択

テレビやフロントパネルに表示する各入力ソースの名前（最大 9 文字）やアイコンを変更します。

1 **[9]カーソル △ / ▽ を使って「入力名変更 / アイコン選択」を選んで [9]ENTER を押す。**

2 **[9]カーソル ◁ / ▷ を使って変更したい入力ソースのアイコンを選ぶ。**

3 **[9]カーソル ▽ を押し、[9]ENTER を押す。**

4 **[9]カーソル △ / ▽ を使って入力する文字を選び、[9]カーソル ◁ / ▷ で選んだ文字を確定する。**

5 **手順4を繰り返して入力ソース名を入力する。**

6 **[9]ENTER を押して入力ソース名を確定する。**

7 **[9]カーソル ▽ を押して「OK」を選ぶ。**
別の入力ソース名を変更するには、[9]**ENTER** を押します。

- 手順7で「キャンセル」を選んで [9]**ENTER** を押すと、操作を中止できます。
- 手順 7 で「クリア」を選んで [9]**ENTER** を押すと、手順 5 で入力した文字を消去できます。

■ デジタル音声のフォーマットを固定する

デコードモード

再生するデジタル音声のフォーマットをDTSまたはAAC に固定します。たとえば DTS フォーマットの音声を再生した際にノイズが生じるときは、この項目で再生フォーマットを DTS に固定してください。

自動判別（初期設定）	入力されたフォーマットに合わせて音声フォーマットが自動で選ばれます。
DTS 固定	DTS 信号に固定します。DTS 以外の信号が入力されても再生されません。
AAC 固定	AAC 信号に固定します。AAC 以外の信号が入力されても再生されません。

*1 : iPod や iPhone を無線接続で再生している場合は、この設定は無効です。

■ 圧縮オーディオ（MP3 など）に適したサウンドプログラムを設定する

エンハンサー

コンプレストミュージックエンハンサーを有効または無効にします。

オフ	コンプレストミュージックエンハンサーを無効にします。
オン	コンプレストミュージックエンハンサーを有効にします。

■ ネットワーク上のパソコンから本機を操作する

DMC からの操作

本機と同じネットワーク上にあるWindows Media Playerなどの DLNA 対応コントローラーから、本機を操作することができます。
DMC とは「Digital Media Controller（デジタル・メディア・コントローラー）」の略で、ネットワーク上の他の機器を制御できる機器のことです。

無効	DMC からの操作を無効にします。
有効（初期設定）	DMC からの操作を有効にします。

■ 本機がスタンバイのときに iPod を充電する

スタンバイ時充電

本機がスタンバイのときに、iPod 用ユニバーサルドックやiPod用ワイヤレスシステムにセットしたiPodまたはiPhoneを充電します。

自動（初期設定）	本機の電源がスタンバイのときでも iPod/iPhone を充電できます。iPod/iPhone の充電中は、フロントパネルの HDMI スルー/iPod チャージインジケーターが点灯します。充電が完了すると自動的に終了し、インジケーターが消灯します。**1**
オフ	iPod/iPhone を充電しません。

■ 本機と iPod/iPhone の動作を連動させる（ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム接続時）

iPod 連動

本機とヤマハ製iPod 用ワイヤレスシステムを使って接続したiPod の動作を連動させます。

電源と入力連動	「オン」に設定した場合は、iPod/iPhone を再生すると、自動で本機の電源がオンになり、入力ソースが DOCK（iPod）に切り替わります。また、再生停止後にしばらく iPod/iPhone の操作をしないと、自動で本機の設定がスタンバイモードに変わります。連動機能を無効にしたい場合は、「オフ」に設定してください。
音量連動	「オン」に設定した場合は、iPod/iPhone の音量調節に連動して本機の音量も調節されます。連動機能を無効にしたい場合は、「オフ」を設定してください。

■ マルチチャンネルの音声ソースを再生しながら他の映像ソースを出力する設定を行う

映像選択

入力ソースを「MULTI CH」にした場合に、映像信号を出力したい端子を選択できます。たとえマルチチャンネルのデジタル音声出力非対応の DVD プレイヤーをお使いの場合でも、マルチチャンネル音声を再生しながら映像を出力することができます。

オフ（初期設定）	映像信号を出力しません。
AV1-7 VIDEO AUX	選択した入力ソースから入力した映像信号を出力します。

1 : YDS-10、YDS-11、YDS-12 をご使用の場合のみ、充電が完了すると自動的にオフになります。

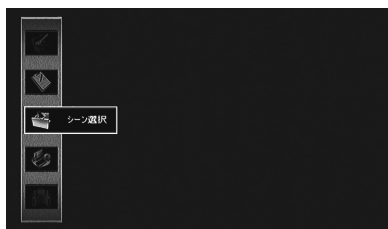
シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）

テレビ画面に表示されるシーン選択メニューを使ってシーン機能（☞p.48）の設定を変更します。

シーン選択メニューの表示 / 設定

シーンごとの名称やアイコンは、テレビ画面を見ながら変更することができます。

1 **⑧ON SCREEN を押す。**

2 **⑨カーソル △ / ▽ を使って「シーン選択」を選び、⑨ENTER を押す。**

3 **⑨カーソル ◁ / ▷ を使って設定を変更したいシーンを選び、⑨カーソル △ を押す。**

4 **⑨カーソル △ / ▽ を使って操作 / 設定したいメニュー項目を選び、⑨ENTER を押す。**

5 **⑨カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って設定値を調整する。**

⑨RETURN を押すと、1 つ前の画面表示に戻せます。手順 4 ～ 5 を繰り返せば、複数項目を設定できます。

6 **設定を終えるには、⑧ON SCREEN を押す。**

シーン選択メニュー項目

シーン 1 ～ 12	登録
	呼出
	シーン名変更 / アイコン選択（☞p.82）
	リセット（☞p.82）

シーン 5 ～ 12 は、シーン選択メニューで編集することができます。

▌シーン設定を登録する

登録

選択中の設定を各シーンに登録します。

▌シーン機能の設定を変更する

呼出

各シーンに登録している入力ソースやサウンドプログラムを呼び出したり、シーン切り替え時に接続している外部機器の電源をオン/オフする機能を設定します。

OK	シーンに登録している設定を呼び出します。
キャンセル	シーンに登録された設定を呼び出しません。
詳細設定	「シーン リモコン連動」機能を有効にしたり、シーンに登録している詳細設定を表示します。さらに詳しい説明は、次の「シーン リモコン連動」や「詳細設定」をご覧ください。

シーン リモコン連動

シーンの切り替えと連動させて本機に接続しているヤマハBD/DVDプレーヤーやCDプレーヤーの再生を開始します。

オフ	シーン リモコン連動機能を無効にします。
ヤマハ BD/DVD プレーヤー 1	本機にヤマハ BD/DVD プレーヤーを接続している場合は、この項目を選択してください。
ヤマハ BD/DVD プレーヤー 2	「ヤマハ BD/DVD プレーヤー 1」を選んでも、本機と外部機器がうまく連動しない場合は、こちらの項目を選んでください。
ヤマハ CD プレーヤー	本機にヤマハ CD プレーヤーを接続している場合は、この項目を選んでください。

詳細設定

シーン機能に登録している詳細設定を表示します。

入力設定	入力ソースと音声入力選択の設定内容を表示します。
HDMI 出力端子	HDMI OUT 端子を表示します。
再生モード	サウンドプログラムを表示します。
音声設定	トーンコントロール、Adaptive DRC、エンハンサーを表示します。
音場設定	シネマ DSP 3D モード、セリフ位置調整、拡張サラウンドを表示します。
映像設定	映像処理およびビデオ画質調整の設定内容を表示します。
音量	音量設定を表示します。
リップシンク設定	リップシンク、ディレイを表示します。
スピーカー設定	設定パターン、PEQ 選択を表示します。

シーンの名前やアイコンを変更する

シーン名変更 / アイコン選択

本機のフロントパネルディスプレイやTV画面に表示されるシーンの名前やアイコンを変更します。

1 **9カーソル △ / ▽ を使って「シーン名変更 / アイコン選択」を選んで 9ENTER を押す。**

2 **9カーソル ◁ / ▷ を使って変更したいシーンのアイコンを選ぶ。**

3 **9カーソル ▽ を押して 9ENTER を押す。**
シーン名称が編集できる状態になります。

4 **9カーソル △ / ▽ を使って入力する文字を選び、9カーソル ◁ / ▷ で選んだ文字を確定する。**

シーン名称は最大 20 文字です。

5 **手順４を繰り返してシーン名称を入力する。**

6 **9ENTERを押してシーン名称を確定する。**

7 **9カーソル ▽ を押して「OK」を選ぶ。**
別のシーン名称を変更するには、9ENTER を押します。

- 手順７で「キャンセル」を選んで 9ENTER を押すと、操作を中止できます。
- 手順７で「クリア」を選んで 9ENTER を押すと、手順４で入力した文字を消去できます。

登録されているシーンの割り当てを初期状態に戻す

リセット

選択したシーンに登録されている全ての設定を初期状態に戻します。

シーンを簡単に登録する

1 **4入力ソース選択キーを使って、シーンに登録したい入力ソースを選ぶ。**

2 **シーンに登録したいサウンドプログラム、エンハンサー、HDMI 出力端子などを選ぶ。**

シーンには以下の設定を登録できます。 1
入力、音声入力選択、HDMI 出力端子、サウンドプログラム、ピュアダイレクトモード、トーンコントロール、Adaptive DRC、エンハンサー、シネマ DSP 3D モード、セリフ位置調整、拡張サラウンド、ビデオ画質調整、ビデオ信号処理、マスターボリューム、リップシンク設定、ディレイ、設定パターン、PEQ 選択

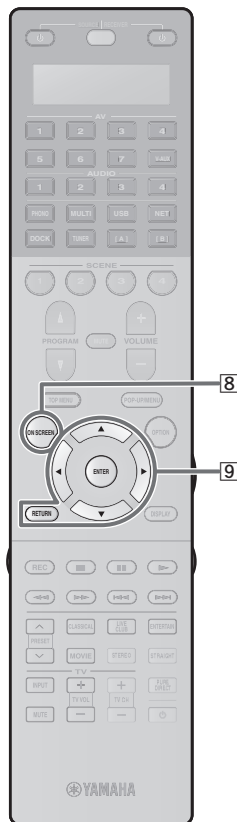
3 **フロントパネルディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、5SCENE を押し続ける。**

SET Complete と表示されたらキーから手を離す

シーンに登録する入力ソースを変更したら、リモコンで操作する外部機器も一緒に変更してください（☞p.106）。

1：シーン選択メニューの「呼出」（☞p.81）でチェックが付いていない項目は、対応するシーンのボタンを押しても適用されません。

音場 / サラウンドデコーダーの効果を調節する（サウンドプログラムメニュー）

サウンドプログラムやサラウンドデコーダーは初期設定のままで十分にお楽しみいただけますが、音場の要素（パラメーター）を調節することにより、効果をアレンジできます。映像 / 音声ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果を調節したい場合は、次のように操作してください。

1 **[8]ON SCREEN を押す。**

2 **[9]カーソル △ / ▽ を使って「サウンドプログラム」を選び [9]ENTER を押す。**

3 **[9]カーソル ◁ / ▷ を使って調整したいサウンドプログラムを選んで [9]カーソル △ を押す。**

4 **[9]カーソル △ / ▽ を使って変更したいパラメーターを選び [9]ENTER を押す。**

5 **[9]カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って調整値を調節し、[9]ENTER を押す。**

編集中のサウンドプログラムに複数の音場パラメーターがある場合は、手順 4 と5を繰り返して他の音場パラメーターも調節できます。

6 **編集が終わったら、[8]ON SCREEN を押して ON SCREEN メニューを終了する。**

● 音場パラメーターを初期状態に戻すには

編集したサウンドプログラムは、簡単な操作で初期状態に戻すことができます。

手順 4 の画面で、[9]**カーソル** △ / ▽ を使って「リセット」を選んで、[9]**ENTER** を押します。次の確認メッセージが表示されたら、[9]**カーソル** ◁ / ▷ を使って「OK」を選んで [9]**ENTER** を押してパラメーターの初期化を実行してください。

初期化を中止したい場合は、この画面が表示されているときに [9]**カーソル** ◁ / ▷ を使って「キャンセル」を選んで、[9]**ENTER** を押してください。

シネマ DSP で調節可能なパラメーター

パラメーター	説明	設定値	
エフェクト量の加減	音声効果のかかり具合を増減させます。視聴環境に合わせて、効果を確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。	–6 dB ～ 0 dB ～ +3 dB（初期設定 0 dB）	効果音が小さく感じられる場合または各サウンドプログラムの違いが感じ取れないとき → 設定値を大きくしてください。 音がぼんやりと聴こえる場合または音場効果のかかり具合が過剰に感じられるとき → 設定値を小さくしてください。
ディレイ	直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。	1 ms ～ 99 ms	値を大きくするほど音場が遅れて発生します。
サラウンド音場の遅れ	直接音が出てからサラウンド音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。	1 ms ～ 49 ms	
サラウンドバックの遅れ	サラウンドバック音場の遅延時間を調節します（6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効）。		
音場空間の大きさ	空間の広がり感を調節するパラメーターです。	0.1 ～ 2.0	値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。
サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。		
サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。		
響きの強さ	初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。	0 ～ 10	値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。
サラウンド音場の響き	サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。		
サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。		

パラメーター	説明	設定値	
残響時間	後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約 1kHz の残響音が 60dB 減衰するのにかかる時間を基準にしています。	1.0 ～ 5.0 s	値を小さくするほど残響音が早く減衰します。長めの残響時間を設定すれば豊かな残響音に、短めの残響時間を設定すればすっきりした残響音になります。
残響音の遅れ	残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。	0 ～ 250 ms	値を大きくするほど残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ「残響時間」でも、「残響音の遅れ」を長くしていくと大きな空間の残響感になります。
残響音の強さ	後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。	0 ～ 100%	値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。
デコーダー選択	MOVIE カテゴリーのサウンドプログラムを使用する際に、組み合わせて使用するサラウンドデコーダーを選択します。💡1	PLIIx ムービー	Dolby Pro Logic IIx Movie（Dolby Pro Logic II Movie）デコーダーを使用します。
		Neo:6 シネマ	DTS Neo:6（Cinema）デコーダーを使用します。

💡1：MOVIE、ENTERTAINMENT カテゴリーにある以下のサウンドプログラムは、サラウンドデコーダーを変更できません。

- モノムービー
- スポーツ
- アクションゲーム
- ロールプレイングゲーム
- ミュージックビデオ

サラウンドデコーダーで調節できるパラメーター

デコーダー	パラメーター	説明	設定値	
PLIIx ミュージック	パノラマ	フロント音場の広がり感を調節します。オンにするとフロント L/R チャンネルの音声を左右に大きく回り込ませることで、広がり感を調節できます。	オン / オフ	初期設定オフ
	センターの広がり	センターチャンネルの音声を、好みに合わせて左右方向に振り分けるパラメーターです。0 にするとセンタースピーカーのみ、7 にするとフロントスピーカーからのみセンターチャンネルの音声が出力されます。	0 ～ 7	初期設定 3
	ディメンション	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じるフロント側とサラウンド側のレベル差を調節できます。－（マイナス）に設定するほどサラウンド側が、＋（プラス）に設定するほどフロント側が強くなります。	–3 ～ +3	初期設定 0
Neo:6 ミュージック	センターイメージ	フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。設定値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。	0.0 ～ 1.0	初期設定 0.3

特定のサウンドプログラムで調節できるパラメーター

サウンドプログラム	パラメーター	説明	設定値	
2ch ステレオ	ダイレクト	アナログ音声を再生している場合は、トーンコントロールなどの状態に応じて、自動で DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスできます。より高音質な音声を楽しみたいときに使用します。	自動（初期設定）	トーンコントロールの「Bass」と「Treble」の両方が 0dB であれば、DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスして出力します。
			オフ	回路をバイパスしません。
7ch ステレオ ☞1	センター音量	センターチャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期設定 100%
	サラウンド左音量	サラウンド L チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期設定 100%
	サラウンド右音量	サラウンド R チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期設定 100%
	サラウンドバック音量	サラウンドバックチャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期設定 50%
	サラウンドバック左音量	サラウンドバック L チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期値 35%
	サラウンドバック右音量	サラウンドバック R チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期値 35%
	フロントプレゼンス左音量	フロントプレゼンス L チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期値 33%
	フロントプレゼンス右音量	フロントプレゼンス R チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期値 33%

☞**1：**本機に接続されたスピーカーの有無によって、設定できるチャンネルは変化します。

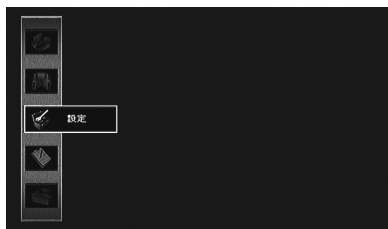
詳細機能を設定する（設定メニュー）

スピーカーバランスの手動調整や HDMI 関連の各種設定など、本機の詳細機能は設定メニューで設定できます。

設定メニューの表示 / 設定

設定メニューは、テレビ画面を見ながら操作できます。

1 [8]**ON SCREEN** を押す。

2 [9]**カーソル △ / ▽ を使って「設定」を選び** [9]**ENTER を押す。**

3 [9]**カーソル ◁ / ▷ を使って設定を変更したい項目を選び** [9]**ENTER を押す。**

設定メニューの種類

スピーカー設定	スピーカーの有無や音量バランス調整など、スピーカーの各種要素（パラメーター）を設定します（☞p.87）。
音声設定	音声 / 映像のずれの調整や最大音量の設定など、音声出力関連の機能を設定します（☞p.93）。
映像設定	映像信号変換時の設定(解像度やアスペクト比)など、映像出力に関する機能を設定します(☞p.94)。
HDMI 設定	HDMI コントロール機能のオン / オフ切り替え、アナログ映像の HDMI 変換時の設定（解像度やアスペクト比）など、HDMI に関する機能を設定します（☞p.96）。
ネットワーク設定	IP アドレスや MAC アドレスフィルターなどのネットワークステータスを設定します（☞p.97）。
マルチゾーン設定	ゾーン 2 のスピーカー音量の調整など、マルチゾーンに関する機能を設定します（☞p.98）。
ファンクション設定	オートパワーダウン機能の設定など、本機をより便利に使うための機能を設定します（☞p.100）。
表示言語	TV 画面に表示する項目名やメッセージの言語を設定します（☞p.103）。

4 [9]**カーソル △ / ▽ を使って設定したい項目を選び** [9]**ENTER を押す。**

選んだメニュー項目にサブメニューがある場合は、さらに [9]**カーソル △ / ▽** を使って設定したい項目を選び、[9]**ENTER** を押します。

5 [9]**カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って選んだ項目の設定を変更する。**

[9]**RETURN** を押すと、1 つ前の画面表示に戻せます。手順 4 〜 5 を繰り返せば、複数項目を設定できます。

6 **設定を終えるには** [8]**ON SCREEN を押す。**

スピーカーのパラメーター設定

スピーカー設定項目

自動測定	自動でスピーカー設定を最適化します。
手動設定	手動でスピーカーのパラメーターを調整します。

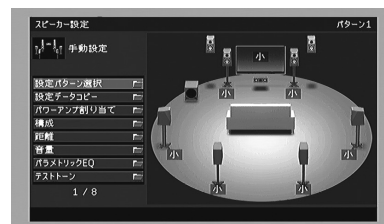
■ 自動でスピーカー設定を測定する

自動測定

YPAO を使って自動的にスピーカー構成を最適化します（☞ 簡易ガイド、p.39）。

■ 手動でスピーカー設定を変更する

手動設定

手動で次のパラメーターが設定できます。

設定パターン選択	2 つのスピーカーの設定パターンを登録して切り替えます。
設定データコピー	設定パターンをコピーします。
パワーアンプ割り当て	一覧からお好みのスピーカー構成を選んで設定します。
構成	スピーカーの大きさの設定や、低音域成分の下限周波数を設定など、手動でスピーカー設定を調整します。
距離	スピーカーごとにリスニングポジションとの距離を設定し、各スピーカーの音が同時にリスニングポジションに届くよう調節します。
音量	本機に接続されているスピーカーごとに音量を調節します。
パラメトリック EQ	本機に搭載されたイコライザーを使って音色を調節します。
テストトーン	テストトーン出力のオン / オフを切り替えます。

設定パターン選択

「パワーアンプ割り当て」、「構成」、「音量」、「距離」、「パラメトリック EQ」の設定を 2 パターン登録し、両パターンを切り替えて使用することができます。
スピーカーを自動調整（YPAO）した場合は、その結果が選択中のパターンに登録されます。

設定データコピー

設定パターンをコピーします。

パターン 1▶2	パターン 1 の設定をパターン 2 にコピーします。
パターン 2▶1	パターン 2 の設定をパターン 1 にコピーします。

スピーカー構成を本機に割り当てる

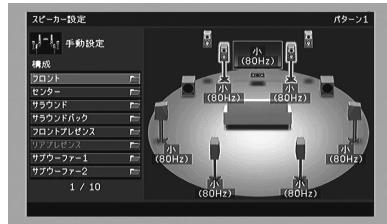
パワーアンプ割り当て

本機では通常の 7.1 チャンネルのスピーカー接続に加えて、フロントおよびリアプレゼンススピーカー、バイアンプ接続、マルチゾーン機能を使うことによりさらに多様なスピーカー構成が可能です。

7ch Normal	7 チャンネルのスピーカーを使用する場合に選びます。また、7 チャンネルのスピーカー構成にフロントプレゼンススピーカーを加える場合や、5 チャンネルのスピーカーを使用する場合もこの設定を選びます（☞ 簡易ガイド）。
7ch + 1ZONE	7 チャンネルのスピーカーをメインルームで使用し、さらに別の部屋（ゾーン 2 またはゾーン 3）でスピーカーを使用する場合に選びます（☞p.19）。 EXTRA SP1 に割り当てるゾーンはゾーン 2 またはゾーン 3 から選択できます。
7ch + 2ZONE	7 チャンネルのスピーカーをメインルームで使用し、さらに別の 2 部屋（ゾーン 2 とゾーン 3）でスピーカーを使用する場合に選びます（☞p.19）。 EXTRA SP1/EXTRA SP2 に割り当てるゾーンはゾーン 2 またはゾーン 3 から選択できます。
7ch + FRONT	7 チャンネルスピーカーと同時に、フロントスピーカーを外部アンプに接続して使用する場合に選びます（☞p.21）。
7ch + FPR	7 チャンネルスピーカーと同時に、フロントプレゼンススピーカーを外部アンプに接続して使用する場合に選びます（☞p.21）。
7ch + FPR + 1ZONE	7 チャンネルスピーカー、外部アンプに接続したフロントプレゼンススピーカー、さらに別の部屋（ゾーン 2 またはゾーン 3）でスピーカーを使用する場合に選びます（☞p.22）。 EXTRA SP1 に割り当てるゾーンはゾーン 2 またはゾーン 3 から選択できます。
7ch + RPR	7 チャンネルスピーカーと同時に、リアプレゼンススピーカーを外部アンプに接続して使用する場合に選びます（☞p.22）。
7ch + FPR + RPR	7 チャンネルスピーカーと同時に、フロントプレゼンススピーカーおよびリアプレゼンススピーカーを外部アンプに接続して使用する場合に選びます（☞p.22）。
7ch + FPR + RPR + 1ZONE	7 チャンネルスピーカーと同時に、外部アンプに接続したフロントプレゼンススピーカーおよびリアプレゼンススピーカー、さらに別の部屋（ゾーン 2 またはゾーン 3）でスピーカーを使用する場合に選びます（☞p.23）。 EXTRA SP1 に割り当てるゾーンはゾーン 2 またはゾーン 3 から選択できます。
5chBI-AMP	左右のフロントスピーカーをバイアンプ接続して、5 チャンネルのスピーカーを使用する場合に選びます（☞p.18）。
5chBI-AMP + FPR	左右のフロントスピーカーをバイアンプ接続すると同時に、フロントプレゼンススピーカーを外部アンプに接続して使用する場合に選びます（☞p.23）。
5chBI-AMP + SB	左右のフロントスピーカーをバイアンプ接続すると同時に、サラウンドバックスピーカーを外部アンプに接続して使用する場合に選びます（☞p.23）。
5chBI-AMP + SB + FPR	左右のフロントスピーカーをバイアンプ接続すると同時に、サラウンドバックスピーカーまたはフロントプレゼンススピーカーを外部アンプに接続して使用する場合に選びます（☞p.24）。
5chBI-AMP + FPR + RPR	左右のフロントスピーカーをバイアンプ接続すると同時に、フロントプレゼンススピーカーおよびリアプレゼンススピーカーを外部アンプに接続して使用する場合に選びます（☞p.24）。

スピーカーの各種パラメーターを手動設定する

構成

本機に接続したスピーカーの表示、または出力特性を調整します。

「構成」メニューには、スピーカーの大きさ（大または小）を設定するパラメーターがあります。「小」に設定したスピーカーの低音域は、サブウーファー（サブウーファーが無効な場合はフロントスピーカー）から出力されます。目安としてご使用になるスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」に設定してください。

設定項目		設定値	
フロント	フロントスピーカーのサイズを選択します。💡1	大	フロントスピーカーが大きい場合に選択します。フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。 サブウーファーを接続していない場合は、自動的に「大」が選択されます。
		小 （初期設定）	フロントスピーカーが小さい場合に選択します。フロントチャンネルの低音域の音声は、サブウーファーから出力されます。💡2
センター	センタースピーカーのサイズを選択します。	大	センタースピーカーが大きい場合に選択します。センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
		小 （初期設定）	センタースピーカーが小さい場合に選択します。💡2
		無	センタースピーカーを接続していない場合に選択します。センターチャンネルの音声はフロントスピーカーに振り分けられます。
サラウンド	サラウンドスピーカーのサイズを選択します。	大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択します。サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
		小 （初期設定）	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択します。💡2
		無	サラウンドスピーカーを接続していない場合に選択します。再生ソースのサラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーに振り分けられます。💡3 💡4
サラウンドバック	サラウンドバックスピーカーのサイズを選択します。💡5 💡6	大 1 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択します。
		大2台	大きいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択します。
		小 1 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択します。💡7
		小2台 （初期設定）	小さいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択します。💡7
		無	サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選択します。サラウンドバックチャンネルの音声はサラウンド L/R スピーカーおよびサブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）に振り分けられます。
フロントプレゼンス	フロントプレゼンススピーカーの有無を設定します。	使用する （初期設定）	フロントプレゼンススピーカーを接続している場合に選択します。
		使用しない	フロントプレゼンススピーカーを接続していない場合に選択します。
リアプレゼンス	リアプレゼンススピーカーの有無を設定します。	使用する	リアプレゼンススピーカーを接続している場合に選択します。
		使用しない （初期設定）	リアプレゼンススピーカーを接続していない場合に選択します。

設定する

設定項目		設定値	
サブウーファー１／サブウーファー２	サブウーファーの有無を設定します。また低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を調節して音像をはっきりさせます。	使用する （初期設定）	サブウーファーが接続されているときに選択します。再生ソースの LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた低音域の音声がサブウーファーから出力されます。💡8 また、低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を調節して音像をはっきりさせます。 正相（初期設定） サブウーファーの位相を反転しません。 逆相 サブウーファーの位相を反転します。
		使用しない	サブウーファーを接続していないときに選択します。この場合、サブウーファーから出力される低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。
サブウーファー配置	本機に接続した 2 台のサブウーファーの配置を選択します。	左右配置	サブウーファーを本機の左右に配置する場合に選択します。
		前後配置	サブウーファーを本機の前後に配置する場合に選択します。
		モノラル 2 台 （初期設定）	左右、前後のどちらか、またはいずれも当てはまらない場合に選択します。 また、サブウーファーを 1 台のみ接続する場合もこちらを選択します。
エクストラベース 💡9 💡10	フロントチャンネルの低音域の音声をサブウーファーで再生するか、サブウーファーとフロントスピーカーの両方で再生するかを設定します。	オフ （初期設定）	フロントスピーカーの大きさに応じて、フロントスピーカーまたはサブウーファーのどちらか一方から低音域の音声が出力されます。
		オン	サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域の音声が出力されます。

💡**1：**「サブウーファー１」と「サブウーファー２」が「使用しない」の場合は、自動的にフロントスピーカーのサイズが「大」になります。

💡**2：**クロスオーバー周波数を 40Hz、60Hz、80Hz（初期設定）、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、または 200Hz から選択できます。選択された周波数よりも小さい周波数の音声は、サブウーファーから出力されます。

💡**3：**「無」に設定した場合、実際にスピーカーが接続されていても、サラウンドスピーカー（およびサラウンドバックスピーカー）から音声は出力されません。

💡**4：**「無」に設定されている間、サウンドプログラムがバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

💡**5：**サラウンドスピーカーが無効な場合、サラウンドバックスピーカーは自動で「無」に切り替わります。

💡**6：**再生ソースに含まれるサラウンドバックチャンネルの音声は、ここで設定した内容に応じて 1 つにミックスされたり（6.1 チャンネルの場合）、サラウンドスピーカーへと振り分けられたり（5.1 チャンネルの場合）して出力されます。

💡**7：**「低音クロスオーバー」を設定するとサブウーファーへ送られる低音の周波数帯を設定できます。

💡**8：**「エクストラベース」の設定を変更すると、サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域の音声を出力できます。

💡**9：**「サブウーファー 1」と「サブウーファー 2」を「使用しない」、または「フロント」を「小」に設定しているときは表示されません。

💡**10：**「サブウーファー 1」と「サブウーファー 2」を「使用しない」に設定した場合や「フロント」を「小」に設定したときは、「オフ」（初期値）から変更できません。

スピーカーの設置間隔を手動で設定する

距離

スピーカーごとにリスニングポジションとの距離を設定し、各スピーカーの音が同時にリスニングポジションに届くよう調節します。

1 **9カーソル △ / ▽ を使って設定単位（メートル（初期設定）またはフィート）を選択し、9ENTER を押す。**

2 **9カーソル △ / ▽ を使って設定したいスピーカーを選択し、9ENTER を押す。**

3 **9カーソル ◁ / ▷ を使ってスピーカーとリスニングポジションの間隔を設定する。**

設定範囲	0.30 m ～ 24.00 m （1.0 ft ～ 80.0 ft）
初期設定	3.00 m （10.0 ft）
設定単位	0.05 m （0.2 ft）

距離の値は、設定単位ごとに設定されます。例えば「メートル」で数値を変更した後に設定単位を「フィート」にしても、「メートル」で設定した数値は反映されません。

スピーカーごとに音量を調節する

音量

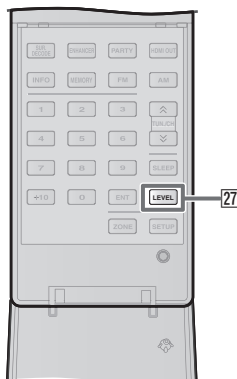
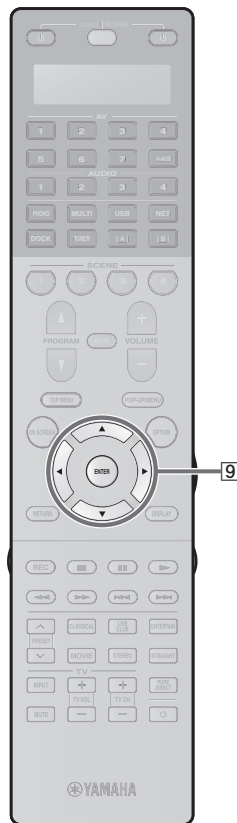
本機に接続したスピーカーごとに音量を調節します。

音量を調節するには

9カーソル△ / ▽を使ってスピーカーを選択し、**9ENTER**を押します。そのあと**9カーソル** ◁ / ▷ を使って音量を調節します。
音量を調節する際は、よくお使いになる入力ソースを再生して、実際に出力される音量を確かめながら微調整することをおすすめします。

設定範囲	–10.0 dB ～ +10.0 dB
初期設定	0.0 dB
設定単位	0.5 dB

各スピーカーの音量は、**27LEVEL** を押しても調整できます。
27LEVEL を押してから **9カーソル** △ / ▽ で目的のスピーカーを選び、**9カーソル** △ / ▽ で選択したスピーカーの音量を調整してください。

設定する

■ イコライザーを使って音色を調節する

パラメトリック EQ

パラメトリックイコライザーを使って音色を調節します。

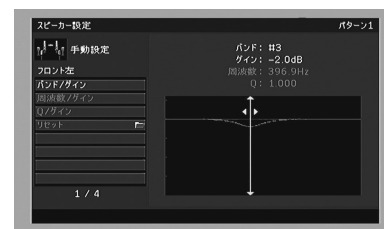
設定項目		設定値	
PEQ 選択	使用するイコライザーの種類を選びます。	手動編集	手動でイコライザーを調節します。詳しくは「手動でイコライザーを調節するには」をご覧ください。
		フラット	各スピーカーの特性を均一（フラット）にします。
		フロントに近似	フロント左／右スピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。
		ナチュラル	すべてのスピーカーの音質を、高域特性を下げた状態に揃えます。高域がきつく聞こえるときに設定してください。
		使用しない	イコライザーを使用しません。
PEQ データコピー	「自動測定」で得られた 3 種類のパラメトリックイコライザータイプの中から 1 種類を選んで手動編集エリアにコピーします。	フラット > 手動編集	パラメトリックイコライザー「フラット」の値を手動編集エリアにコピーします。
		フロント > 手動編集	パラメトリックイコライザー「フロント」の値を手動編集エリアにコピーします。
		ナチュラル > 手動編集	パラメトリックイコライザー「ナチュラル」の値を手動編集エリアにコピーします。
フロント左 / フロント右 / センター / サラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバック左 / サラウンドバック右 / フロントプレゼンス左 / フロントプレゼンス右 / リアプレゼンス左 / リアプレゼンス右 / サブウーファー 1/ サブウーファー 2	各スピーカーの音響特性を手動で編集します。「PEQ 選択」で「手動編集」を選択してください。 設定方法については、「手動でイコライザーを調節するには」をご覧ください。	バンド / ゲイン	バンドを選択し、ゲインを調節します。バンドは #1 ～ #7 の 7 つ（サブウーファーの場合は #1 ～ #4 の 4 つ）から選びます。それぞれのバンドは、あらかじめ中心周波数が設定されています。
		周波数 / ゲイン	中心周波数とゲインを調節します。 中心周波数は、#1 ～ #4 のバンドでは 31.3Hz ～ 16.0kHz、#5 ～ #7 のバンドでは 500.0Hz ～ 16.0kHz の範囲で選べます。サブウーファーの #1 ～ #4 のバンドでは 31.3Hz ～ 250.0Hz の範囲で選べます。
		Q/ ゲイン	周波数帯域の帯域値とゲインを調節します。 帯域値は、0.500 ～ 10.080 の範囲で選べます。
		リセット	各スピーカーの特性を初期設定状態に戻します。

● 手動でイコライザーを調節するには

1 **[9]カーソル△ / ▽を使って調整したいスピーカーを選び [9]ENTER を押す。**

2 **[9]カーソル △ / ▽ を使って「バンド / ゲイン」、「周波数 / ゲイン」または「Q/ ゲイン」を選び [9]ENTER を押す。**

3 **[9]カーソル ◁ / ▷ を使ってパラメーターを調節し、[9]カーソル △ / ▽ を使ってゲインを調節する。**

ゲインはそれぞれのパラメーターのレベルの強さを表します。0.5dB ごとに、－ 20.0dB ～＋ 6.0dB の範囲で調節できます。

4 **[9]ENTER を押して編集画面を閉じる。**

5 **手順 1 ～ 3 を繰り返して他のパラメーターを調節する。**

各スピーカーの設定を初期設定に戻すには、「リセット」の「はい」を選んで [9]ENTER を押してください。

6 **調整が終わったら、[8]ON SCREEN を押して設定を終了する。**

■ テストトーンを出力する

テストトーン

テストトーン出力のオン / オフを切り替えます。

設定値	説明
オフ（初期設定）	テストトーンを出力しません。
オン	テストトーンを出力します。

テストトーンは本機を設定するさまざまな状況で使用できます。たとえばスピーカーごとに音量調整する場合（☞p.91）や、パラメトリックイコライザーを調節するときにテストトーンを出力すれば、実際の効果を確認しながら設定できます。設定を「オフ」に戻すか、セットアップメニューを終了すると、テストトーンの出力は停止します。

音声出力の設定

音声設定

設定項目			設定値	
リップシンク設定	映像と音声の出力タイミングのずれを調節します。	**自動補正** 映像 / 音声のタイミング自動補正（オートリップシンク）に対応しているテレビと本機を HDMI 接続している場合に、出力タイミングを自動で補正します。	テレビ側が自動補正機能に対応している場合に選びます。必要であれば補正時間を微調節できます。	
		手動補正 補正時間を手動で調整します。テレビ側がオートリップシンクに対応していない場合に使用します。	0 ms ～ 250 ms （1 ms 単位）	初期設定 0 ms

設定項目		設定値	
ダイナミックレンジ	Dolby Digital や DTS 信号を再生した場合に、ダイナミックレンジを調節する方法を選びます。	最大 （初期設定）	入力された信号を補正せず、そのまま再生します。
		標準	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジで再生します。
		最小 / 自動	（最小）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。 （自動）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。
音量の上限	誤って音量が上がりすぎないように、最大音量を設定します。初期設定では、最大音量（+16.5 dB）まで出力できます。	–30.0 dB ～ +15.0 dB、+16.5 dB （単位 5.0 dB）	初期設定 +16.5 dB
音量の初期値	電源をオンにした直後の音量を設定します。「オフ」に設定した場合は、前回電源をスタンバイにしたときの音量が適用されます。💡**1**	オフ、ミュート、–80 dB ～ +16.5 dB （単位 0.5 dB）	初期設定 オフ
ピュアダイレクトモード	本機から出力する映像信号をピュアダイレクトモードで出力するかどうか選びます。	自動 （初期設定）💡**2**	映像（またはコンテンツ画面）を表示する入力ソースを選択中に自動で映像信号を出力します。
		ビデオ オフ	壁紙を含めたすべての映像信号を自動出力しません。
Adaptive DSP Level	本機の音量と DSP レベルを連動して調節します。音量を小さくすると、DSP レベルは自動的に強くなります。	オフ	DSP レベルを自動的に調節しません。
		オン （初期設定）	DSP レベルを自動的に調節します。また、自動補正による音場効果も調節します。

💡**1：**「音量の上限」の設定値が「音量の初期値」の設定値よりも小さい場合、「音量の上限」の設定が優先されます。

💡**2：**映像信号が入力されていないときは、壁紙のみを表示します。

設定する

映像出力の設定

映像設定

アナログ端子間の映像信号を変換する

アナログ端子間変換

アナログ端子間のビデオコンバージョン機能をオン／オフします（コンポーネント、D4 ビデオ、ビデオ端子）。

設定値	説明
オフ	アナログ端子間の映像信号変換を無効にします。
オン（初期設定）	アナログ端子間の映像信号変換を有効にします。

- HDMI 入力端子に映像信号を入力している、または 1080p アナログ映像信号を入力している場合以外、アナログから HDMI へのビデオコンバージョン機能は常に有効です。
- 走査線 480 と 576 をもつ映像信号を相互に変換することはできません。
- 480p、1080i、720p 信号は MONITOR OUT/ZONE OUT 端子（S ビデオおよびコンポジットビデオ）から出力されません。
- 変換された映像信号は、MONITOR OUT/ZONE OUT 端子へのみ出力されます。
- 外部機器を使って録画するときは、再生機器と同じ種類の映像接続を行ってください。
- 特殊な映像信号を出力する機器（ゲーム機など）を本機のコンポジットビデオ端子または S ビデオ端子に接続した場合、映像が正しく出力されなかったり、信号が変換されなかったりすることがあります。このような場合は「アナログ端子間変換」を「オフ」に設定してください。

HDMI 信号変換時の映像を設定する

信号処理

HDMI 端子から入力した映像信号を処理します。

設定値	内容
オフ（初期設定）	HDMI 入力信号を処理しません。HDMI 入力信号に対する映像の設定は無効になります。
オン	HDMI 入力信号を処理します。「オン」を選択すると、次に HDMI 入力信号に対する映像の設定画面に移ります。

「信号処理」を「オン」に設定すると、「解像度」および「アスペクト」の設定、画質調整ができます。

設定項目		設定値	
解像度	映像入力信号を HDMI OUT 端子から出力するときに解像度を変換します。 各入力信号は以下の信号に変換できます。 • 480i → 480p ／ 720p ／ 1080i ／ 1080p • 480p → 720p／1080i／1080p	自動判別（初期設定）	出力先のテレビの解像度に応じて自動で信号を変換して出力します。
		480p	480p 信号に変換して出力します。
		720p	720p 信号に変換して出力します。
		1080i	1080i 信号に変換して出力します。
		1080p	1080p 信号に変換して出力します。
		変換しない	解像度を変換せずにそのまま出力します。
アスペクト	映像入力信号を HDMI OUT 端子から出力するときに、縦横比（アスペクト比）4：3 の映像信号を 16：9 に変換します。	変換しない（初期設定）	縦横比を変換せずに、元の比率で映し出します。
		16：9 ノーマル	テレビ画面の左右に黒い帯をつけて、4：3 の映像を 16：9 のテレビで最適な映像になるように出力します。
		スマートズーム	アスペクト比 4：3 の映像を、16：9 に合わせて調整します。ただしこの調整を行うと、モニターに表示される映像の端が歪んでしまうことがあります。
画質調整	画質を調整します。	ー	詳しい調整項目は次ページをご覧ください。

- 本機とテレビが HDMI 接続されているとき、本機はテレビで対応する解像度を検出して、対応する解像度のみを設定値として表示します。
- 本機がテレビで対応する解像度を検出できないときは、アドバンスドセットアップメニューの「MONITOR CHECK」で「SKIP」を選んでから解像度の設定を行ってください（☞p.114）。

画質調整

画質の調整を行います。お好みの設定を 6 つまで登録して、プリセットとして使用することもできます。

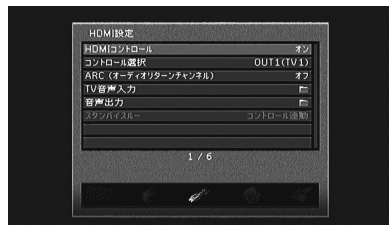
1 **9カーソル △ / ▽ を押してプリセットを選び、9ENTER を押す。**

2 **9カーソル △ / ▽ を押して調整したい項目を選ぶ。**

3 **9カーソル ◁ / ▷ を押して以下の設定値を選び、9ENTER を押す。**
選択したプリセットに設定が反映されます。

設定項目	内容
コントラスト強調	「自動」に設定すると、コントラストが強調されます。 「オフ」（初期設定）にすると、コントラストを強調できなくなります。
解像度強調	「自動」に設定すると、画像の解像度が強調されます。 「オフ」（初期設定）にすると、解像度を強調できなくなります。 「手動」に設定すると、以下の項目と連動し、手動で設定できるようになります。 • 細部強調 画像の密度を強調します。 調整範囲：0（初期設定）～ 50 • エッジ強調 画像のエッジを強調します。 調整範囲：0（初期設定）～ 50
ノイズリダクション	「自動」に設定すると、画像のノイズが軽減されます。 「オフ」（初期設定）にすると、ノイズリダクションを使用できなくなります。 「手動」に設定すると、以下の項目と連動し、手動で設定できるようになります。 • モスキート NR エッジに現れるフリッカーノイズ（モスキートノイズ）を軽減します。 設定項目：低 / 中 / 高 • ブロック NR ブロックノイズを軽減します。ブロックノイズは、低ビットレートの映像再生中によく現れます。 設定項目：低 / 中 / 高 • テンポラル NR フィルム粒子ノイズやアナログ映像信号のランダムノイズのようなテンポラルノイズを軽減します。 設定項目：低 / 中 / 高
ブライトネス	画像の明るさを調整します。 調整範囲：-100 ～ 0（初期設定）～ +100
コントラスト	画像のコントラストを調整します。 調整範囲：-100 ～ 0（初期設定）～ +100
色の濃さ	画像の色の濃さを調整します。 調整範囲：-100 ～ 0（初期設定）～ +100

HDMI の設定

HDMI 設定

設定項目		設定値		
HDMI コントロール	HDMI コントロール機能のオン / オフを切り替えます。	オフ		HDMI コントロール機能をオフにします。
		オン（初期設定）		HDMI コントロール機能をオンにします。※1
コントロール選択 ※2	HDMI コントロール機能を割り当てる HDMI OUT 端子を選びます。	OUT1（TV1）（初期設定）		HDMI OUT 1 端子に HDMI コントロール機能を割り当てます。
		OUT2（TV2）		HDMI OUT 2 端子に HDMI コントロール機能を割り当てます。
ARC（オーディオリターンチャンネル）※3	オーディオリターンチャンネル機能のオン / オフを選択します。	オフ（初期設定）		オーディオリターンチャンネル機能をオフにします。
		オン		オーディオリターンチャンネル機能をオンにします。※4
TV 音声入力 ※3	HDMI コントロール機能をオンにした際、テレビの音声を入力する入力ソースを選びます。テレビ側が本機からの出力音声に設定されている場合は、ここで選んだ入力ソースにテレビの音声が入力されます。※4 ※5	TV1（初期設定 AUDIO1）	AUDIO1 ～ AUDIO4	テレビの音声入力用として AV1-6 または AUDIO1-4 のいずれか 1 つを割り当てます。
		TV2（初期設定 AUDIO3）		

設定項目		設定値		
音声出力 ※3	HDMI 接続された BD/DVD プレーヤーなどの外部機器再生時に、音声を本機から出力するか、テレビから出力するかを選択します。 「HDMI コントロール」が「オン」のときは、「コントロール選択」で設定した HDMI OUT 端子と「アンプ」設定が、「HDMI コントロール」と連動します。	アンプ	オフ	本機に接続したスピーカーから音声を出力しません。
			オン（初期設定）	本機に接続したスピーカーから音声を出力します。
		OUT1	オフ（初期設定）	本機の HDMI OUT 1 端子に接続したテレビから音声を出力しません。
			オン	本機の HDMI OUT 1 端子に接続したテレビから音声を出力します。
		OUT2	オフ（初期設定）	本機の HDMI OUT 2 端子に接続したテレビから音声を出力しません。
			オン	本機の HDMI OUT 2 端子に接続したテレビから音声を出力します。
スタンバイスルー ※3	本機がスタンバイのときに、HDMI 端子のいずれかから入力された映像 / 音声をテレビへ出力します（スタンバイスルー機能）。※6、※7	オフ		スタンバイスルー機能を無効にします。
		オン		HDMI 入力に入力された映像 / 音声をテレビへ出力します。 スタンバイ中はリモコンの 4 **AV-1-7** または 4 **V-AUX** を使ってテレビへ出力される HDMI 入力を切り替えることや、入力ソースの選択が可能です。 スタンバイ中に HDMI 入力が切り替わると、HDMI スルー /iPod チャージインジケーターが 2 回点滅します。

※**1**：HDMI コントロールをオンにすると、以下の設定項目が自動で「コントロール連動」（「オン」と同じ状態）となり、設定の変更ができなくなります。
- 「音声出力」の「アンプ」 •「音声出力」の「OUT1」または「OUT2」 •「スタンバイスルー」

※**2**：「コントロール選択」の変更後は、本機とテレビの電源コードをコンセントから抜き、再度差し込みます。

※**3**：「HDMI コントロール」のオン / オフ設定によって設定が可能な項目が変わります。

※**4**：オーディオリターンチャンネル機能が有効になっている間は、「TV 音声入力」で選択した入力端子は使用できません。オーディオリターンチャンネルの音声を出力する場合は、「コントロール選択」で選択された HDMI OUT 端子からの入力音声が出力されます。

※**5**：テレビの音声を入力する方法は、**「テレビの音声を本機で聴く」**（☞p.29）をご覧ください。

※**6**：スタンバイスルーがオンのときは、フロントパネルの HDMI スルー /iPod チャージインジケーターが点灯します。スタンバイスルー中は、2 ～ 5W の電力を消費します。

※**7**：スタンバイスルー中は入力ソースの選択が可能です。

ネットワークを設定する

ネットワーク設定

IP アドレスを設定する

IP アドレス

ネットワークデバイス（DHCP 対応のルータなど）から、IP アドレス、デフォルトゲートウェイなどの情報を自動的に取得するかどうかを選択します。

DHCP

設定値	内容
オフ	IP アドレスを手動で設定します。
オン（初期設定）	DHCP サーバーから IP アドレスを自動的に取得します。

手動設定

設定値	内容
IP アドレス	IP アドレスを設定します。ネットワーク上の他の機器と同じ IP アドレスは使用できません。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。
デフォルト ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。
DNS サーバー（プライマリー）／ DNS サーバー（セカンダリー）	プライマリー／セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定します。

DNS アドレスが 1 つの場合は、「DNS サーバー（プライマリー）」に入力してください。2 つ以上ある場合は、1 つを「DNS サーバー（プライマリー）」に、ほかの 1 つを「DNS サーバー（セカンダリー）」に入力してください。

ネットワークから本機の電源をオンにする

ネットワークスタンバイ

本機の電源がスタンバイのときに、ネットワークから操作して本機の電源をオンにするかどうかを選択します。

設定値	内容
オフ（初期設定）	ネットワークからの操作を受け付けません。
オン	ネットワークからの操作を受け付け、本機の電源をオンにします。

「ネットワークスタンバイ」が「オン」に設定されていても、消費電力は約 5W です。

MAC アドレスフィルターを設定する

MAC アドレスフィルター

LAN から本機へのアクセスを制限するために、MAC アドレスフィルターを設定します。

モード

設定値	内容
オフ（初期設定）	MAC アドレスフィルターを無効にします。
オン	指定した MAC アドレスのデバイスのみ本機にアクセスできます。

アドレス設定

「MAC アドレスフィルター」を「オン」に設定しているときに、本機にアクセスできるネットワークデバイスの MAC アドレスを指定します。

マルチゾーン機能を設定する

マルチゾーン設定

▌ゾーン 2 またはゾーン 3 の音量を調節する

ゾーン 2 設定

ゾーン 3 設定

設定項目		設定値	初期設定
音量	ゾーン 2 またはゾーン 3 のスピーカーについて、音量を調節するかどうかを設定します。「パワーアンプ割り当て」の設定時は、自動的に「可変」が選択されます。	固定、可変	可変
音量の上限	誤って音量が上がりすぎないように、ゾーン 2 またはゾーン 3 の最大音量を設定します。初期設定では、最大音量（+16.5dB）まで出力できます。	–30.0dB ～ +16.5dB（単位 5.0dB）	+16.5dB
音量の初期値	ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオンにした直後の音量を設定します。「オフ」に設定した場合は、前回電源をスタンバイにしたときの音量が適用されます。💡1	オフ、ミュート、–80.0 ～ +16.5dB（単位 0.5dB）	オフ
モノラル再生	ゾーン 2 またはゾーン 3 の音声信号をモノラルに変換するかどうかを設定します。	オフ、オン	オフ

💡**1：**「音量の上限」の設定値が「音量の初期値」の設定値よりも小さい場合、「音量の上限」の設定が優先されます。

▌デジタル光出力の出力ゾーンを設定する

デジタル出力割り当て

AV OUT/ZONE4 からのデジタル音声信号の出力先として、メインゾーンまたはゾーン 4 のどちらかを選択します。

設定値	内容
メイン	メインゾーンに出力します。
ゾーン 4	ゾーン 4 に出力します。

▌映像の出力先を割り当てる

モニター出力割り当て

MONITOR OUT/ZONE OUT 端子から出力される映像信号をメインゾーン、ゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4 のどこに出力するかを設定します。
メインゾーンのテレビが HDMI OUT 端子に接続されている場合、ゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4 のモニターは MONITOR OUT/ZONE OUT 端子に接続します。

設定値	内容
メイン（初期設定）	メインゾーンに出力します。
ゾーン 2 💡**2**	ゾーン 2 に出力します。
ゾーン 3 💡**2**	ゾーン 3 に出力します。
ゾーン 4	ゾーン 4 に出力します。

💡**2：**ゾーン 2、ゾーン 3 のオプションメニューおよびコンテンツ画面を表示できます。詳しくは**「ゾーン 2、ゾーン 3 のオンスクリーンディスプレイ」**（☞p.117）をご覧ください。

▌パーティーモードを設定する

パーティーモード設定

パーティーモードにすると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4 で楽しむことができます（☞p.118）。ゾーンごとにパーティーモードの無効／有効を設定することができます。

設定値	内容
有効（初期設定）	パーティーモード中に対象のゾーンに音声が出力されます。
無効	パーティーモード中に対象のゾーンに音声が出力されません。

ゾーンシーンの名前を変更する

ゾーンシーン名称変更

ゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4 のシーン名称を変更します。

1 **9カーソル △ / ▽ を使って「ゾーンシーン名称変更」を選んで 9ENTER を押す。**

2 **9カーソル△ / ▽を押して変更したいゾーンを選び 9ENTER を押す。**

3 **9カーソル△ / ▽を使って変更したいシーンを選び 9ENTER を押す。**

4 **9ENTER を押す。**
シーン名称が編集できる状態になります。

5 **9カーソル △ / ▽ を使って入力する文字を選び、9カーソル ◁ / ▷ で選んだ文字を確定する。**

シーン名称は最大 20 文字です。

6 **手順 5 を繰り返してシーン名を入力する。**

7 **9ENTER を押してシーン名を確定する。**

8 **9カーソル ▽ を押して「OK」を選ぶ。**
別のシーン名を変更するには、9ENTER を押します。

- 手順 8 で「キャンセル」を選んで 9ENTER を押すと、操作を中止できます。
- 手順 8 で「クリア」を選んで 9ENTER を押すと、手順 5 で入力した文字を消去できます。

ゾーンの名前を変更する

ゾーン名称変更

ゾーン名称を変更します。

1 **9カーソル △ / ▽ を使って「ゾーン名称変更」を選んで 9ENTER を押す。**

2 **9カーソル△ / ▽を使って変更したいゾーンを選び 9ENTER を押す。**

3 **9ENTER を押す。**
ゾーン名称が編集できる状態になります。

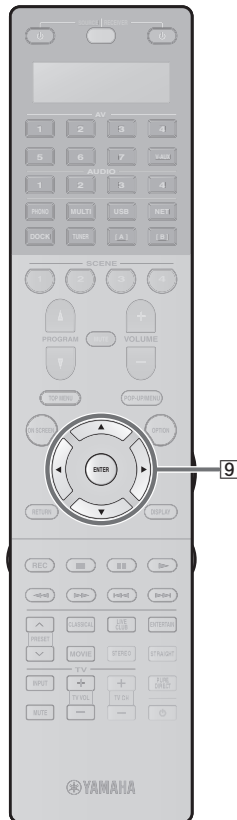
4 **9カーソル △ / ▽ を使って入力する文字を選び、9カーソル ◁ / ▷ で選んだ文字を確定する。**

ゾーン名称は最大 9 文字です。

5 **手順 4 を繰り返してゾーン名を入力する。**

6 **9ENTER を押してシーン名を確定する。**

7 **9カーソル ▽ を押して「OK」を選ぶ。**
さらにゾーン名を変更するには、9ENTER を押します。

- 手順 7 で「キャンセル」を選んで 9ENTER を押すと、操作を中止できます。
- 手順 7 で「クリア」を選んで 9ENTER を押すと、手順 4 で入力した文字を消去できます。

本機をより便利に使うための設定

ファンクション設定

オートパワーダウン

設定項目		設定値	
タイマー	本体やリモコンを長時間操作しなかったときに、自動で本機をスタンバイにします（オートパワーダウン機能）。初期状態ではオフに設定されていますが、スタンバイまでの時間を設定することで機能を有効にできます。1	4 時間	4 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
		8 時間	8 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
		12 時間	12 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
		オフ（初期設定）	オートパワーダウン機能を無効にします。

1 : オートパワーダウン機能を有効にした場合、スタンバイへ移行する 30 秒前から、フロントパネルディスプレイに残り時間が表示されます。スタンバイへの移行を中止したい場合は、残り時間がゼロになる前に本体またはリモコンを操作してください。

■ 入出力端子を機器に割り当てる

入力端子割り当て

本機の初期設定がお好みに合わない場合などに、選択した入力ソースに同軸/光またはコンポーネント入力端子を割り当てることができます。各端子の割り当てを変えることで、効率的に外部機器を接続することができます。
入力端子割り当て後は、入力ソース選択キーで対応する機器を選ぶことができます。

ここでは、例として光入力端子を「AV1」に割り当てます。

1 **9ENTER を押して「入力端子割り当て」画面を表示させる。**

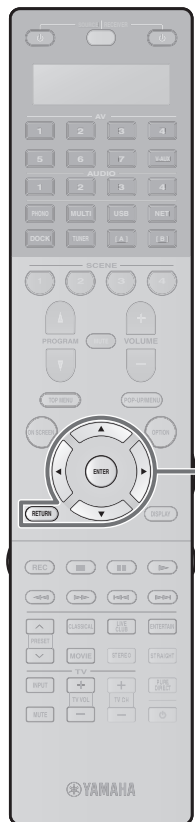
2 **9カーソル△ / ▽ / ◁ / ▷を使って「AV1」と「同軸／光」の交差するセルを選び、9ENTER を押す。**

3 **9カーソル ◁ / ▷ を使って③を選び、9ENTER を押す。**
現在の割り当てをキャンセルする場合は、「無し」を選びます。

記号はそれぞれ以下の端子に対応しています。
①、②、⑥：同軸端子
③、④、⑤：光端子
A、B、C、D：コンポーネント端子
上記の記号は、本機リアパネルの各端子に付いている刻印と同じ記号になっています。（☞p.12）。

4 **9RETURN を押して設定を確定し、前の画面に戻る。**

- 同タイプの端子につき、1 つの項目のみ選択できます。
- ここで割り当てができるのは、コンポーネント、同軸、光端子のみです。
- 同軸・光端子を同時に割り当てることはできません。

設定する

表示設定

フロントパネルディスプレイやテレビ画面の表示方法を設定します。

設定項目			設定値	
本体表示器設定	フロントパネルディスプレイ表示の明るさや、スクロール表示の方法を設定します。	**明るさ** フロントパネルディスプレイの明るさを設定します。設定値を小さくするほどフロントパネルディスプレイの表示が暗くなります。	–4 ～ 0	初期設定 0
		スクロール表示 曲名や放送局名などがフロントパネルディスプレイに表示されるときに、14 文字を超える場合の表示方法を設定します。	継続 （初期設定）	すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。
			1 回	すべての文字を一度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から 14 文字目までを表示します。
壁紙設定	映像が入力されていないときに表示する、壁紙を選びます。		ピクチャー 1 ～ 3	映像が入力されていないときに、背景画像が表示されます。
			グレー	映像が入力されていないときに、背景がグレー一色になります。

トリガー出力 1

トリガー出力 2

TRIGGER OUT1 または 2 端子に接続した機器のコントロール機能に関する設定をします。
TRIGGER OUT 端子について詳しくは、36 ページをご覧ください。

設定項目			設定値	
トリガーモード	トリガー機能によって本機と外部機器を連動させる動作を選びます。		パワー	本機の電源をオンにしたときに電気信号を出力します。
			ソース	入力ソースを切り替えたときに電気信号を出力したり、出力を停止したりします。
			手動	手動で電気信号を出力したり、出力を停止したりします。
対象ゾーン	トリガー機能で動作を連動させるゾーンを選びます。 「トリガーモード」で「パワー」を設定している場合は、選択したゾーンの電源をオンにしたときに電気信号を出力します。 「トリガーモード」で「ソース」を設定している場合は、選択したゾーンの入力ソースを切り替えたときに電気信号を出力します。		メイン	メインゾーンの動作に連動して電気信号を出力します。
			ゾーン 2	ゾーン 2 の動作に連動して電気信号を出力します。
			ゾーン 3	ゾーン 3 の動作に連動して電気信号を出力します。
			ゾーン 4	ゾーン 4 の動作に連動して電気信号を出力します。
			全ゾーン （初期設定）	各ゾーンの動作に連動して電気信号を出力します。
対象ソース	入力ソースの切り替えによって、電気信号を出力したり、停止したりします。 本項目を設定するには、「トリガーモード」を「ソース」に設定する必要があります。	**入力ソース** AV1-7、 VIDEO AUX、 チューナー、 USB、 AUDIO1-4、 DOCK、 マルチ CH 入力、 フォノ、PC、 ネットラジオ	ロー	本項目で選んだ「対象ソース」を入力選択したときに、電気信号の出力を停止します。
			ハイ （初期設定）	本項目で選んだ「対象ソース」に入力選択したときに、12V の電気信号が出力されます。
手動設定	手動で、電気信号を出力できます。この設定は TRIGGER OUT 端子に接続している外部機器のトリガー機能が適切に動作するか確認したいときに行います。 本項目を設定するには、「トリガーモード」を「手動」に設定する必要があります。		ロー	電気信号の出力を停止します。
			ハイ （初期設定）	12V の電気信号を出力します。

設定保護

誤操作によって設定値が変更されないよう、セットアップメニューの設定を保護します。

設定値	内容
しない （初期設定）	設定を保護しません。
する	「しない」に再設定するまでセットアップメニューの設定を保護します。「する」に設定している間、設定変更しようとすると「保護されています」と表示され、操作できません。

表示言語の選択

表示言語

テレビ画面に表示する言語を切り替えます。💡1

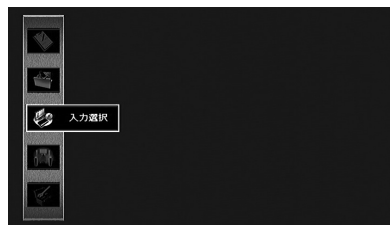
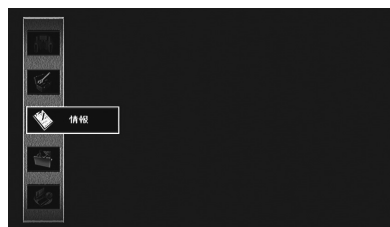
設定値	内容
English	表示言語を英語に変更します。
日本語（初期設定）	表示言語を日本語に変更します。
Français	表示言語をフランス語に変更します。
Deutsch	表示言語をドイツ語に変更します。
Español	表示言語をスペイン語に変更します。
Русский	表示言語をロシア語に変更します。

💡**1：**フロントパネルディスプレイの表示は英語のみです。

本機の設定情報を確認する（情報メニュー）

本機の設定情報をテレビ画面に表示します。

情報メニューの表示

1 **8ON SCREEN を押す。**

2 **9カーソル △ / ▽ を使って「情報」を選び 9ENTER を押す。**

3 **9カーソル ◁ / ▷ を使って表示させたい情報を選んで 9ENTER を押す。**

音声信号

音声信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示します。

信号方式	フォーマットを表します。本機がデジタル信号を認識できないときは、自動的にアナログ入力に切り替わります。
サンプリング	アナログ信号をデジタル信号化するときの、1 秒あたりのサンプル数を表します。
チャンネル	入力信号に含まれているチャンネル数を表します（フロント／サラウンド／ LFE）。例えば、入力信号にフロント 3 チャンネル、サラウンド 2 チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。
ビットレート	入力信号の 1 秒あたりのデータ量を表します。
ダイアローグ	ビットストリーム信号のダイアログノーマライゼーションレベルを表します。

- 本機が情報を正しく表示できない場合は、「− − −」と表示されます。
- 次世代オーディオフォーマットでは、独立したサラウンドバック左 / 右チャンネル信号を含まずに、192kHz のサンプリングレートでエンコードされている場合があります。
- ビットストリーム信号をそのまま出力するように設定していても、再生機器によってはドルビーTrueHD やドルビーデジタルプラス信号がドルビーデジタル信号に変換されたり、DTS-HD マスターオーディオや DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ信号が DTS 信号に変換されたりすることがあります。

ビデオ信号

映像信号の方式や解像度などの情報を表示します。

HDMI 信号	映像入力信号と、HDMI OUT 端子から出力している映像信号を表します。
HDMI 解像度	入力信号（アナログまたは HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度を表します。
アナログ解像度	映像入力信号と、本機の MONITOR OUT 端子から出力されるアナログ映像信号の解像度を表します。
HDMI エラー	HDMI 信号や HDMI 機器に関するエラー時に、メッセージを表示します。（☞p.121）

HDMI モニタ

HDMI OUT 1-2 端子に接続しているテレビの情報を表示します。

インターフェース	HDMI 接続しているテレビのインターフェースを表示します。
ビデオ解像度	HDMI 接続しているテレビのビデオ解像度を表示します。

ネットワーク

ネットワークに関する情報を表示します。

IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイ	現在の IP アドレスを表示します。
DNS サーバー（P）／ DNS サーバー（S）	プライマリー／セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを表示します。
MAC アドレス	設定されている MAC アドレスフィルターを表示します。
ステータス	本機のネットワークステータスを表示します。

■ システム

本機のシステム情報を表示します。

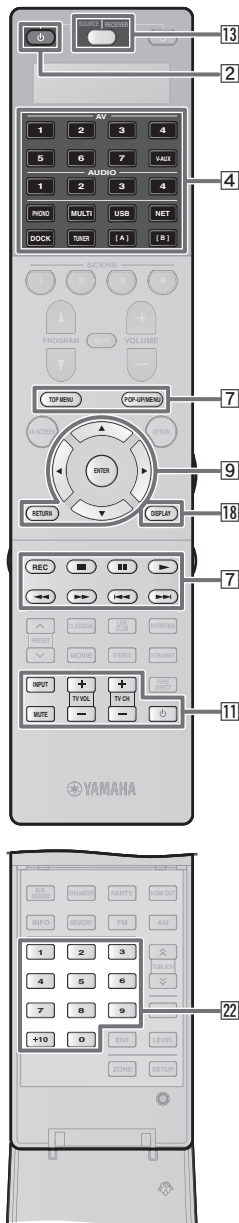
リモート ID	本機に設定しているリモコン ID 番号を表示します。
TV フォーマット	本機が対応している映像規格を表示します。
システム ID	本機のシステム ID を表示します。
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアのバージョンを表示します。

ネットワークから最新のファームウェアが検出されると
- 情報メニューのアイコンに「！」が表示されます。
- 情報メニューの「システム」にメッセージが表示されます。

この場合は、アドバンスドセットアップの「FIRM UPDATE」から、最新のファームウェアにアップデートを行ってください。

■ ゾーン

ゾーンの設定を表示します。

入力	ゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4 に設定している入力ソースを表示します。
音量	ゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4 の音量を表示します。

本機のリモコンでさまざまな機器を操作する

外部機器操作用のコード（リモコンコード）を登録すれば、本機のリモコンでテレビや DVD プレーヤーなどの外部機器を操作できます。
リモコンコードは入力ソースごとに登録できます。個別に設定しておけば、選択した入力ソースに応じて操作可能な機器がスムーズに切り替わります。

本機の操作可能時には⑬**SOURCE/RECEIVER**がオレンジ色に点灯し、外部機器の操作可能時には緑に点灯します。

リモコンをカスタマイズする

リモコン設定モードでは、リモコンをカスタマイズすることができます。

設定モード	内容
SETUP	設定モードのトップ項目です。
LEARN	学習モードです。他の機器のリモコンからプログラムコードを学習させます（☞p.108）。
PRESET	プリセットモードです。各操作エリアのリモコンコードを変更します（☞p.107）。
RENAME	名称変更モードです。各操作エリアの名称を変更します（☞p.109）。
MACRO	マクロプログラムモードです。マクロプログラムを設定します（☞p.110）。
CLEAR	初期化モードです。本機の設定を初期化します（☞p.111）。
ERASE	消去モードです。各ボタンに学習させた機能を消去します（☞p.111）。
EX-IR	拡張 IR コードモードです。カスタムインストール時にのみ使用します。

外部機器を操作するキー

次のキーは、外部機器側に対応するキーがあるときにのみ動作します。

②SOURCE ⏻
外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

⑦外部機器操作キー
外部機器の録画 / 再生などの操作や、メニュー表示キーとして動作します。

⑨カーソル、⑨ENTER、⑨RETURN
外部機器のメニュー操作などをします。

⑪TV 操作キー ☞2

⑪INPUT	テレビの映像入力を切り替えます。
⑪MUTE	テレビの音量を一時的に消音します。
⑪TV VOL +/–	テレビの音量を操作します。
⑪TV CH +/–	テレビのチャンネルを変更します。
⑪⏻	テレビの電源オン / オフを操作します。

⑱DISPLAY
外部機器のディスプレイ表示などを切り替えます。

㉒数字キー
外部機器用の数字キーとして動作します。

リモコンコード設定

工場出荷時には、下表のようにリモコンコードが割り当てられています。また、入力ソースごとに、新たにリモコンコードを登録することもできます。登録するリモコンコードについては、**「リモコンコード一覧」**（☞p.112）をご覧ください。

入力ソース	初期設定		
	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
AV1	BD プレーヤー／レコーダー	Yamaha	2064
AUDIO2	CD プレーヤー	Yamaha	5095

工場出荷時、以下の入力ソースにはリモコンコードは割り当てられていません。
AV2-7、V-AUX、AUDIO1、3、4、USB、NET、MULTI、DOCK、TUNER、PHONO、[A]/[B] ☞1

ご注意
- 上記のリモコンコードを設定しても、ヤマハ製の機器を操作できない場合は、別のヤマハリモコンコードをお試しください。
- 正しいリモコンコードを設定しても外部機器を操作できないときは、他のリモコンコードを設定すると操作できる場合があります（☞p.108）。

☞1：[A]/[B] は、外部機器の操作のみにお使いください。本機の入力ソースと関係なく外部機器（テレビなど）の操作にリモコンを使用したい場合は、このキーにリモコンコードを設定してください。

☞2：テレビのリモコンコードを ④**入力ソース選択キー**に登録した場合は、⑦**TOP MENU**、⑦**POP-UP/MENU**、⑨**カーソル**、⑪**TV 操作キー**、⑱**DISPLAY**、㉒**数字キー**を使って登録したテレビを操作できます。
テレビ以外の外部機器のリモコンコードを ④**入力ソース選択キー**に登録した場合は、テレビのリモコンコードを ⑪⏻ に登録すると、⑪**TV 操作キー**を使って登録したテレビを操作できます。

■ 外部機器操作用リモコンコードの登録

ここでは、例として AV2 端子に接続した BD プレーヤー用に、リモコンコード「2064」を登録する操作を説明します。

- 次の手順はそれぞれ 30 秒以内に操作してください。操作せずに 30 秒以上経過すると、設定が自動で中止されます。その場合は、手順 2 からやり直してください。
- ご使用の外部機器の名称や型番からリモコンコードを設定することはできません。**「リモコンコード一覧」**（☞p.112）を使って、外部機器のカテゴリーとメーカーから、使用可能なリモコンコードを検索してください。
- 複数のリモコンコードがある場合は、まずリストの先頭にあるコードを設定し、うまく動作しない場合は以降のコードを試してください。
- 外部機器側のリモコン ID が「ID1」に設定されていることをご確認ください。他の ID に変更されている場合、正常にリモコンコードが設定されていても動作しません。
- 赤外線受光部のない機器は、本機のリモコンで操作できません。

1 **「リモコンコード一覧」（☞p.112）で、ご使用になる外部機器のカテゴリーとメーカーから使用可能なリモコンコードを探す。**

2 **㉘SETUP を押す。**

リモコンディスプレイに「SETUP」と表示されます。

3 **⑨カーソル △ / ▽ を何度か押して「PRESET」を選択し、⑨ENTER を押す。💡1**

プリセットモードに入ります。「PRESET」と、選択中の操作エリアが交互に表示されます。

4 **④AV2 を押して入力ソースを AV2 に切り替え、⑨ENTER を押す。💡2**

現在設定されているコードが表示されます。

5 **㉒数字キーを押してリモコンコード「2064」を入力する。**

⑨カーソル△ / ▽ / ◁ / ▷でも入力できます。

2 → 0 → 6 → 4

6 **⑨ENTER を押して確定する。**

設定が完了すると、「OK」と表示されます。

「NG」と表示された場合は設定は完了していませんので、手順3からやり直してください。

続けて別のエリアの設定を行いたい場合は、手順 3 から 6 を繰り返します。

7 **㉘SETUP をもう一度押して設定メニューを終了する。**

お使いの機器に 2 つ以上のコードが設定されており操作ができない場合は、正しいコードが見つかるまで上記の操作をお試しください。

ご注意

- 上記の手順で指示されていないボタンを押すか、同時に２つ以上のボタンを押すと「ERROR」と表示されます。
- 付属のリモコンは、ヤマハ製品を含むすべての AV 機器に対応しているとは限りません。リモコンコードでの操作ができない場合は、学習機能（☞p.108）で新しい機能をプログラムするか、機器に付属のリモコンをお使いください。
- 学習モードでプログラムされた機能は、リモコンコードの機能より優先されます。

■ シーン機能に連動したBDプレーヤーを切り替える

1 **⑤SCENE と ④AV2 を同時に約 3 秒以上押し続けます。**

設定が完了すると、「OK」と表示されます。

OK

以降は、入力ソースを AV2 に切り替えるか、登録シーンで AV2 を選択するだけで BD プレーヤーが操作できます。

他の外部機器の場合は、⑤**SCENE** と「外部機器操作用リモコンコードの登録」の手順 3 で選択した入力ソースキーを同時に約3秒以上押し続けます。

💡**1：** リモコン設定では、 ⑨**ENTER** と同様に ㉒**ENT** も使用できます。

💡**2：** 入力ソースではないテレビを ⑪**TV 操作キー**で操作する場合は、手順 4 で ⑪⏻ を押してテレビのリモコンコードを入力してください。入力ソースに関わらず、⑪**TV 操作キー**でテレビを操作できるようになります。

設定する

リモコン学習機能

本機のリモコンは他の機器のリモコンの操作を学習することができます。リモコンコードを登録後にボタンが機能しなくなった場合、または目的の機能に対応するリモコンコードが存在しない場合に、この機能をお使いください。

- 次の手順はそれぞれ 30 秒以内に操作してください。操作せずに 30 秒以上経過すると、設定が自動で中止されます。その場合は、手順 1 からやり直してください。
- 学習に最適なのは、赤外線を使用しているリモコンです。特殊な信号の場合、本機のリモコンが認識しない場合があります。
- 本機の動作状況によっては、学習させた機能が実行されない場合があります。

1 ㉘**SETUP** を押す。

「SETUP」と表示されます。

2 ⑨カーソル △ / ▽ を何度か押して「LEARN」を選択し、⑨ENTER を押す。

3 リモコンキーに割り当てたい操作モード（SOURCE、RECEIVER、テレビモード）を選ぶ。

- SOURCE モードを選ぶ
  ④**入力ソース選択キー**を押して SOURCE モードに入ります。このモードでは、選択した入力ソースでの操作を割り当てることができます。
- RECEIVER モード
  ⑫**RECEIVER** ⏻ を押して RECEIVER モードに入ります。このモードでは、外部アンプでの操作を割り当てることができます。
- テレビモード
  ⑪⏻ を押してテレビモードに入ります。このモードでは、テレビでの操作を割り当てることができます。

ご注意

RECEIVER モードでリモコン機能を割り当てた場合は、リモコンで本機を操作することはできなくなります。

機能を割り当てることのできるキーは、以下のとおりです。

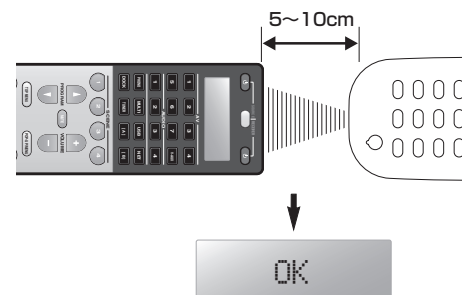
モード	キー
SOURCE	②**SOURCE** ⏻、 ⑦**外部機器操作キー**、 ⑨**カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷ などの外部機器操作キー
RECEIVER	⑦**外部機器操作キー**、 ⑨**カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷、 ㉒**数字キー**などの本機を操作するキー
テレビ ☝1	⑪**TV 操作キー**

4 平らな場所に、赤外線送信部が向かい合うようにして、本機のリモコンを他の機器のリモコンから 5 ～ 10cm 離して置く。その状態で ⑨**ENTER** を押す。

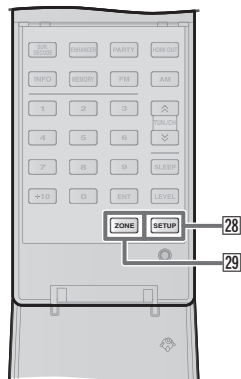
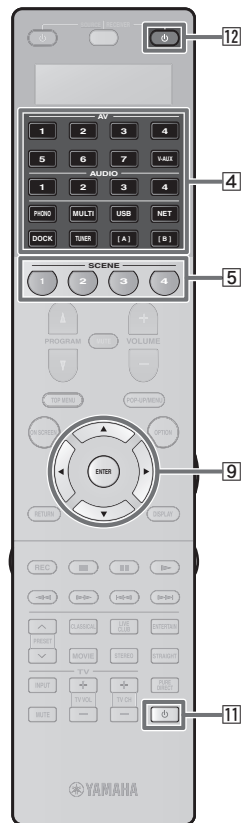
「PRES KEY」と表示されます。

5 機能を割り当てたいキーを押す。

6 他の機器のリモコンの、学習させたい操作のキーを「OK」と表示されるまで押し続ける。

「NG」と表示された場合は学習が完了していませんので、手順3からやり直してください。

別の機能を割り当てる場合は、手順 3 から 6 を繰り返してください。

次ページにつづく

☝ **1**：テレビモードで ⑪**TV 操作キー**を設定すると、いつでもテレビ操作ができるようになります。
SOURCE モードで ⑪**TV 操作キー**を設定すると、入力ソース選択時に SOURCE モードで指定したテレビを操作できるようになります。

7 28**SETUP** **を押して設定メニューを終了する。**

ご注意

- 手順で指示されていないボタンを押すか、同時に 2 つ以上のボタンを押すと「ERROR」と表示されます。
- 本機のリモコンは約 200 の機能を学習できます。ただし、学習された信号の種類によっては、200 になる前に「FULL」と表示されることがあります。この場合は、不要な機能を消去してください（☞p.111）。
- 以下の場合、学習はできません。
  - 本機または他の機器のリモコンの電池が少なくなっている場合
  - リモコンが直射日光に当たっている場合
  - 学習させようとしている機能が連続的なもの、または一般的でないものの場合

ソース名を変更する

リモコンディスプレイに表示される操作エリア（入力ソース）の名称を変更できます。

1 28**SETUP を押す。**

「SETUP」と表示されます。

2 9**カーソル △ / ▽ を何度か押して「RENAME」を選び、**9**ENTER を押す。**

3 4**入力ソース選択キーまたは** 5**SCENE を押して目的の操作エリアを選ぶ。**

4 **名称を編集する。**

9**カーソル ◁ / ▷** でカーソルを移動し、9**カーソル △ / ▽** で文字を選びます。

9**カーソル** △ を押すと、以下の順で文字種が切り替わります。9**カーソル** ▽ を押すと逆の順で切り替わります。
A-Z、a-z、0-9、スペース、記号（-、+、/、:）

5 9**ENTER を押して新しい名称を確定する。**

設定が完了すると、「OK」と表示されます。

- 別の操作エリアの名称を変更する場合は、4**入力ソース選択キー**で目的のエリアを選び、9**ENTER** を押して、手順 4 から 5 を繰り返します。
- レシーバーのエリア名称を変更するには、12**RECEIVER** ⏻ を押します。
- テレビのエリア名称を変更するには、11⏻ を押します。
- シーンのエリア名称を変更するには、5**SCENE** を押します。各ゾーンにおけるシーンのエリア名称を変更する場合は、手順 1 の前に 29**ZONE** を押してゾーンを選びます。

6 28**SETUP をもう一度押して設定メニューを終了する。**

ご注意

上記の手順で指示されていないボタンを押すか、同時に 2 つ以上のボタンを押すと「ERROR」と表示されます。

設定する

マクロ機能

マクロ機能により、一連の操作（入力ソース選択→再生機器の起動→操作キーを押す、など）を 1 つのキーを押すことで行うことが可能です。マクロ機能により、1 つのキーを押すことでこのような操作ができるようになります。
下記のキーには、工場出荷時よりマクロが登録されています。お好みのマクロをキーに登録することもできます。

キー	マクロ実行に必要な操作		
	1	2	
RECEIVER⏻	本機の電源を入れる	–	
AV1-7		入力ソースを切り替える	AV1-7
V-AUX			V-AUX
AUDIO1-4			AUDIO1-4
PHONO			PHONO
MULTI			MULTI
USB			USB
NET			NET
DOCK			DOCK
TUNER			TUNER
[A]/[B]		–	

■ マクロを実行する

1 **[28]SETUP を押す。**
「SETUP」と表示されます。

2 **[9]カーソル △ / ▽ を何度か押して「MACRO」を選び、[9]ENTER を押す。**

MACRO

3 **[9]カーソル △ / ▽ を何度か押して「ON」を選び、[9]ENTER を押す。**
目的の操作のマクロキー（**[12]RECEIVER ⏻** または **[4]入力ソース選択キー**）を押します。

マクロ操作モードを終了するには、**[9]カーソル △ / ▽** を押して「OFF」を選び、**[9]ENTER** を押します。

ご注意
- マクロ実行中（送信ランプ点滅時）は、他の操作はできません。
- マクロが完了するまで、リモコンを本機に向けておいてください。

■ マクロを登録する

お好みのマクロを登録することができます。マクロを登録する前に、リモコンコードの設定または学習を行う必要があります。
ここでは、アンプの電源をオン→入力ソースを「AV2」に設定→ DVD プレーヤーの電源をオン→テレビの電源をオンにする一連の操作をマクロ登録する手順を紹介しています。

ご注意
音量調整のような連続した操作は、マクロに登録しないでください。

1 **[28]SETUP を押す。**
「SETUP」と表示されます。

2 **[9]カーソル △ / ▽ を何度か押して「MACRO」を選び、[9]ENTER を押す。**

3 **[9]カーソル △ / ▽ を何度か押して「EDIT」を選び、[9]ENTER を押す。**

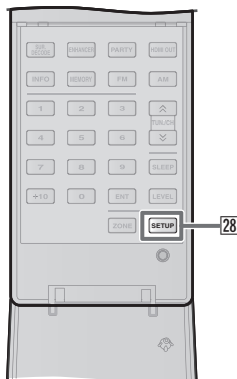
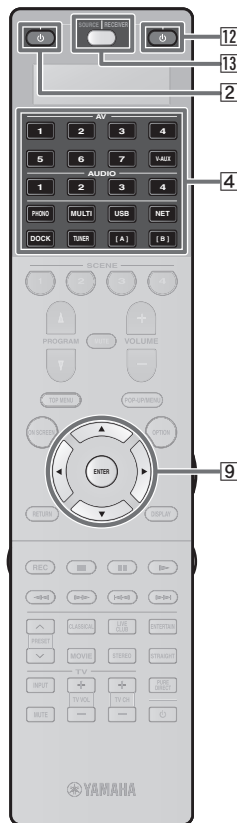
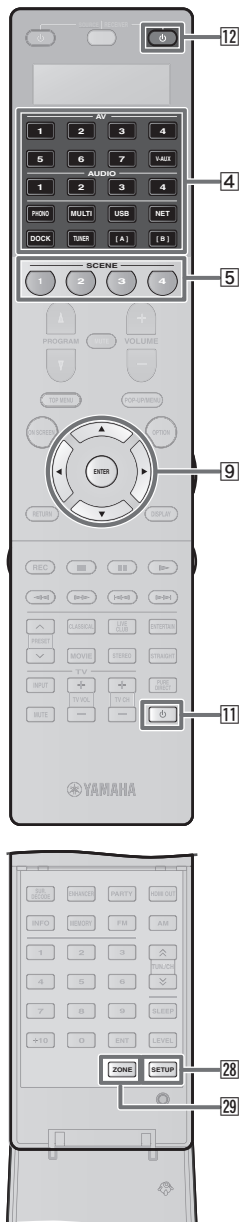
4 **マクロを登録したいマクロキー（[12]RECEIVER ⏻ または [4]入力ソース選択キー）を押す。**

5 **マクロに含めたい操作に必要なキーを押す。**
[13]SOURCE/RECEIVER を押して操作する機器を切り替えます。

例：
①（マクロ 1）： **[4]AV2** を押す
②（マクロ 2） MACRO2とAV2が交互に表示されるまで **[13]SOURCE/RECEIVER** を何度か押して、**[2]SOURCE ⏻** を押す。
③（マクロ 3） [11]⏻ を押す。

6 **[9]ENTER を約 3 秒以上押し続け、登録する。**
10 操作まで登録できます。10 個登録すると、「FULL」と表示されます。

7 **[28]SETUP をもう一度押して設定メニューを終了する。**

ご注意
同時に 2 つ以上のボタンを押すと「ERROR」と表示されます。

設定を初期化する

学習した機能、マクロ、表示名の変更、リモコン IDの設定などを初期化します。

■ 機能の設定を初期化する

1 **㉘SETUP を押す。**
「SETUP」と表示されます。

2 **⑨カーソル △ / ▽ を何度か押して「CLEAR」を選び、⑨ENTER を押す。**

3 **⑨カーソル △ / ▽ を何度か押して初期化したい操作を選び、⑨ENTER を押す。**
以下のモードに割り当てられている機能が初期化されます。

> 操作モード
> LEARN、PRESET、RENAME、MACRO、RESET

4 **④入力ソース選択キー、⑫RECEIVER ⏻、⑪⏻ のいずれかを押して、初期化したいモードを選ぶ。💡1**

- ここでモードを選択しない場合、全モードの操作が初期化されます。
- 上記以外のキーは、以下の操作モードで使用されています。
  - RENAME：⑤**SCENE** 💡**2**
  - MACRO：マクロキー（⑫**RECEIVER** ⏻ または ④**入力ソース選択キー**）

5 **⑨ENTER を約 3 秒以上押し続ける。**
初期化が完了すると、「OK」と表示されます。

ご注意
- 「NG」と表示された場合は初期化は完了していません。
- 上記の手順で指示されていないボタンを押すか、同時に２つ以上のボタンを押すと「ERROR」と表示されます。

6 **㉘SETUP をもう一度押して設定メニューを終了する。**

■ 各キーに登録した操作を初期化する

1 **㉘SETUP を押す。**
「SETUP」と表示されます。

2 **⑨カーソル △ / ▽ を何度か押して「ERASE」を選び、⑨ENTER を押す。**

3 **④入力ソース選択キー、⑫RECEIVER ⏻、⑪⏻ のいずれかを押して、キーの操作を初期化したいモードを選ぶ。**

4 **⑨ENTER を押す。**
「PRES KEY」と表示されます。

5 **初期化したいキーを約 3 秒以上押し続ける。**
初期化が完了すると、「OK」と表示されます。

- 他のキーも初期化する場合は、手順3から5を繰り返します。
- 学習した機能を初期化すると、そのキーは工場出荷時の状態に戻ります。（リモコンコードが登録されている場合は、その機器メーカーの設定に戻ります。）

6 **㉘SETUP をもう一度押して設定メニューを終了する。**

ご注意
- 「NG」と表示された場合は初期化は完了していません。
- 同時に２つ以上のボタンを押すと「ERROR」と表示されます。

💡**1：**「RESET」を選択すると、すべての設定が初期化されます。手順２で「RESET」を選択した場合は、手順４でモードを選ぶことはできません。
💡**2：**各ゾーンで変更した名称を初期化するには、手順１の前に ㉙**ZONE** を押してゾーンを選びます。

リモコンコード一覧

テレビ（プロジェクターを含む）

Aiwa 0078, 0379
Epson 0155, 0206, 0359
Fujitsu 0059, 0069, 0074, 0075, 0282
Funai 0051, 0058, 0059, 0112, 0113, 0115, 0118, 0119, 0179, 0337
Hitachi 0008, 0012, 0026, 0066, 0084, 0092, 0093, 0120, 0172, 0173, 0255, 0270, 0271, 0282, 0320, 0335, 0338, 0342, 0344, 0346, 0347, 0365, 0382, 0448, 0456, 0467
LG 0031, 0053, 0066, 0116, 0117, 0140, 0161, 0164, 0175, 0195, 0269, 0277, 0282, 0300, 0309, 0317, 0320, 0323, 0328, 0342, 0343, 0346, 0349, 0350, 0366, 0368, 0377, 0466, 0471, 0478
Mitsubishi 0008, 0026, 0031, 0053, 0066, 0084, 0093, 0098, 0150, 0178, 0289, 0320, 0339, 0344, 0350, 0376
Orion 0043, 0146, 0283, 0320, 0323, 0328, 0343, 0349, 0350
Panasonic 0016, 0017, 0020, 0022, 0023, 0035, 0052, 0056, 0084, 0085, 0133, 0163, 0193, 0284, 0286, 0290, 0292, 0320, 0325, 0347, 0356
Philips 0267, 0296, 0299, 0301, 0303, 0305, 0313, 0319, 0452, 0459, 0460
Pioneer 0008, 0026, 0094, 0095, 0161, 0320, 0345, 0347, 0349, 0350, 0458
Samsung 0004, 0005, 0006, 0007, 0008, 0012, 0026, 0031, 0036, 0050, 0053, 0076, 0077, 0079, 0114, 0124, 0125, 0126, 0127, 0139, 0161, 0183, 0185, 0190, 0191, 0258, 0264, 0277, 0282, 0320, 0323, 0334, 0337, 0342, 0343, 0349, 0350, 0351, 0373, 0453, 0468
Sanyo 0008, 0019, 0068, 0070, 0071, 0099, 0161, 0168, 0223, 0237, 0277, 0282, 0288, 0295, 0323, 0342, 0344, 0369, 0469
Sharp 0000, 0001, 0002, 0003, 0007, 0008, 0012, 0026, 0060, 0088, 0089, 0091, 0138, 0165, 0170, 0178, 0198, 0229, 0262, 0278, 0279, 0291, 0308, 0312, 0336, 0344, 0354, 0370, 0449, 0450, 0451, 0464, 0474, 0476
Sony 0038, 0044, 0045, 0047, 0055, 0104, 0105, 0107, 0110, 0123, 0184, 0220, 0248, 0249, 0251, 0252, 0254, 0326, 0343, 0344, 0371, 0374, 0457, 0475
Toshiba 0018, 0019, 0040, 0041, 0046, 0073, 0100, 0103, 0108, 0109, 0111, 0121, 0132, 0166, 0208, 0210, 0214, 0217, 0260, 0268, 0282, 0283, 0293, 0304, 0306, 0307, 0329, 0344, 0355, 0454
Victor 0012, 0014, 0015, 0056, 0064, 0065, 0067, 0169, 0174, 0297, 0314, 0344, 0350, 0375
Yamaha 0008, 0026, 0050, 0053, 0080, 0081, 0082, 0083, 0086, 0087

VTR

Aiwa 1024, 1026, 1027, 1069
Funai 1026, 1069
Hitachi 1011, 1026, 1027, 1028, 1046, 1062
LG 1010, 1026, 1031, 1047, 1054, 1056, 1071, 1103, 1221
Mitsubishi 1026, 1028, 1079
NEC 1027, 1064, 1065
Orion 1023, 1024, 1051, 1115, 1217
Panasonic 1000, 1022, 1044, 1055, 1068, 1072, 1085, 1090, 1091, 1120, 1121, 1214
Pioneer 1028, 1036
Samsung 1002, 1034, 1041, 1043, 1057, 1060, 1070, 1084, 1110, 1116, 1122, 1124, 1220, 1222
Sanyo 1032, 1065, 1070
Sharp 1003, 1033, 1077, 1107, 1127, 1219
Sony 1001, 1016, 1048, 1053, 1073, 1074, 1080, 1081, 1082, 1083, 1108, 1118, 1216
Toshiba 1004, 1016, 1027, 1028, 1037, 1049, 1052, 1086, 1087, 1097, 1109, 1112, 1194
Victor 1007, 1018, 1027, 1039, 1064, 1065, 1066, 1067, 1078, 1089, 1092, 1093, 1094, 1095, 1113, 1208, 1209, 1212, 1213, 1215, 1218
Yamaha 1064, 1065

DVD プレーヤー

Denon 2059, 2151, 2193, 2332
Funai 2137
Hitachi 2062, 2090, 2115, 2274, 2282, 2316, 2359, 2380
Kenwood 2041, 2151, 2348
LG 2002, 2033, 2038, 2057, 2129, 2133, 2189, 2191, 2223, 2238, 2270, 2288, 2335, 2373, 2375
Marantz 2328
Onkyo 2159, 2368
Panasonic 2011, 2024, 2034, 2042, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2151, 2159, 2164, 2166, 2167, 2172, 2173, 2175, 2209, 2214, 2275, 2277, 2278, 2281, 2282, 2283, 2301, 2374, 2470
Pioneer 2016, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109, 2157, 2180, 2190, 2212, 2269, 2272, 2299, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2344, 2345, 2347, 2379
Samsung 2000, 2045, 2077, 2112, 2113, 2114, 2115, 2151, 2200, 2216, 2219, 2228, 2264, 2265, 2271, 2279, 2294, 2303, 2329, 2365
Sanyo 2134, 2145, 2217, 2292
Sharp 2006, 2040, 2088, 2091, 2182, 2194, 2220, 2221, 2231, 2236, 2293, 2340
Sony 2004, 2005, 2007, 2009, 2014, 2015, 2023, 2026, 2027, 2052, 2068, 2069, 2070, 2071, 2074, 2075, 2084, 2085, 2087, 2168, 2171, 2208, 2210, 2211, 2258, 2273, 2284, 2285, 2312, 2313, 2314, 2315, 2318, 2319, 2466
Teac 2149, 2333, 2355, 2383
Toshiba 2032, 2036, 2037, 2039, 2048, 2049, 2054, 2055, 2072, 2073, 2076, 2078, 2079, 2086, 2145, 2159, 2218, 2233, 2256, 2259, 2296, 2369
Victor 2020, 2096, 2097, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2106, 2107, 2160, 2257, 2260, 2262, 2263, 2321, 2324, 2326, 2327, 2343, 2464, 2465, 2468, 2469, 2471
Yamaha 2056, 2064, 2065, 2080, 2081, 2082, 2083, 2089, 2118, 2151, 2323

Blu-ray プレーヤー / レコーダー

Denon 2452, 2500, 2501
Hitachi 2460, 2461, 2463
LG 2033, 2456, 2457
Marantz 2454, 2455
Mitsubishi 2450, 2451
Onkyo 2504
Panasonic 2011, 2209, 2214, 2476, 2477, 2479
Philips 2510
Pioneer 2212, 2506
Samsung 2045, 2113, 2498
Sharp 2194, 2220, 2221, 2497, 2502, 2503
Sony 2075, 2453, 2458, 2459, 2507
Toshiba 2462
Victor 2472, 2473, 2475, 2478, 2496, 2499
Yamaha 2064, 2448, 2449, 2474, 2505

DVD レコーダー

Hitachi 2062, 2090
LG 2033, 2057, 2223, 2238
Panasonic 2011, 2034, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2117, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123
Pioneer 2016, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109
Samsung 2000, 2112, 2113, 2216, 2219
Sanyo 2217
Sharp 2088, 2091
Sony 2004, 2005, 2007, 2052, 2068, 2069, 2074, 2084, 2085, 2087, 2208, 2210, 2211
Toshiba 2032, 2036, 2037, 2039, 2049, 2054, 2055, 2076, 2086
Victor 2100, 2101, 2106, 2107
Yamaha 2056

ケーブルテレビチューナー

Panasonic 3112, 3118, 3122
Pioneer 3001, 3006, 3094, 3098, 3114, 3116, 3120
Samsung 3069, 3089, 3114, 3120
Sony 3092, 3125
Toshiba 3122

衛星放送チューナー

Hitachi 4006, 4114, 4199, 4203
Humax 4025, 4030, 4060, 4097
Mitsubishi 4006, 4015, 4202
Panasonic 4006, 4035, 4036, 4121, 4124, 4126, 4198, 4221
Pioneer 4046, 4213
Samsung 4000, 4001, 4003, 4032, 4064, 4069, 4071, 4120, 4123, 4196, 4200
Sony 4067, 4070, 4213
Toshiba 4194, 4202, 4203
Victor 4029, 4065, 4089, 4117

CD プレーヤー

Yamaha 5082, 5095

CD レコーダー

Yamaha 5083

MD プレーヤー

Yamaha 5080, 5081, 5086

テープデッキ

Yamaha 5084, 5087

チューナー

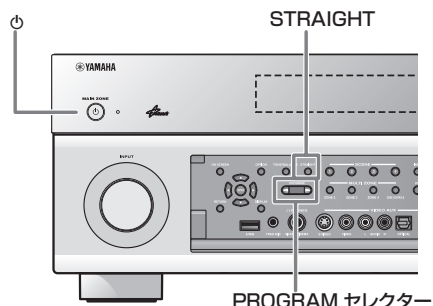
Yamaha 5066, 5071, 5085, 5088, 5090, 5092, 5094

本機の基本設定 / 初期化（アドバンスドセットアップメニュー）

アドバンスドセットアップメニューでは、本機の基本設定や、ユーザー設定の初期化を行うことができます。
アドバンスドセットアップメニューは次の方法で操作できます。

アドバンスドセットアップメニューの表示 / 設定

1 **本機の電源をスタンバイにする。**
本機の電源が ON の場合、⏻ を押して本機をスタンバイの状態にしてください。

2 **フロントパネルの STRAIGHT を押しながら ⏻ を押す。**
フロントパネルディスプレイに「ADVANCED SETUP」と表示されたら両方のキーから手を離してください。しばらくすると、先頭のメニュー項目が表示されます。

3 **PROGRAM ◁ / ▷ を使って、次の中から設定したい項目を選ぶ。**
アドバンスドセットアップメニューでは次の機能を設定できます。

REMOTE SENSOR	リモコンセンサーの受信可 / 不可を切り替えます。
REMOTE CON AMP	本機のリモコン ID を変更します。
TV FORMAT	テレビの信号方式に合わせて、本機の MONITOR OUT 端子、および HDMI OUT 端子から出力される壁紙の信号方式を切り替えます。
MONITOR CHECK	HDMI 映像出力の制限を解除します。
RECOV./BACKUP	本機の設定の保存 / 復元を行います。
INITIALIZE	本機の各種設定を初期化します。
FIRM UPDATE	本機のファームウェアを更新します。
VERSION	現在のファームウェアのバージョンを確認します。

4 **STRAIGHT を何度か押して設定値を選ぶ。**

5 **電源をスタンバイにしてから、再度電源をオンにする。**
選んだ設定が反映され、本機の電源がオンになります。初期化を選択した場合は、再度電源をオンにすると初期化が実行されます。

リモートセンサーを設定する

REMOTE SENSOR
ON

本機のフロントパネルがリモコンからの信号を受信するかどうかを設定します。

ON（初期設定）	リモコンからの信号を受信します。
OFF	リモコンからの信号を受信しません。

通常時は、この設定は「ON」にしておいてください。

受信するリモコン ID を変更する

REMOTE CON AMP
ID1

本機のリモコンは、ID（リモコン ID）が一致するレシーバーでのみ受信できます。ヤマハ製 AV レシーバーを複数使用する場合は、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないようにリモコン ID を設定します。各レシーバーを同じリモコン ID に設定すれば、1 つのリモコンで 2 台のレシーバーを操作することも可能です。

ID1（初期設定）	ID1 に設定されたリモコンの操作を受信します。
ID2	ID2 に設定されたリモコンの操作を受信します。

工場出荷時には、リモコン側、レシーバー側ともに ID1 に設定されています。リモコンの混信を防ぎたい場合は、レシーバー / リモコン共にリモコン ID を変更してください。

● リモコン側の ID を変更するには

次の手順はそれぞれ 30 秒以内に操作してください。最後に操作してから 30 秒以上経過すると、設定が自動で中止されます。再度設定する場合は、手順 1 からやり直してください。

1 ㉘**SETUP** を押す。

2 ⑨**カーソル △ / ▽** を使って「プリセット」を選び、⑨**ENTER** を押す。

3 ⑫**RECEIVER ⏻** を押して、⑨**ENTER** を押す。

4 希望するリモコン ID に応じてコードを入力する。

リモコン ID1 に切り替える場合：
㉒**数字キー**または ⑨**カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷** を使って「5019」と入力します。

リモコン ID2 に切り替える場合：
㉒**数字キー**または ⑨**カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷** を使って「5020」と入力します。

5 ⑨**ENTER** を押して、設定を完了する。

設定に成功すると「OK」、失敗すると「NG」が表示されます。

失敗した場合は手順４からやり直してください。

6 ㉘**SETUP** を押してメニューを終了する。

リモコンコードを初期化すると、ID1 に戻ります (☞p.111)。

本機の映像フォーマットの変更

```
TV FORMAT
NTSC
```

お使いのテレビに合わせて、本機の MONITOR OUT 端子およびHDMI OUT端子から出力される壁紙の信号方式を PAL か NTSC（初期設定）に切り替えます。

HDMI 映像出力の制限解除

```
MONITOR CHECK
YES
```

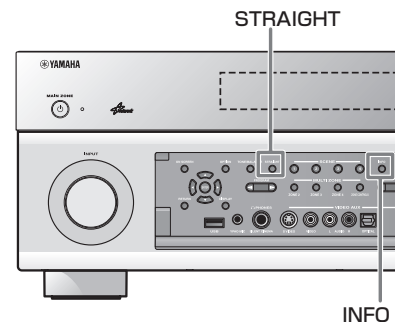
本機とテレビを HDMI 接続した際、アナログ映像を解像度変換（アップスケーリング）して出力する際の制限を解除します。
アップスケーリングの設定をするときやテレビ側が対応する解像度が検出されないときは、この設定で出力制限を解除してください。

YES （初期設定）	テレビ側が対応しない解像度の映像は出力しません。
SKIP	テレビ側の対応可否にかかわらず、本機に入力された映像をテレビに出力します。

システム設定の復元とバックアップ

```
RECOV./BACKUP
BACKUP
```

本機の設定を保存／復元します。

1 フロントパネルのSTRAIGHTを何度か押して「BACKUP」または「RECOVERY」を選び、フロントパネルの INFO を押す。

RECOVERY	保存されている設定を呼び出します。
BACKUP	現在の設定を保存します。

2 INFO を押し、「BACKUP」または「RECOVERY」を実行する。

設定が保存されていない場合は、「RECOVERY」を選択することはできません。

各種設定の初期化

INITIALIZE
CANCEL

本機に記憶されている設定情報を初期化し、工場出荷時に戻します。

初期化する内容は下記から選択できます。

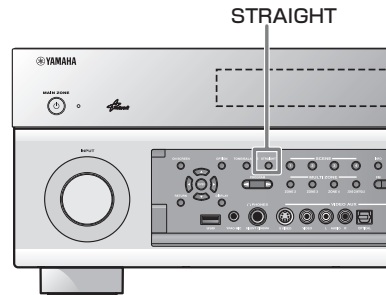
DSP PARAM	サウンドプログラムのすべての設定を初期化します。
VIDEO	アップスケーリングの設定（解像度 / アスペクト比）やテレビ画面のメニューの表示位置を初期化します。
NETWORK	IP アドレスや v チューナーのアカウントなど、ネットワークの設定を初期化します。
ALL	すべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。
CANCEL（初期設定）	初期化しません。

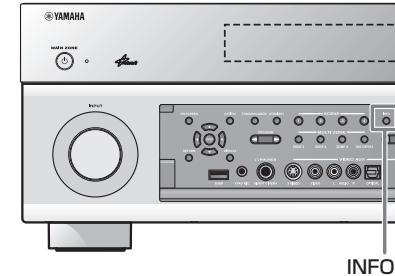
ファームウェアの更新

FIRM UPDATE
USB

本機のファームウェアを更新します。詳しくは更新時に提供される情報をご参照ください。

ネットワーク経由で最新のファームウェアが検出されると、ファームウェア発行のメッセージが情報メニューの「システム」に表示されます。（☞p.105）

1 フロントパネルの STRAIGHT を何度か押して「USB」または「NETWORK」を選ぶ。

USB（初期設定）	USB メモリでファームウェアを更新します。
NETWORK	ネットワークからファームウェアを更新します。

2 INFO を押し、選択した方法で更新を開始する。

- ファームウェア更新の目的以外では、この機能を使用しないでください。
- 更新前に、提供される情報を必ずご確認ください。

ファームウェアのバージョン

VERSION
XX.XXX

現在インストールされているファームウェアのバージョンを確認します。

最新ファームウェアについて

最新のファームウェアでは、機能が追加されたり不具合が改善されたりしていることがあります。

- 最新ファームウェアは、ヤマハ株式会社ウェブサイトからダウンロードしてください。
- ネットワーク環境に接続している場合は、ON SCREEN メニュー、または情報メニューの「システム」に、最新ファームウェアについてのお知らせが表示されます。

マルチゾーン機能を使って複数の部屋で音楽を楽しむ

マルチゾーン音声システムの設定をします。マルチゾーン機能を使えば、メインゾーンとゾーン 2、3、4 で別の入力ソースを再生することができます。また、付属のリモコンでゾーン2またはゾーン 3 からメインルームにある本機を操作することも可能です。

別の部屋で音楽を楽しむ

別の部屋（ゾーン 2 およびゾーン 3）へは、アナログ音声信号のみを送信できます。ゾーン 2 およびゾーン 3 で音声を出力するには、外部機器を AV1-4、AUDIO1-4、VIDEO AUX のアナログ端子で接続してください。例えばゾーン 2 で HDMI 対応の DVD プレイヤーから音声を出力したい場合は、HDMI とアナログ音声端子の両方を使って本機とプレイヤーを接続する必要があります。

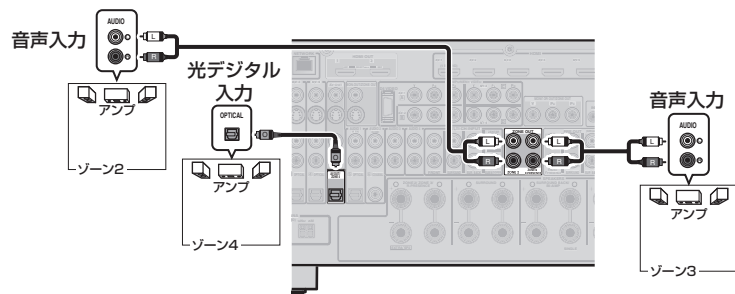
「デジタル出力割り当て」を「ゾーン 4」に設定すると、デジタル音声信号はゾーン 4 に送られます（☞p.98）。音声をゾーン 4 より出力したい場合は、外部機器を AV1-4、AUDIO1-4、V-AUX のいずれかにデジタル接続してください。

■ マルチゾーン接続をする

本機のマルチゾーン機能を使用するには、次の機器が必要になります。

- ゾーン 2/ ゾーン 3 で使用する赤外線受信機。
- メインゾーンで使用する赤外線送信機。ゾーン 2/ ゾーン 3 でリモコン操作をした際に、赤外線受信機を経由してメインルームの赤外線送信機から信号が発信し、ゾーン 2/ ゾーン 3 にいながらメインルームの CD、DVD プレイヤーを操作できます。
- ゾーン 2/ ゾーン 3 で使用する外部アンプやスピーカー。
- ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 で使用するテレビ。

外部アンプを使用する

次のように接続した外部アンプをゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 に設置します。

予期しない雑音を避けるために、DTS にエンコードした CD などを複数のゾーンで再生しないでください。

本機の内蔵アンプを使用する

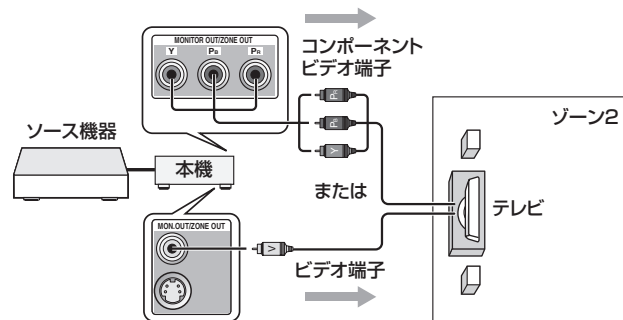
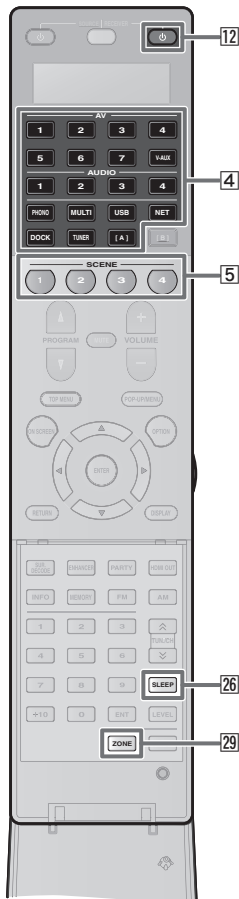
EXTRA SP 端子と、ゾーン 2/ ゾーン 3 で使用するスピーカーを直接接続します（☞p.20）。

別の部屋のテレビ画面から本機を操作する

映像の出力先を変更すれば、別の部屋にあるテレビの画面から本機を操作することができます。

■ テレビを接続する

MONITOR OUT/ZONE OUTのコンポジットまたはコンポーネント端子とゾーン2/ゾーン3/ゾーン 4 のテレビを接続し、ゾーン 2 の選択した入力ソースの映像を出力することができます。ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 へは、アナログ入力の映像のみ出力されます。HDMI 入力の映像は出力されません。

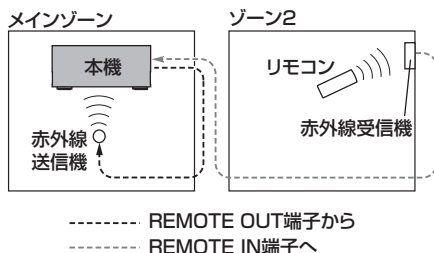
MONITOR OUT/ZONE OUT 端子をメインゾーンおよびゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 に割り当てるには、「モニター出力割り当て」を設定します（☞p.98）。

「モニター出力割り当て」を「ゾーン 2」または「ゾーン 3」に設定すると、設定中のゾーンで選択している入力ソースのコンテンツ画面およびオプションメニューをそのゾーンにあるテレビ画面に表示できます。
ゾーン 4 では、外部機器から入力された映像信号のみがテレビ画面に表示されます。

ゾーン 2、ゾーン 3 のオンスクリーンディスプレイ

「モニター出力割り当て」が「ゾーン 2」または「ゾーン 3」に設定されていると、オンスクリーンディスプレイがそのゾーンのテレビ画面に表示されます。
ゾーン 2 およびゾーン 3 のオンスクリーンディスプレイは、メインゾーンとは利用できる機能が異なります。
ゾーン 2 およびゾーン 3 で利用できる機能は、下記のとおりです。

- コンテンツ画面（再生画面 / ブラウズ画面）
- オプションメニューの「トーンコントロール」、「音量バランス」、「リピート」**1**、「再生」**1**

別の部屋からリモコンで本機を操作する

本機には、2 つの REMOTE IN と REMOTE OUT 端子が搭載されています。これらの端子を使えば、リモコンを使ってゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 から本機や外部機器を操作することができます（☞p.36）。

いくつかのヤマハ製機器は、本機の REMOTE 端子で接続することができます。これらの機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。下記のように REMOTE 端子を使って、最大６個までヤマハ製機器を接続することができます。

マルチゾーンを操作する

本機のリモコンを使って、次のようにマルチゾーンの機器を選択したり操作することができます。

- ゾーン2/ゾーン3/ゾーン4の入力ソースを選ぶ。
- ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 の入力ソースが「TUNER」のときは、FMまたはAMの選局をする。
- 外部アンプを経由して接続しているゾーン2/ゾーン 3/ ゾーン 4 機器の音量を調節する。

マルチゾーン操作モードを有効にする

マルチゾーンの機器をリモコンで操作する前に、29**ZONE**を押して操作するゾーンに設定してください。

マルチゾーンを操作する

ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 への音声出力を有効 / 無効にするには

12**RECEIVER** ⏻ を押す。

ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 の入力ソースを切り替えるには

4**入力ソース選択キー**を押す。

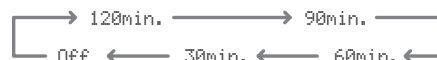
ゾーンごとの使用可能ソースは以下のとおりです。
ゾーン 2/ ゾーン 3：
AV1-4（アナログ入力のみ）、V-AUX（アナログ音声入力のみ）、AUDIO1-4（アナログ入力のみ）、PHONO、USB、NET、DOCK、TUNER
ゾーン 4：
AV1-4（同軸 / 光デジタル入力のみ）、V-AUX（光デジタル入力のみ）、AUDIO1-2（同軸 / 光デジタル入力のみ）

ゾーン2/ゾーン3/ゾーン4でシーン機能を使うには

5**SCENE** を 3 秒以上押し続けて、現在の設定をシーンに登録します。
登録した設定を読み込むには、5**SCENE** を押してください。

ゾーンごとのシーンに登録可能な設定は以下のとおりです。
ゾーン 2/ ゾーン 3：
入力選択、マスターボリューム、トーンコントロール
ゾーン 4：入力選択

ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 のスリープタイマーを有効にするには

スリープタイマーで設定した時間が経過すると、ゾーン 2 ／ゾーン 3 ／ゾーン 4 機器は自動的にスタンバイモードに切り替わります。26**SLEEP** を繰り返し押してスリープタイマーを設定してください。

マルチゾーンの高音／低音を調整する（トーンコントロール）

1 フロントパネルの ZONE CONTROLS を押す。

2 フロントパネルの TONE/BALANCE を何度か押して「Treble」または「Bass」を選ぶ。

3 PROGRAM ◁ / ▷ を押して、対応する周波数域の出力レベルを調整する。

キーから手を離すと、1 つ前の画面に戻ります。

調整範囲	-10.0dB ～ 10.0dB
単位	2.0dB

1：DOCK/PC/USB 選択中のみ表示されます。

設定する

■ マルチゾーンのフロントスピーカーバランスを調整する

1 フロントパネルのZONE CONTROLSを押す。

2 フロントパネルの TONE/BALANCE を何度か押して「Balance」を選ぶ。

3 PROGRAM ◁ / ▷ を押して、バランスを調整する。

キーから手を離すと、1 つ前の画面に戻ります。

■ 別の部屋のテレビから機能を設定する

「モニター出力割り当て」が「ゾーン 2」または「ゾーン 3」に設定されていると、そのゾーンでオプションメニューから以下の項目を設定できます。

- トーンコントロール
- リピート再生 / シャッフル再生(DOCK/PC/USB 選択時のみ)

ゾーン 2/ ゾーン 3 のオプションメニューは、メインゾーンのオプションメニュー操作と同じように操作できます（☞p.56）。

すべての部屋で音楽を楽しむ

メインゾーンで再生中の音楽を同時に別のゾーンでも楽しむことができます。ホームパーティーなどでバックグラウンドミュージックを利用するときなどに便利です。パーティーモードを使うためには、「パーティーモード設定」を「有効」に設定します（☞p.98）。

㉓PARTY を押して、パーティーモードをオン / オフする

本機のフロントパネルディスプレイやテレビ画面に「Party Mode On」や「パーティーモード オン」または「Party Mode Off」や「パーティーモード オフ」と表示されます。パーティーモード中は、フロントパネルディスプレイの PARTY インジケーターが点灯します。

- ZONE2 OUT または ZONE3 OUT 端子から出力される音声信号は、2 チャンネルのステレオ音声にダウンミックスされます。
- パーティーモードは、メインゾーンの電源がオンのときのみ「オン」にできます。
- メインゾーンの電源をオフにすると、パーティーモードもオフになります。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。
対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源をオンにできない	3 回続けて保護回路が作動した。	3 回続けて保護回路が動作すると、製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。	—
電源をオンにしてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを AC コンセントにしっかりと差し込んでください。	—
	（再度電源をオンにしたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき）スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	簡易ガイド
電源をオフにできない、または本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
	リモコンにセットした電池が切れている。	すべての電池を新品に変えてください。	簡易ガイド
フロントパネルディスプレイに残り時間が表示され、スタンバイになる	操作しない状態が長時間続いたためオートパワーダウン機能が作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	—
		設定メニューの「タイマー」（ファンクション設定 → オートパワーダウン → タイマー）を表示して、設定を「オフ」にしてください。	100
使用中に突然電源がスタンバイになる	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していないか確認し、電源をオンにしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	再生機器のケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	32、簡易ガイド
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	簡易ガイド
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続し、著作権保護（HDCP）エラーが発生していないことを確認してください。	—
	（スタンバイスルー機能をオンにしている場合） HDMI のオーディオ出力がテレビにのみ出力されるよう設定されている。	設定メニューの HDMI オーディオ出力設定（HDMI 設定 → 音声出力）を、「アンプ」以外に設定してください。	96
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	**入力ソース選択キー**で、再生したいソースを正しく選んでください。	47
	CD-ROM など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号を再生してください。	—
映像が出ない	HDMI OUT1-2 端子に接続したテレビが対応していない映像信号を出力している。	アドバンスドセットアップメニューを表示させ、「INITIALIZE」の項目から「VIDEO」を選んで映像の設定を初期化してください。	115
		アドバンスドセットアップメニューの「MONITOR CHECK」が「YES」に設定されているかご確認ください。	114
	テレビで適切な映像入力が選ばれていない。	テレビを操作して適切な映像入力を選択してください。	—
	テレビを接続しているHDMI OUT 端子からの出力が有効になっていない。	**HDMI OUT キー**を繰り返し押して、接続している HDMI OUT 端子を有効にしてください。	47

症状	原因	対策	参照ページ
特定のスピーカーから音が出ない	スピーカーが故障している。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認し、該当するスピーカーチャンネルが点灯している場合は、他のスピーカーを接続して、音が出るか確認してください。音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。	13
	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	32、簡易ガイド
	該当スピーカーから音声信号が出力されない設定になっている。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認してください。該当するチャンネルが消灯している場合は以下の項目をご確認ください。 1) 他の入力ソースに切り替えて試してみてください。 2) 選択中のサウンドプログラムでは、該当スピーカーから音声は出力されません。他のサウンドプログラムを選択してみてください。 3) 本機側で、該当するスピーカーがなし（無）に設定されている可能性があります。設定メニューのスピーカー設定を表示して、該当するスピーカー（スピーカー設定 → 構成）を有効にしてください。	13、89
	設定メニューの「スピーカー設定」で、該当するスピーカーの音量が最小になっている。	設定メニューのスピーカー設定を表示して、スピーカーの音量（スピーカー設定 → 音量）を調節してください。	91
	（片側のチャンネルの音声がほとんど出ない場合）スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	設定メニューの「音量」（スピーカー設定 → 手動設定 → 音量）で、各スピーカーの音量バランスを設定し直してください。	91
	再生するソースやサウンドプログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。	他のサウンドプログラムを選択してみてください。	49
センタースピーカーからのみ音声が出る	モノラルの再生ソースにサウンドプログラムをかけた場合、使用するサラウンドデコーダーによっては、すべての音声がセンタースピーカーから出力されることがある。	他のサウンドプログラムを選択してみてください。	49

症状	原因	対策	参照ページ
フロントおよびリアプレゼンススピーカーから音声が出ない	ストレートデコードモードがオンになっている。 オーディオ入力信号にサラウンドチャンネルがない。	**STRAIGHT** を押して、ストレートデコードモードをオフにしてください。	50
	再生するソースやサウンドプログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。（故障ではありません）	他のサウンドプログラムを選択してみてください。	49
サラウンドスピーカーから音声が出ない	再生するソースやサウンドプログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。（故障ではありません）	他のサウンドプログラムを選択してみてください。	49
サラウンドバックスピーカーから音が出ない	オプションメニューの拡張サラウンドの設定が「オフ」になっている。または拡張サラウンドの設定が「自動判別」の状態で、入力されている信号にサラウンドバックの信号が含まれていない。	拡張サラウンドの設定を、「オフ」および「自動判別」以外に設定してみてください。	59
	CINEMA DSP 3D モードまたは CINEMA DSP³ モードで再生しているときは、サラウンドバックスピーカーからは音声は出ません。		—
サブウーファーから音声が出ない	サブウーファーが接続されていない、または無効に設定されている。	サブウーファーが接続されていることを確認し、設定メニューの「サブウーファー」または「サブウーファー 2」（スピーカー設定 → 手動設定 → 構成 → サブウーファー 1/ サブウーファー 2）の設定が「使用する」になっていることを確認してください。	90
	サブウーファーの電源がオフになっている。	サブウーファーの電源をオンにしてください。サブウーファーにオートパワーオフ機能がある場合は、パワーオフになる感度を下げるか無効に設定してください。	—
	再生しているソースに LFE（☞p.127）や低音信号が含まれていない。		—
聴きたいデジタル音声フォーマットで音声が再生されない	再生機器側で、聴きたいデジタル音声フォーマットが出力されない設定になっている。	再生機器の取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	—
「ジー」、「ブーン」などの雑音が入る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	—
	DTS-CD を再生している。	ノイズだけが再生される場合： DTS のビットストリームが本機に正しく入力されていない場合は、ノイズだけが再生されます。 本機と再生機器をデジタル接続して再生してください。症状が解消しない場合は、再生機器側に問題がある可能性があります。再生機器のメーカーにお問い合わせください。	—
		再生 / スキップ操作時にノイズが発生する場合： DTS-CD を再生する際、入力ソース選択後に入力選択メニューを表示して「デコードモード」を「DTS」に設定してください。	79
音量を上げられない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AV アンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
	「音量の上限」が小さい音量に設定されている。	大きい音量に設定し直してください。	93

HDMI™

症状	原因	対策	参照ページ
フロントパネルディスプレイの HDMI インジケーターが点滅している	HDMI 接続に問題が発生している。	HDMI ケーブルを差し直してみてください。	—
		映像設定（情報メニュー → ビデオ信号）で本機が対応していない HDMI 映像が入力されていないか確認してください。	104
音声や映像が出ない	制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—
（HDMI コントロール機能使用時）テレビのリモコンを操作時、テレビの音声が本機より出力されない	テレビの音声出力が本機に接続されていない。またはテレビ側の設定と合っていない。	テレビの音声出力を本機に接続し、「TV 音声入力」で接続した入力ソースを選んでください。 （設定メニュー → HDMI 設定 → TV 音声入力）	96
	（オーディオリターンチャンネル機能使用時） オーディオリターンチャンネル機能が作動していない。	テレビがオーディオリターンチャンネル機能に対応しているか確認してください。「ARC（オーディオリターンチャンネル）」をオンにしてください。 （設定メニュー → HDMI 設定 → ARC （オーディオリターンチャンネル））	96

付録

FM/AM 放送の受信

FM

症状	原因	対策	参照ページ
ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	簡易ガイド
		屋外アンテナを接続してください。	—
		屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		モノラルで受信してください。	63
FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを接続してください。	—
		屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		手動で選局してください。	61
“No Presets”と表示される	プリセット放送局が登録されていない。	お好みの FM/AM 放送局をプリセット局として登録してから操作してください。	61
“Wrong Station”と表示される	無効な FM/AM 周波数を入力した。	FM/AM 放送局で有効な範囲の周波数を入力してください。	—

AM

症状	原因	対策	参照ページ
自動で選局できない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	—
		屋外アンテナを接続してください。屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。	—
		手動で選局してください。	61
オートプリセットができない	AM 放送局はオートプリセットができない。	マニュアルプリセットをしてください。	61
「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	ループアンテナが接続されていない。	AM ループアンテナを接続してください。接続しても改善されない場合は屋外アンテナを接続してください。	簡易ガイド
	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	—
“No Presets”と表示される	プリセット放送局が登録されていない。	お好みの FM/AM 放送局をプリセット局として登録してから操作してください。	61
“Wrong Station”と表示される	無効な FM/AM 周波数を入力した。	FM/AM 放送局で有効な範囲の周波数を入力してください。	—

USB/ ネットワーク

症状	原因	対策	参照ページ
「No Device」と表示され、USB デバイスが認識されない。	違法なデバイスと認識されている。	本機の電源をオフにして、オンにし直してください。	—
USB デバイスの音楽ファイルとディレクトリが表示されない。	音楽ファイルとディレクトリが FAT エリア以外のところにある。	音楽ファイルとディレクトリを FAT エリアに置いてください。	—
	8 つ以上のディレクトリの階層、あるいは 500 以上のファイルがあるディレクトリを見ようとしている。	USB デバイスのファイル構成を変更してください。	—
パソコンサーバー／インターネットラジオが正しく動かない。	IP アドレスが正しく設定されていない。	ルータの DHCP サーバー機能をオンにし、現在の操作環境に合わせて交互に手動設定を行ってください。	97
	ネットワークケーブルが接続されていない。	正しく接続してください。	37

症状	原因	対策	参照ページ
パソコンサーバーの音楽が再生されない。	パソコンに Windows Media Player がインストールされていない。	パソコンに Windows Media Player をインストールしてください。	—
	音楽が本機で再生できないフォーマットで録音されている。本機では WMA、MP3、MPEG-4 AAC、FLAC、WAV（PCM フォーマット）以外のフォーマットでは再生できません。また、WMA、MP3、MPEG-4 AAC、FLAC、WAV フォーマットで録音されていても再生できない場合があります。	本機が対応しているフォーマットで録音されている音楽を再生してください。	—
インターネットラジオが再生されない。	ネットワーク機器のファイアウォールが作動している。インターネットラジオは、各局指定のポートからのみ再生できます。ポート番号はラジオ局によって異なります。	ネットワーク機器のファイアウォール設定を確認してください。	—
	インターネットに接続されていない。	ネットワーク機器の設定を確認し、お使いのプロバイダにお問い合わせください。	—

表示	内容	対策	参照ページ
Connect error	ネットワークから本機への信号経路に問題がある。	本機と、ルータまたはハブの LAN ポート間の接続を確認してください。	37
		ルータが正しく接続されており電源がオンになっていることを確認してください。また、モデムが正しく接続されており電源がオンになっていることも確認してください。	37
Disconnected	USB デバイスが、本機の USB ポートから外れている。	本機と、USB デバイス間の接続を確認してください。	—
	以前本機に接続されていたパソコンサーバーが存在しない。	本機を、利用可能なサーバーに接続してください。	37

表示	内容	対策	参照ページ
No Device	USB デバイスから本機への信号経路に問題がある。	本機の電源をオフにして、USB デバイスを本機の USB ポートにもう一度接続してください。	38
		USB デバイスをリセットしてください。	—
Access error	USB デバイスにアクセスできない。	他の USB デバイスを再生してみてください。	—
	USB デバイスから本機への信号経路に問題がある。	本機の電源をオフにして、USB デバイスを本機の USB ポートにもう一度接続してください。	38
		USB デバイスをリセットしてください。	—
Access denied	パソコンが接続を拒否している。	Windows Media Player11 または 12 の共有設定を確認し、本機を音楽コンテンツの共有デバイスとして選択してください。	64
Unable to play	パソコンに保存されている曲が再生できない。	Windows Media Player がパソコンにインストールされていることを確認してください。	—
		パソコンに保存されている曲が再生可能か確認してください（MP3、WMA、MPEG-4 AAC、WAV）。	—
		再生可能な音楽ファイル（MP3、WMA、MPEG-4 AAC、WAV）をパソコンに保存してください。	—
	ネットワークに負荷がかかりすぎて再生に影響している可能性がある。	通常のネットワークとは別に、本機専用のネットワークをご使用ください。	—
List update	パソコンサーバーのコンテンツリストがアップデートされた。		—
Bookmark On	お好みのインターネットラジオ局がお気に入りリストに追加された。		—
Bookmark Off	登録済みのインターネットラジオ局がお気に入りリストから削除された。		—
USB Overloaded	接続中の USB デバイスに過電流が流れている。	本機の電源を切って USB デバイスを外してください。それでもメッセージが表示される場合、本機がその USB デバイスに対応していない可能性があります。	—

付録

iPod/iPhone

表示	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPod/iPhone との接続を確認中、または情報を取得中です。		—
Connect error	iPod/iPhone との通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックを接続し直してください。	70
		iPod/iPhone をヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックにセットし直してください。	70
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod/iPhone が接続されています。	本機に対応した iPod を接続してください。	—
iPod connected	iPod/iPhone がヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックに正しく接続されました。		—
Disconnected	iPod/iPhone がヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックから取りはずされました。		—
Unable to play	何らかの原因で iPod/iPhone を再生できません。	iPod/iPhone に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	—

Bluetooth

表示	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器をペアリングしています。		—
	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続を確立しています。		—
Completed	ペアリングが完了しました。		—
Canceled	ペアリングが中止されました。		—
BT connected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が確立しました。		—
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が切断されました。		—
Not found	Bluetooth 機器が見つかりませんでした。	（ペアリング時） – ペアリングは、本機と Bluetooth 機器で同時にする必要があります。Bluetooth 機器側もペアリングモードになっているか確認してください。 （接続時） – Bluetooth 機器の電源がオンになっているか確認してください。 – ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の距離が 10 メートル以上離れていないか確認してください。	—
	Bluetooth 機器と本機がペアリングされていない可能性があります。	再度ペアリングしてください。	74

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機をリモコンで操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、リモコン受光部の正面から左右 30°以内の範囲で操作してください。	—
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）があたっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	簡易ガイド
	リモコン側と本体側のリモコン ID が一致していない。	コードまたはリモコン ID の設定を変えてください。	106、113
リモコンの電池がすぐ切れる	電力が不足している	アルカリ電池に交換してください。	—
外部機器をリモコンで操作できない	リモコンコードが正しく設定されていない。	「リモコンコード一覧」をご覧になり、正しく設定してください。	107、112
		「リモコンコード一覧」をご覧になり、同じメーカーの別のコードを設定してください。	107、112
		カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ などのリモコンキーが動作しない場合は、下記の操作をしてみてください。 DVD のディスクメニューなどで操作できない場合： **入力ソース選択キー**を使ってもう一度入力ソースを選択してから操作してください。 オプションメニュー /ON SCREEN メニューで操作できない場合： **SOURCE/RECEIVER** を押して（オレンジに点灯）、もう一度リモコンを操作してください。	—
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合がある。		—

音声に関する用語

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

リップシンク（Lip sync）

HDMI がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動で補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動で検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、BS/ 地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で 7 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機は AAC デコーダーを搭載しているため、BS/ 地上波デジタルチューナーで受信した番組の 5.1 チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント 3 チャンネル（フロント L/R、センター）と、サラウンド 2 チャンネル（サラウンド L/R）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されます。
サラウンド 2 チャンネルがステレオで収録されているため、Dolby Surround と比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の 5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から 5.1 チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

Dolby Digital Surround EX

本機は 5.1 チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて 6.1 チャンネル再生を可能にする、Dolby Digital Surround EX ソフト対応の Dolby Digital EX デコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンド左とサラウンド右チャンネルから作られます）。
Dolby Digital Surround EX で録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

Dolby Digital Plus

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスクや、デジタルテレビ放送向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート 6Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。

Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II はドルビープロロジックを改良した方式で、Dolby Surround 方式のソフトに多く採用されています。2 チャンネルで記録された音声信号を処理し、優れた分離感を保ったまま 5.1 チャンネル音声に変換します。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。
従来の 2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

Dolby Pro Logic IIx

ドルビープロロジックの技術です。2 チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声信号も処理し、自然な 7.1 チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用の Movie モード（2 チャンネル音声入力時のみ）、音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby TrueHD

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、96kHz/24bit 時には最大 8 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 18Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は DVD ビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来の DTS デコーダーとも互換性があるため、DTS 96/24 に対応していない機器では、通常の DTS サラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の 96kHz（従来の 48kHz から倍増）、「24」は量子化ビット数 24 ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVD ビデオの音楽や映画音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができます。

DTS デジタルサラウンド

DTS デジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる 5.1 チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用している DTS システムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の 6 チャンネル（フロント L/R、センター、サラウンド L/R チャンネル、サブウーファー用 LFE0.1 チャンネルを加えた 5.1 チャンネル）で構成されています。

DTS Express

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワークストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

DTS-HD High Resolution Audio
ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

DTS-HD Master Audio
ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DTS Neo:6
2 チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた 6 チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用の Music モードと、映画用の Cinema モードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）
SACD（スーパーオーディオ CD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数 2822.4kHz で記録することにより、CD などで使われている PCM よりも高音質で再生できます。周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。本機では、HDMI 端子から入力された DSD 信号の再生が可能です。

FLAC (Free Lossless Audio Codec)
音声圧縮方式の一つで、可逆圧縮方式を採用しています。圧縮率では非可逆圧縮方式フォーマットには劣るものの、原音からの質の劣化がないため、高品質の音声を楽しめます。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル
音声成分の帯域が 20 ～ 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用の 5 チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

MP3
MPEG で利用される音声圧縮方式の一つです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC
MPEG-4 オーディオ規格の 1 つで、MPEG-2 AAC より低いビットレートでデータを圧縮できることから、携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高品質が求められる機器にも利用されています。また、上記の機器以外にもインターネット上のコンテンツ配信など、パソコンやメディアサーバーなどでも多く利用されている規格です。

PCM（リニア PCM）
MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

WAV
Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は非圧縮（PCM）のデータが使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）
Microsoft 社が開発した音声圧縮方式です。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並の音質を保ったまま約 1/20 に圧縮できると言われています。

サウンドプログラムに関する用語

コンプレストミュージック・エンハンサーモード
MP3 や AAC など、携帯音楽プレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

サイレントシネマ
ヘッドホンでマルチスピーカーによるサウンドプログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
サウンドプログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれるサウンドプログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）
Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックや Dolby Digital、DTS のシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

シネマ DSP 3D
音場の高さ方向の情報を含んだ、実際に測定された音場データです。CINEMA DSP 3D モードでは、より緻密で立体的な３ D 感覚の音場をリスニングルームに再現します。

バーチャルシネマ DSP
サラウンド L/R スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド L/R スピーカーの音場を再現することで、サウンドプログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント L/R スピーカーだけで、バーチャルシネマ DSP をお楽しみいただけます。

映像に関する用語

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号（青色差信号）および Pr/Cr 信号（赤色差信号）の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているため、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、または D 端子のあるテレビを本機に接続してください。

コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビの NTSC 信号などが採用しています。

D 端子

AV 機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、性能に応じてランクが D1 から D5 に分けられています。D 端子では、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、1 本の専用ケーブルで接続できます。
本機には D4 ビデオ端子が装備されており、D1 から D4 の規格に対応しています。

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。

S ビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

x.v.Color

HDMI 1.3 以上がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画や CG で高い効果が得られます。

映像信号変換表

本機では、入力されたアナログ映像信号を HDMI 映像信号に変換して出力することができます。また、入力された HDMI 映像信号を別の解像度の HDMI 映像信号に変換して出力することもできます。
「アナログ端子間変換」を「オン」にしている場合は、入力されたアナログ映像信号を別の信号方式に変換して出力することができます（☞p.94）。
変換可能な映像信号と解像度は次の表のとおりです。

○：変換可能

		HDMI 出力					コンポーネントビデオ出力 /D4 ビデオ出力				S ビデオ出力	ビデオ出力
	解像度	480i/576i	480p/576p	720p	1080i	1080p	480i/576i	480p/576p	720p	1080i	480i/576i	480i/576i
HDMI 入力	480i/576i	○	○	○	○	○						
	480p/576p		○	○	○	○						
	720p		○	○	○	○						
	1080i		○	○	○	○						
	1080p		○	○	○	○						
コンポーネントビデオ入力 /D4 ビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○				○	○
	480p/576p		○	○	○	○		○				
	720p		○	○	○	○			○			
	1080i		○	○	○	○				○		
S ビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○				○	○
ビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○				○	○

HDMI について

● 音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192 kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
DSD	2/5.1ch、2.8224MHz、1bit	SACD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	ブルーレイディスク、HD DVD

- 再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声入力端子（OPTICAL または COAXIAL 端子）を使って音声入力すれば、音声解説を楽しめます。
- 再生機器で音声解説をデコードし、本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

- お使いのDVDプレーヤーによっては、コピープロテクトがかかったDVDオーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機はHDCP非対応のHDMIまたはDVI端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器または DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイディスクなどの音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

● 映像信号について

以下の解像度に対応しています。

- 480i ／ 60Hz
- 480p ／ 60Hz
- 576i ／ 50Hz
- 576p ／ 50Hz
- 720p ／ 60Hz、50Hz
- 1080i ／ 60Hz、50Hz
- 1080p ／ 60Hz、50Hz、24Hz

商標について

DOLBY
TRUEHD

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 、ドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS および記号は DTS 社の登録商標です。また、DTS-HD、DTS-HD Master Audio、および DTS ロゴは DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアを含みます。
著作権 DTS 社。不許複製。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239	5848391	5 297 236
5,285,498	5,299,240	5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170	5 400 433	07/640,550
5,781,888	5,264,846	5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189	5 752 225	98/03037
5,703,999	5,581,654	5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574	5,274,740	98/03036
5,299,238	08/506,729				

iPod™/iPhone™

iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。
iPhone は、Apple Inc. の商標または登録商標です。

Fraunhofer Institut
Integrierte Schaltungen

MPEG Layer 3 音声圧縮技術は Fraunhofer IIS および Thomson によってライセンス供与されています。

Network

本機はネットワーク接続に対応しています。

Bluetooth®

Bluetoothは､Bluetooth SIGの登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

SILENT ™
CINEMA

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows Media Audio、Windows Media Connect、Windows Media player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

主な仕様

● 入力端子

- アナログ音声
  RCA 入力 ....10（AV1-4、AUDIO1-4、PHONO、VIDEO AUX）
  マルチチャンネル入力（MULTI CH INPUT）........8 チャンネル
  - フロント L/R（FRONT L/R）
  - センター（CENTER）
  - サラウンド L/R（SURROUND L/R）
  - サラウンドバック L/R（SURROUND BACK L/R）
  - サブウーファー（SUBWOOFER）

- デジタル音声
  光（OPTICAL）........4（AV3-4、AUDIO1、VIDEO AUX）
  同軸（COAXIAL）........3（AV1-2、AUDIO2）

- アナログ映像
  コンポジットビデオ ....5（AV1-4、VIDEO AUX）
  S ビデオ ....5（AV1-4、VIDEO AUX）
  コンポーネントビデオ（COMPONENT VIDEO）........4（AV1-4）
  D4 ビデオ（D4 VIDEO）........1（AV1）

- その他
  DOCK ....1（ステレオ音声、コンポジットビデオ、S ビデオ）

● 出力端子

- アナログ音声
  スピーカー出力（SPEAKERS）........11 チャンネル（7 チャンネル+エクストラ 4 チャンネル）
  - フロント L/R（FRONT L/R）
  - センター（CENTER）
  - サラウンド L/R（SURROUND L/R）
  - サラウンドバック／バイアンプ L/R
    (SURROUND BACK/BI-AMP L/R)
  - ゾーン 2 ／ゾーン 3 ／フロントプレゼンス L/R
    (EXTRA SP1：ZONE2/ZONE3/F.PRESENCE L/R)
  - ゾーン 2 ／ゾーン 3 ／リアプレゼンス L/R
    (EXTRA SP2：ZONE2/ZONE3/R.PRESENCE L/R)
  プリアウト（PRE OUT）........11 チャンネル
  - フロント／フロントプレゼンス L/R（FRONT/F.PRESENCE L/R）
  - センター（CENTER）
  - サラウンド L/R（SURROUND L/R）
  - サラウンドバック L/R（SURROUND BACK L/R）
  - リアプレゼンス L/R（R.PRESENCE L/R）※**1**
  - サブウーファー（ステレオ、フロント＆リア）（SUBWOOFER1-2）
  AV 出力（AV OUT）........1
  ゾーン出力（ZONE OUT）........2（ZONE2、ZONE3 ※**2**）
  ※**1：**ゾーン 3 出力に切り替え可能
  ※**2：**リアプレゼンス出力に切り替え可能

- 光デジタル音声
  AV 出力／ゾーン 4 出力（AV OUT/ZONE4 OUT）........1

- アナログ映像
  モニター出力／ゾーン出力（MONITOR OUT/ZONE OUT）
    コンポジットビデオ 1
    S ビデオ 1
    コンポーネントビデオ 1
  AV 出力（AV OUT）
    コンポジットビデオ 1
    S ビデオ 1

● HDMI

- 入力........8（AV1-7、VIDEO AUX）
- 出力........2（HDMI OUT1-2）
- HDMI 規格 ....HDMI 規格準拠（バージョン 1.4）
  Deep Color 30/36bit
  x.v.Color
  Auto Lips Sync.
  HD Audio
  ARC（オーディオリターンチャンネル）
  3D
- 音声フォーマット
  Dolby Digital
  DTS
  DSD（6 チャンネル）
  Dolby Digital Plus
  Dolby TrueHD
  DTS-HD
  PCM（2 ～ 8 チャンネル）
  AAC
- 著作権保護........HDCP 規格準拠

● チューナー

• アナログチューナー
FM/AM .... 1（TUNER）

● ネットワーク

• USB（USB1.1 フルスピード）........ 1
デバイスタイプ .... USB Mass Storage Class、MTP
音声フォーマット .... MP3、WMA、WAV、MPEG-4 AAC、FLAC
対応サンプリング周波数 48kHz/24bit
画像フォーマット .... PNG、JPEG

• イーサネット（100Base-TX/10Base-TX）........ 1
インターネットラジオ
- 音声フォーマット .... MP3、WMA
PC サーバー
- 音声フォーマット .... MP3、WMA、WAV、MPEG-4 AAC、FLAC
- 対応サンプリング周波数 96kHz/24bit
- 画像フォーマット .... PNG、JPEG
DLNA
- バージョン .... 1.5（DMP/DMR 対応）
- 音声フォーマット .... MP3、WMA、WAV、MPEG-4 AAC、FLAC
- 対応サンプリング周波数 96kHz/24bit
- 画像フォーマット .... PNG、JPEG
ネットワーク制御
- Web Browser Control
- MusicCAST2 Commander Support
- Yamaha Network Control Support（YNC）
- Receiver Manager Support

● リモート端子

• RS-232C 1

• リモート入力（REMOTE IN）........ 2

• リモート出力（REMOTE OUT）........ 2

• トリガー出力（TRIGGER OUT）........ 2（12V/ 最大計 100mA）

● 対応デコードフォーマット

• デコードフォーマット
Dolby TrueHD
Dolby Digital Plus
Dolby Digital
Dolby Digital EX
DTS-HD Master Audio
DTS-HD High Resolution
DTS Express
DTS
DTS-ES Matrix 6.1
DTS-ES Discrete 6.1
DTS 96/24
AAC

• ポストデコードフォーマット
Dolby Pro Logic
Dolby Pro Logic II Music
Dolby Pro Logic II Movie
Dolby Pro Logic II Game
Dolby Pro Logic IIx Music
Dolby Pro Logic IIx Movie
Dolby Pro Logic IIx Game
DTS Neo:6 Music
DTS Neo:6 Cinema

● オーディオ部

• 定格出力（20Hz ～ 20kHz、0.06% THD、6Ω）
フロント L/R .... 140W ＋ 140W
センター 140W
サラウンド L/R .... 140W ＋ 140W
サラウンドバック L/R .... 140W ＋ 140W

• 実用最大出力（非同時駆動、JEITA、1kHz、10% THD、6Ω）
フロント L/R .... 185W ＋ 185W
センター 185W
サラウンド L/R .... 185W ＋ 185W
サラウンドバック L/R .... 185W ＋ 185W

• ダンピングファクター
フロント L/R（1kHz、8Ω）........ 150 以上

• 入力感度／入力インピーダンス
PHONO（MM）........ 3.5mV/47kΩ
AUDIO2 他........ 200mV/47kΩ
MULTI CH INPUT........ 200mV/47kΩ

• 最大許容入力
PHONO（MM）（1kHz、0.1% THD）........ 60mV 以上
AUDIO2 他（1kHz、0.5% THD）........ 2.4V 以上

• 出力電圧／出力インピーダンス
AV OUT........ 200mV/1.2kΩ
PHONES........ 150mV/100Ω
PRE OUT 1.0V/1.2kΩ
ZONE2 OUT........ 1.0V/1.2kΩ
ZONE3/R.PRESENCE OUT........ 1.0V/1.2kΩ

• 周波数特性
AUDIO2 他（ピュアダイレクト）→ フロント L/R........ 10Hz ～ 100kHz、＋ 0/ － 3dB

• 全高調波歪率
PHONO（MM）→ AV OUT（20Hz ～ 20kHz、1V）........ 0.02% 以下
AV1 他 → フロント L/R（20Hz ～ 20kHz、70W/8Ω）........ 0.04% 以下

• S/N 比（IHF-A ネットワーク）
PHONO（MM）（入力ショート、2.5mV）→ AV OUT........ 80dB 以上
AUDIO2 他（入力ショート、250mV）→ フロント L/R........ 100dB 以上

• 残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
フロント L/R .... 150μV 以下

• チャンネルセパレーション
PHONO（入力ショート、1kHz/10kHz）........ 60dB/55dB 以上
AV1 他（入力 5.1kΩ ショート、1kHz/10kHz）........ 60dB/45dB 以上

• 音量調整
メインゾーン .... MUTE/ － 80 ～＋ 16.5dB
ゾーン 2、ゾーン 3........ MUTE/ － 80 ～＋16.5dB

• トーンコントロール特性
メインゾーン（フロント、センター、サブウーファー）
- Bass 可変幅 .... ± 6dB/50Hz
- Bass ターンオーバー周波数 350Hz
- Treble 可変幅 .... ± 6dB/20kHz
- Treble ターンオーバー周波数 3.5kHz
ゾーン 2、ゾーン 3
- Bass 可変幅 .... ± 10dB/100Hz
- Bass ターンオーバー周波数 350Hz
- Treble 可変幅 .... ± 10dB/10kHz
- Treble ターンオーバー周波数 3.5kHz

• フィルター特性（fc ＝ 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz）
ハイパスフィルター（フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック：小）
.... 12dB/oct.
ローパスフィルター（サブウーファー）........ 24dB/oct.

● ビデオ部

• ビデオ信号方式
モニター出力／ゾーン出力（壁紙／オンスクリーンディスプレイ）........ NTSC/PAL
ビデオコンバージョン .... NTSC/PAL

• コンポジットビデオ信号レベル........ 1Vp-p/75Ω

• S ビデオ信号レベル
Y........ 1Vp-p/75Ω
C........ 0.286Vp-p/75Ω

• コンポーネントビデオ／ D4 ビデオ信号レベル
Y........ 1Vp-p/75Ω
P_B/P_R 0.7Vp-p/75Ω

• ビデオ最大許容入力（ビデオコンバージョン：オフ）........ 1.5Vp-p 以上

• S/N 比（ビデオコンバージョン：オフ）........ 60dB 以上

• 周波数帯域（MONITOR OUT/ZONE OUT、ビデオコンバージョン：オフ）
コンポーネントビデオ／ D4 ビデオ .... 5Hz ～ 100MHz、± 3dB

● FM チューナー部

- 受信周波数範囲........76.0MHz ～ 90.0MHz
- 50dB SN 感度（IHF）
  モノラル........3.0 μV（20.8dBf）
- S/N 比（IHF）
  モノラル........74dB
  ステレオ........70dB
- 歪率（1kHz）
  モノラル........0.3%
  ステレオ........0.3%
- アンテナ入力........75Ω（アンバランス）

● AM チューナー部

- 受信周波数範囲........531kHz ～ 1611kHz

● 総合

- 電源電圧........AC 100V、50/60Hz
- 消費電力........280W
- 待機電力（参考値）
  HDMI コントロール：オフ／スタンバイスルー：オフ........0.3W 以下
  HDMI コントロール：オン／スタンバイスルー：オン
  （入力：AV1、HDMI 無信号時）........2.7W
  ネットワークスタンバイ：オン........4.5W
- 寸法（幅×高さ×奥行き）........435 × 182 × 430mm
- 質量........18.5kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

A

B

C

D

E

F

H

I

L

M

O

P

R

S

T

U

V

Y

数字

Information about software

This product uses the following free software.
For information (copyright, etc) about each software, read the original sentences stated below.

About The Independent JPEG Group's JPEG software

The Independent JPEG Group's JPEG software

README for release 8b of 16-May-2010

This distribution contains the eighth public release of the Independent JPEG Group's free JPEG software. You are welcome to redistribute this software and to use it for any purpose, subject to the conditions under LEGAL ISSUES, below.

This software is the work of Tom Lane, Guido Vollbeding, Philip Gladstone, Bill Allombert, Jim Boucher, Lee Crocker, Bob Friesenhahn, Ben Jackson, Julian Minguillon, Luis Ortiz, George Phillips, Davide Rossi, Ge' Weijers, and other members of the Independent JPEG Group.

IJG is not affiliated with the official ISO JPEG standards committee.

DOCUMENTATION ROADMAP

This file contains the following sections:

OVERVIEW	General description of JPEG and the IJG software.
LEGAL ISSUES	Copyright, lack of warranty, terms of distribution.
REFERENCES	Where to learn more about JPEG.
ARCHIVE LOCATIONS	Where to find newer versions of this software.
ACKNOWLEDGMENTS	Special thanks.
FILE FORMAT WARS	Software *not* to get.
TO DO	Plans for future IJG releases.

Other documentation files in the distribution are:

User documentation:

install.txt	How to configure and install the IJG software.
usage.txt	Usage instructions for cjpeg, djpeg, jpegtran, rdjpgcom, and wrjpgcom.
*.1	Unix-style man pages for programs (same info as usage.txt).
wizard.txt	Advanced usage instructions for JPEG wizards only.
change.log	Version-to-version change highlights.

Programmer and internal documentation:

libjpeg.txt	How to use the JPEG library in your own programs.
example.c	Sample code for calling the JPEG library.
structure.txt	Overview of the JPEG library's internal structure.
filelist.txt	Road map of IJG files.
coderules.txt	Coding style rules --- please read if you contribute code.

Please read at least the files install.txt and usage.txt. Some information can also be found in the JPEG FAQ (Frequently Asked Questions) article. See ARCHIVE LOCATIONS below to find out where to obtain the FAQ article.
If you want to understand how the JPEG code works, we suggest reading one or more of the REFERENCES, then looking at the documentation files (in roughly the order listed) before diving into the code.

OVERVIEW

This package contains C software to implement JPEG image encoding, decoding, and transcoding. JPEG (pronounced "jay-peg") is a standardized compression method for full-color and gray-scale images.
This software implements JPEG baseline, extended-sequential, and progressive compression processes. Provision is made for supporting all variants of these processes, although some uncommon parameter settings aren't implemented yet.
We have made no provision for supporting the hierarchical or lossless processes defined in the standard.

We provide a set of library routines for reading and writing JPEG image files, plus two sample applications "cjpeg" and "djpeg", which use the library to perform conversion between JPEG and some other popular image file formats.
The library is intended to be reused in other applications.

In order to support file conversion and viewing software, we have included considerable functionality beyond the bare JPEG coding/decoding capability; for example, the color quantization modules are not strictly part of JPEG decoding, but they are essential for output to colormapped file formats or colormapped displays. These extra functions can be compiled out of the library if not required for a particular application.

We have also included "jpegtran", a utility for lossless transcoding between different JPEG processes, and "rdjpgcom" and "wrjpgcom", two simple applications for inserting and extracting textual comments in JFIF files.

The emphasis in designing this software has been on achieving portability and flexibility, while also making it fast enough to be useful. In particular, the software is not intended to be read as a tutorial on JPEG. (See the REFERENCES section for introductory material.) Rather, it is intended to be reliable, portable, industrial-strength code. We do not claim to have achieved that goal in every aspect of the software, but we strive for it.

We welcome the use of this software as a component of commercial products.
No royalty is required, but we do ask for an acknowledgement in product documentation, as described under LEGAL ISSUES.

LEGAL ISSUES

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:
(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA.
ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable. The same holds for its supporting scripts (config.guess, config.sub, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by X Consortium but is also freely distributable.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files. To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce "uncompressed GIFs". This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that

> "The Graphics Interchange Format© is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

REFERENCES

We recommend reading one or more of these references before trying to understand the innards of the JPEG software.

The best short technical introduction to the JPEG compression algorithm is

> Wallace, Gregory K. "The JPEG Still Picture Compression Standard", Communications of the ACM, April 1991 (vol. 34 no. 4), pp. 30-44.

(Adjacent articles in that issue discuss MPEG motion picture compression, applications of JPEG, and related topics.) If you don't have the CACM issue handy, a PostScript file containing a revised version of Wallace's article is available at

> http://www.ijg.org/files/wallace.ps.gz.

The file (actually a preprint for an article that appeared in IEEE Trans. Consumer Electronics) omits the sample images that appeared in CACM, but it includes corrections and some added material. Note: the Wallace article is copyright ACM and IEEE, and it may not be used for commercial purposes.

付録

A somewhat less technical, more leisurely introduction to JPEG can be found in "The Data Compression Book" by Mark Nelson and Jean-loup Gailly, published by M&T Books (New York), 2nd ed. 1996, ISBN 1-55851-434-1. This book provides good explanations and example C code for a multitude of compression methods including JPEG. It is an excellent source if you are comfortable reading C code but don't know much about data compression in general. The book's JPEG sample code is far from industrial-strength, but when you are ready to look at a full implementation, you've got one here...

The best currently available description of JPEG is the textbook "JPEG Still Image Data Compression Standard" by William B. Pennebaker and Joan L. Mitchell, published by Van Nostrand Reinhold, 1993, ISBN 0-442-01272-1.
Price US$59.95, 638 pp. The book includes the complete text of the ISO JPEG standards (DIS 10918-1 and draft DIS 10918-2).
Although this is by far the most detailed and comprehensive exposition of JPEG publicly available, we point out that it is still missing an explanation of the most essential properties and algorithms of the underlying DCT technology.
If you think that you know about DCT-based JPEG after reading this book, then you are in delusion. The real fundamentals and corresponding potential of DCT-based JPEG are not publicly known so far, and that is the reason for all the mistaken developments taking place in the image coding domain.

The original JPEG standard is divided into two parts, Part 1 being the actual specification, while Part 2 covers compliance testing methods. Part 1 is titled "Digital Compression and Coding of Continuous-tone Still Images, Part 1: Requirements and guidelines" and has document numbers ISO/IEC IS 10918-1, ITU-T T.81. Part 2 is titled "Digital Compression and Coding of Continuous-tone Still Images, Part 2: Compliance testing" and has document numbers ISO/IEC IS 10918-2, ITU-T T.83.
IJG JPEG 8 introduces an implementation of the JPEG SmartScale extension which is specified in a contributed document at ITU and ISO with title "ITU-T JPEG-Plus Proposal for Extending ITU-T T.81 for Advanced Image Coding", April 2006, Geneva, Switzerland. The latest version of the document is Revision 3.

The JPEG standard does not specify all details of an interchangeable file format. For the omitted details we follow the "JFIF" conventions, revision 1.02. JFIF 1.02 has been adopted as an Ecma International Technical Report and thus received a formal publication status. It is available as a free download in PDF format from http://www.ecma-international.org/publications/techreports/E-TR-098.htm.
A PostScript version of the JFIF document is available at http://www.ijg.org/files/jfif.ps.gz.
There is also a plain text version at http://www.ijg.org/files/jfif.txt.gz, but it is missing the figures.

The TIFF 6.0 file format specification can be obtained by FTP from ftp://ftp.sgi.com/graphics/tiff/TIFF6.ps.gz.
The JPEG incorporation scheme found in the TIFF 6.0 spec of 3-June-92 has a number of serious problems.
IJG does not recommend use of the TIFF 6.0 design (TIFF Compression tag 6).
Instead, we recommend the JPEG design proposed by TIFF Technical Note #2 (Compression tag 7). Copies of this Note can be obtained from http://www.ijg.org/files/.
It is expected that the next revision of the TIFF spec will replace the 6.0 JPEG design with the Note's design.
Although IJG's own code does not support TIFF/JPEG, the free libtiff library uses our library to implement TIFF/JPEG per the Note.

ARCHIVE LOCATIONS

The "official" archive site for this software is www.ijg.org.
The most recent released version can always be found there in directory "files". This particular version will be archived as http://www.ijg.org/files/jpegsrc.v8b.tar.gz,
and in Windows-compatible "zip" archive format as http://www.ijg.org/files/jpegsr8b.zip.

The JPEG FAQ (Frequently Asked Questions) article is a source of some general information about JPEG.

It is available on the World Wide Web at
http://www.faqs.org/faqs/jpeg-faq/
and other news.answers archive sites, including the official news.answers archive at rtfm.mit.edu:
ftp://rtfm.mit.edu/pub/usenet/news.answers/jpeg-faq/.

If you don't have Web or FTP access, send e-mail to
mail-server@rtfm.mit.edu
with body

send usenet/news.answers/jpeg-faq/part1
send usenet/news.answers/jpeg-faq/part2

ACKNOWLEDGMENTS

Thank to Juergen Bruder for providing me with a copy of the common DCT algorithm article, only to find out that I had come to the same result in a more direct and comprehensible way with a more generative approach.

Thank to Istvan Sebestyen and Joan L. Mitchell for inviting me to the ITU JPEG (Study Group 16) meeting in Geneva, Switzerland.

Thank to Thomas Wiegand and Gary Sullivan for inviting me to the Joint Video Team (MPEG & ITU) meeting in Geneva, Switzerland.

Thank to John Korejwa and Massimo Ballerini for inviting me to fruitful consultations in Boston, MA and Milan, Italy.

Thank to Hendrik Elstner, Roland Fassauer, Simone Zuck, Guenther Maier-Gerber, Walter Stoeber, and Fred Schmitz for corresponding business development.

Thank to Nico Zschach and Dirk Stelling of the technical support team at the Digital Images company in Halle for providing me with extra equipment for configuration tests.

Thank to Richard F. Lyon (then of Foveon Inc.) for fruitful communication about JPEG configuration in Sigma Photo Pro software.

Thank to Andrew Finkenstadt for hosting the ijg.org site.

Last but not least special thank to Thomas G. Lane for the original design and development of this singular software package.

FILE FORMAT WARS

The ISO JPEG standards committee actually promotes different formats like "JPEG 2000" or "JPEG XR" which are incompatible with original DCT-based JPEG and which are based on faulty technologies. IJG therefore does not and will not support such momentary mistakes (see **REFERENCES**).
We have little or no sympathy for the promotion of these formats. Indeed, one of the original reasons for developing this free software was to help force convergence on common, interoperable format standards for JPEG files.
Don't use an incompatible file format!
(In any case, our decoder will remain capable of reading existing JPEG image files indefinitely.)

TO DO

Version 8 is the first release of a new generation JPEG standard to overcome the limitations of the original JPEG specification.
More features are being prepared for coming releases...

Please send bug reports, offers of help, etc. to jpeg-info@uc.ag.

About PNG Reference Library

付録

About zlib Library

Copyright notice:

Jean-loup Gailly　　Mark Adler
jloup@gzip.org　　madler@alumni.caltech.edu

If you use the zlib library in a product, we would appreciate *not* receiving lengthy legal documents to sign. The sources are provided for free but without warranty of any kind. The library has been entirely written by Jean-loup Gailly and Mark Adler; it does not include third-party code.

If you redistribute modified sources, we would appreciate that you include in the file ChangeLog history information documenting your changes. Please read the FAQ for more information on the distribution of modified source versions.

About FLAC codec Library

Notice for Windows Media DRM

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.
Content owners use Windows Media digital rights management technology (WMDRM) to protect their intellectual property, including copyrights. This device uses WMDRM software to access WMDRM protected content. If the WMDRM software fails to protect the content, content owners may ask Microsoft to revoke the software's ability to use WMDRM to play or copy protected content. Revocation does not affect unprotected content. When you download licenses for protected content, you agree that Microsoft may include a revocation list with the licenses. Content owners may require you to upgrade WMDRM to access their content. If you decline an upgrade, you will not be able to access content that requires the upgrade.

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。
http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-4830

FAX （053）463-1127

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋　〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪　〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日から1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1